

基礎分野

学科目 (単元)	ロジカルシンキングと クリティカルシンキング	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期
目的	<p>看護場面だけでなく、日常生活においてもさまざまな情報を取得し、それを理解・解釈し、実際の行動に移すことが必要になっている。そのためには、取得する情報を正確に理解・解釈する必要がある。情報を正確に理解・解釈し、さらにそれを他者に伝えるにはどのようにすべきなのだろうか。</p> <p>また、問題解決には、「物事を筋道立てて考える力」である論理力（ロジカルシンキング）が必要である。</p> <p>本科目は、情報を正確に理解し、批判的・客観的視点を持って解釈した上で、他者に伝えるようにできるようになること、論理的に文章化する能力を養うことを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 取得した情報を正確に理解し、批判的・客観的視点を持って解釈できるようになる。 論理的思考に基づいた文章表現ができるようになる。 取得した情報を、論理的に他者に伝えられるようになる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス この科目で行うこと 論理とは何か、批判的思考とは何か どのような情報が日常生活にあるのか 日常生活で情報を取得することの意味とは 情報を受け取る手段とその特徴 取得情報は、本物か？ 批判的に情報を観察するⅠ 批判的に情報を観察するⅡ 観察した情報をまとめてみるⅠ（論理的な文章にするには） 観察した情報をまとめてみるⅡ（論理的な文章を書いてみる） まとめた情報をさらに観察してみるⅠ（自分の論拠は正しいか） まとめた情報をさらに観察してみるⅡ（自分の論拠を補強するには） 他者が理解できるよう言語化するⅠ 他者が理解できるよう論理的に言語化するⅡ まとめ 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	<p>講義の一方向だけではなく双方向的な「アクティブ・ラーニング」的な授業方法も取り入れ個人・グループワークも併せて実施する予定です。</p>						
履修上の 助言	<p>生活する上でどのように情報を取得しているのかに注意を払っておきましょう。</p> <p>講義を聞いて理解するだけでなく、実際に書いてみる、そして話してみるという作業に対して積極的に取り組むという態度がなによりも大事です。</p>						
テキスト 参考書	<p>特に指定しない。毎回、プリントを配布する。</p>						
評価方法	<p>レポート(提出状況、および内容)が70点、試験30点で、合計100点満点で採点します。</p> <p>レポートなどについては、執筆内容により点数化を行います。</p> <p>合計得点が60点以上を合格とします。</p>						

学科目 (単元)	医療情報リテラシー	講師名	外 来 講 師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目的	<p>近年、看護業界の情報化対応が急速に進んでいる。そのため、学生の立場からすると学習すべき内容の更新・増加速度が著しく、特に実践的な知識に関するものは、数年前のテキストが全く役に立たない状況にある。この傾向は当面続くことが予見できる。そのため、本科目では基本的な ICT 機器の活用を学ぶ。また、情報倫理をふまえ、多くの情報の中から必要な情報・信頼性のある情報を絞り込み、情報の価値を高めることが出来る能力、看護実践に活かせる能力を養う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理の基礎を理解する。 ・ Excel・PowerPoint の基礎 を理解する。 ・ Excel・PowerPoint の基礎 を活用する。 ・ 医療における情報倫理、信頼性について考察する。 ・ 電子カルテ等の医療情報システムの活用法を理解する。 ・ データ分析基礎を理解する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハードウェア 2. ソフトウェアとマルチメディア、Excel の基礎 I 3. Excel の基礎 II 4. PowerPoint の基礎 I 5. PowerPoint の基礎 II 6. システム構成 7. ネットワーク 8. 情報倫理と情報セキュリティ 9. データベース 10. アルゴリズムとプログラミング 11. 医療情報システムの現状 I 12. 医療情報システムの現状 II 13. データ分析基礎 I 14. データ分析基礎 II 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	一般教室での座学講義と情報処理室での実習						
履修上の助言	<p>ちょっとした計算を行うための共同作業や、PC 実習の仕上げのために、仲間うちで教え合ったり等クラス内での協力が不可欠になるので、近くの席の学生と一緒にうちとけて学習できる環境を作っておくと便利である。</p>						
テキスト 参考書	<p>令和 04 年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる 栢木先生の IT パスポート教室 (技術評論社) 30 時間でマスター Excel2019 (実教出版) 30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019: Windows10 対応 (実教出版) 事例でわかる情報モラル2022 (実教出版)</p>						
評価方法	筆記試験 100% 出題範囲を事前に告知する。						

学科目 (単元)	教育学	講師名	外 来 講 師	単位 (時間)	1単位 15時間	1年	後期
目的	<p>人々の心とからだの健康を支援するために、看護師は患者の理解と指導の重要な役割を担っている。患者を理解し、指導を行うには、対象を理解し、様々なスタンスで教育的な関係を構築し、適切な方法で指導内容を提示できる力量やプレゼンテーション能力が必要となる。</p> <p>また、生涯学び続ける看護師という観点から、自ら学ぶ力、実践の現場で同僚と共に新たな知識や技術を生み出す力を育むことも求められる。そのための基盤として、教育学の基本と教育方法、教育実践の形態などを学習する。</p> <p>教育学は、基礎看護学の「指導技術」の重要な基礎をなす科目である。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育的な関わり方、対象者へのアプローチの方法を理解し、看護実践の場で、個々の状況と対話しつつ、対象者に応じた適切な教育・指導を行う。 ・時代の変化の中で教育や学校が担ってきた役割をふまえて、知識基盤社会において求められる、自ら学び続ける姿勢を身につける。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育」とは何か(第2章)、教育における技術的実践と省察的実践 2. <教える><学ぶ>関係性(第6章) 3. 自己指導力をどのように育てるか(1) - 臨床的生徒指導の三つの類型 4. 自己指導力をどのように育てるか(2) - 体罰、教育虐待を考える 5. 特別ニーズ教育、インクルーシブ教育(第17章) 6. 教育の組織化-学校(第5章、第10章) 7. 教育の場の変動と課題(第14章) 8. 単位認定試験(学習時間なし) 						
教育方法	<p>講義形式とグループ学習の二つの方式をミックスして授業を進めます。教育学の知識、技法の定着よりも、それを使って、自分なりに教育問題を整理し、分析し、他者に語りかける力を養える授業をめざします。</p>						
履修上の助言	<p>教育学を学ぶということは、ある意味では、文化や他者との応答を開始することに他なりません。リラックスした雰囲気の中で、参加者(講師、受講者)一人ひとりの語りに耳を傾け、他者や自己と対話する時間にしたいと思います。</p>						
テキスト 参考書	<p>【テキスト】 授業時の配布プリント 系統看護学講座 基礎分野 『教育学』 医学書院</p> <p>【参考書】 高橋勝 『学校のパラダイム転換』 川島書店 高橋勝 『文化変容のなかの子ども』 東信堂</p>						
評価方法	<p>筆記試験</p>						

学科目 (単元)	看護と外国語	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	3年	前期
目的	国際化が進み、多様化する医療現場において英語力は欠くことのできないものである。世界の共通語である英語を学習することにより、言葉の意識を高め、多様なニーズに対応できる看護師を育成する。また基本的な知識をもとに、「話す英会話」を大切にし、英語で自己表現することで「伝える・受け止める」人間関係の基本を学ぶ。また恥ずかしがらずに自分の中にあるタレント性に気づき、伝える・受け取ることを学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話の基礎を学習する。 ・基礎英語となる言葉や文法を使用する。 ・看護師として必要な言葉を英語で表現する。 ・医療現場に必要な簡単コミュニケーションをする。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英会話の心構え ABCの発音 PHONICS 2. 自己紹介 Question & Answer 3. はじまりのあいさつ 終わりのあいさつ 4. 4パターンの基礎英語/Yes&No, OR, W&H, STATEMENT 5. 色々なQuestionの練習 6. 調べる・書くワーク (使える慣用句) 7. 調べる・書くワーク (ナースのための英単語) 8. 外国人を助ける英語での問診 9. ミニ英会話 (ドクターVSナース) 10. ミニ英会話 (ドクターVS患者) 11. ミニ英会話 (ナースVS患者) 12. ミニ英会話 (患者VS医療事務員) 13. ミニ英会話 (患者VS薬剤師) 14. リハーサル (ミニ英会話) 試験前 15. FINALテスト (二人1組) ナース英会話 						
授業方法	基礎英会話を中心に会話を大切に学習を進めます。 英語を使つてのロールプレイを行います。						
履の修助言	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中はなるべく日本語を話さないこと ・小グループでの授業形態を取るため、チームワーク・協調性が求められる。一人ひとりが自覚を持って授業に参加すること。 ・講義初日に付けた英語名で講義に出席する。 ・講義のまとめとして、英語でのプレゼンテーションを行う。 						
参考書	BRSオリジナルテキスト「English Conversation For Nursing 2021」 参考文献 随時提示						
評価方法	ショート英語劇 授業態度 出席状況 提出課題 (BRS オリジナルテキスト) で総合的に評価						

学科目 (単元)	生活者の理解と ソーシャルマナー	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期 後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の基礎には、看護の対象者の「生活」に焦点をあて、生活を調整するという考え方があり、「人の生活とは何なのか」を知ることが重要である。その上で、これまで当たり前のように送っていた生活が病気や障害によってできなくなった時、どのような支援が必要になるかを、看護師として考えられる力が求められている。そのため、生活を総合的に捉える力を身につけることを目的とする。 ・近年療養する場所は変化しており医療接遇は学生時から身につける必要がある。ソーシャルマナーは社会人としての価値観と人間性の基盤であり、人間関係の原点をなすものである。社会で通用する「当たり前のことを当たり前に行える力」である、礼儀、立ち居振る舞いを身につけ、看護実習や普段の生活に活かせることを目的とする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活者」の視点に立って生活の構成要素を理解し、人の生活を総合的に捉える。 ・病気や障害によって生活にどのような影響が生じるのか、自分で生活を整えられない際にどのような支援が求められるのかを想像できる力を身につける。 ・医療者として必要なマナーを説明する。 ・正しい言葉遣い、身だしなみ、メイクを実践する 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活・家計 生活とは/家計とは 2. 食生活(1) 望ましい食生活/食生活と健康 3. 食生活(2) 食品のおいしさ/食品の安全性 4. 衣生活(1) 衣生活と健康/快適な衣服 5. 衣生活(2) 衣服管理 6. 住生活 住生活と健康 7. 住生活 住環境の整備 8. 健康弱者の生活(1) 健康弱者の生活を考える 9. 健康弱者の生活(2) 健康弱者が生活に与える影響 まとめ 10. ソーシャルマナーの概念、社会人に必要とされるマナー医療機関における接遇、自己分析 11. マナーコミュニケーション 12. ウォーキング、姿勢、表情、身だしなみ、メイク 13. クッション言葉・尊敬語・謙譲語を正しく使うトレーニング 14. ビジネス文書、電話の掛け方、携帯電話、メールでの挨拶や決まり言葉 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	<p>スライドと配布資料を用いた講義を基本とします。 必要に応じて、ペアワークやグループワークによる演習を行います。 ソーシャルマナーでは演習を多く行います。</p>						
履修上の助言	<p>普段何気なく送っている自分自身の生活を振り返りながら講義を受けることで、授業内容についての理解が深まります。普段からマナーに気を付け、意識して身の回りことは自分で行う、授業で学んだことを日々の生活で実践するなど、日常の中での生活体験をぜひ積極的に蓄積してください。</p>						
テキスト 参考書	<p>パワーポイント等を印刷した資料で講義を行うため、テキストは指定しません。 参考書は必要に応じて紹介します。</p>						
評価方法	<p>筆記試験・提出物</p>						

学科目 (単元)	生命医療倫理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	後期
目的	<p>ここ数十年で生命操作技術が飛躍的に向上し、また医療者と患者（及び家族）との関係が変化したことによって、伝統的な職業倫理だけでは必ずしも対応できないような問題が生じている。今日、生命倫理（あるいは医療倫理）と呼ばれる分野で何が問われているのかを概観する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命と医療をめぐる倫理的問題について議論するための知識を身に着ける。 ・自分の考えをまとめ、人に伝える方法を習得する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学の基礎 2. 医療倫理の誕生と展開 3. 脳死と臓器移植 4. 脳死と臓器移植 2 5. 安楽死 1 6. 安楽死 2 7. 生殖補助医療 1 8. 生殖補助医療 2 9. 人工妊娠中絶 10. エンハンスメント 11. ロングフルライフ訴訟 12. ケアの倫理 1 13. ケアの倫理 2 14. 全体のまとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	<p>講義 グループワーク（状況による）</p>						
履修上の助言	<p>人間の身体や生命にかかわる諸問題、あるいは現代の医療が直面する数々の倫理的難問について、自分で考えてみましょう。その際、視点をひとつに固定するのではなく、医療従事者、患者本人、家族などさまざまな立場を想定することが大切です。</p>						
テキスト 参考書	<p>系統看護学講座 看護倫理 医学書院</p>						
評価方法	<p>筆記試験</p>						

学科目 (単元)	発達心理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	1年	前期
目的	<p>ひとは生まれてから亡くなるまで、その生涯全体を通して成長し、変化していく存在である。この生涯全体を通して絶えず生じる心身の変化を発達と言う。私たちが1年間を四季に分けてその経過を理解するのと同じように、ひとの発達のな変化もある程度大きなまとまりに分けることで理解がしやすくなる。</p> <p>本講義では、このような発達心理学の知見を学ぶことで、ひとの人生のさまざまな時期における発達のな特徴を理解することを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達心理学の主要な理論を知り、その特徴や主な知見について理解する。 ・ひとの発達の各段階における特徴を理解する。 ・各発達段階の理解を通じて、ひとの生涯全体を見通す視点を持つ。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 発達心理学とは何か 2. 看護における発達心理学 3. 乳児期・幼児期前半の発達 4. 幼児期後半・児童期の発達 5. 思春期/青年期の発達 6. 成人期・老年期の発達 7. まとめ 8. 単位認定試験 (学習時間なし) 						
教育方法	講義						
履修上の助言	<p>講義を中心にすすめていきますが、記入式のワークや小グループでの共有、クラス全体で共有のための発表なども行います。</p> <p>受け身にならず、積極的にご参加ください。</p>						
テキスト 参考書	<p>テキスト：看護のための人間発達学 第5版 医学書院</p> <p>参考書：エピソードでつかむ生涯発達心理学 ミネルヴァ書房</p> <p>図でよむ心理学 発達 福村出版</p>						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	臨床心理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期
目的	<p>心理学の基本的理念を理解し、人間のこころを理解するための基礎的な知識を身につける。また、各発達段階において臨床心理学の視点から、心のとらえ方・考え方、さらに心の問題に対する援助の方法を学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己分析を通して習得した客観的な尺度をもって患者の人格を理解する。 ・患者のQOL向上の支障となる問題行動の発達の・心理的な背景を洞察する。 ・患者の置かれた環境に配慮した心理的支援を提案し、自らも実践する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学とは 2. 心理アセスメント(心理テスト) 3. 心理アセスメント(心理テスト 施行と解説) 4. 心理アセスメント(自我形成のアセスメント①) 5. 心理アセスメント(自我形成のアセスメント②) 6. 心理アセスメント(対人関係のアセスメント) 7. 心理アセスメント(燃え尽きのアセスメント) 8. 心理アセスメント(観察訓練) 9. 臨床心理学の実践 I ①人生の心理的発達課題 10. 臨床心理学の実践 I ②自己像の崩壊 11. 臨床心理学の実践 I ③自己像の再生 12. 心理療法概論 13. 患者と家族の心理 14. まとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	<p>講義 演習</p>						
履修上の助言	<p>臨床心理学は、座学による知識の習得だけで終わる学問ではありません。看護の現場で使える「スキル」を身につけていただくために、さまざまな演習を通して、体験的に学んでいただきたいものがたくさんあります。演習はその時限りしか体験できない時間と考えて、積極的に参加してください。</p>						
テキスト 参考書	<p>新体系 看護学全集 基礎科目 心理学 メヂカルフレンド社</p>						
評価方法	<p>筆記試験 レポート</p>						

学科目 (単元)	現代日本と 多文化の理解	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	3年	前期
目的	<p>グローバル化の中、文化的背景が異なる国の人々が共に社会生活を営むようになり、看護実践の場でも異なる文化的背景を持つ人々へのケアの提供が求められるようになってきている。</p> <p>現代の日本においても、地域特有の風俗や習慣があり、様々な背景を持ちながら生活している人々がいることを理解し、身近にある「多文化」を知ることが必要である。</p> <p>本科目では、「人間とはいかなる存在であるか」という問いをもちつつ、多種多様な文化とその価値観への理解を深め、対象者の文化を尊重した看護の在り方について考えることにつながる基礎知識を学習する科目である。</p>						
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の文化の基本的な性格を説明する。 ・ 宗教のもつ世界観について説明する。 ・ 身体という観点から異なる文化を理解し、違いを説明する。 ・ いのちという視点から異なる文化を理解し、自らの考えを述べる。 						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化を理解するために：文化人類学とは何か、フィールドワーク 2. 現代日本の中の多文化 3. 生活の中の風俗や風習：通過儀礼 4. 宗教と世界観1 5. 宗教と世界観2 6. 文化と身体 7. 医療と人類学 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教 育 方 法	講義（文化と身体の際は、一部実習を含む）						
履 修 上 の 助 言	自身の日常生活を一度、第三者的な視点から観察してみよう。 クラスの友人と、それぞれの地元の話をしてみよう。						
テ キ ス ト 参 考 書	系看 基礎分野 文化人類学 第4版 医学書院						
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	看護と社会学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期
目的	<p>現在、個人レベルではアイデンティティの揺らぎ、コミュニケーション能力の全般的な低下、離職率の増加などが社会問題として取り上げられています。また、中間集団のレベルでは、これまで社会の秩序を担ってきた家族、学校、会社などの集団や組織の機能不全が見られます。より全体的な社会レベルでは、高齢化、人口減少、環境問題など、これから対処していかなければならない課題が山積しています。現在、多様なレベルで発生しているこれらの問題をどのように理解し、どのように自分の生き方を選択していけばよいのでしょうか。</p> <p>この授業の目的は、このような疑問を、社会学の議論を軸に解説、解決していくことにあります。</p>						
到達目標	<p>社会学の基本的な考え方や概念を通して、自己・自我の成り立ち、身近な人間関係やコミュニケーションのあり方、学校・会社・地域社会などの集団や組織の仕組み、さらに皆さんが置かれているより大きな社会状況を理解してもらうことが目標になります。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス / 社会学とはどのような研究領域なのか。 2. 相互作用論 (1) 役割理論 3. 相互作用論 (2) シンボリック相互作用論 4. 相互作用論 (3) コミュニケーション論 5. 現代社会の「私」の特徴 ⇒現代社会における「私」という存在を「自我論」を紹介しながら解説します。 6. 現代の労働を考える ⇒現代社会の「労働」をめぐるさまざまな問題を各種データに基づき解説します。 7. 労働と自己実現 ⇒現代の「労働」と「自己実現」をめぐる問題を取り扱います。 8. 集団の社会学 ⇒社会学における「集団」や「組織」について解説します。 9. 現代社会の集団の特徴 ⇒現代社会の「集団」の特徴とその問題点などについて解説します。 10. 地域社会と地域医療の問題 ⇒地域社会と地域医療をめぐる問題を解説します。 11. リサーチリテラシーを使って現代社会と人間関係を読み解く 12. 家族の歴史的变化と家族観の変化 13. 現代家族の諸問題①少子化と家族 14. 現代家族の諸問題②家族関係の視点から高齢者犯罪を学ぶ 15. 学習時間あり・単位認定試験 <p>*なお、内容については受講生の関心に応じて変更することもあります。</p>						
教育方法	<p>基本的にパワーポイントを使用した講義形式を予定しています。また必要に応じて、視覚映像などを用いることもあります。</p>						
履修上の助言	<p>現在の社会にはどのような問題が発生しているのかニュースや新聞等を通して把握しておいてください。</p>						
テキスト 参考書	<p>テキスト 講義時の配布プリント 参考書 ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院</p>						
評価方法	<p>筆記試験</p>						

学科目 (単元)	人間関係と コミュニケーションⅠ (講義・学内研修)	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期 後期
目的	<p>【講義】 臨床では、医療スタッフ同士、医療者と患者など、異なる立場の人々との異質性や多様性を尊重し合うコミュニケーションが求められます。また、看護師（対人援助職）として良好な人間関係を構築するためには、相手の気持ちを我がことのように感じとれる温かみのあるコミュニケーションスキルや、率直に伝え合いながらもさらに人間関係がよくなるコミュニケーションスキルを身につけることが必要になります。 本講義は、より良い相互関係を築くコミュニケーションの基礎の理論と実践を学び身につけることを目的として学習をしていきます。</p> <p>【学内研修】 看護職と患者との関係を築くうえで、両者の間に確かな信頼関係が不可欠なのは言うまでもない。しかし、ともしればこれまでの生活史の中で、対人関係を築くことの難しさばかりが記憶に残り、他者への共感や自己開示などへの動機づけを損ねてしまっていることが少なくない。これを性格の表れとして放置してしまうと、実習はおろか看護の現場での円滑なコミュニケーションに支障が生じる恐れがある。他者の意思を冷静に受け止め、自分の言葉で意思を伝達する力を養うことによって、関係づくりへの動機づけを体験的に高めていくことを目的とします。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互関係を大切にされたコミュニケーションの基礎知識を獲得する。 ・ 相互関係を大切にされたコミュニケーションの基礎スキルを身につける。 ・ 他者の意思を冷静に受け止め、自分の言葉で意思を伝達する力を養う。 ・ 関係づくりへの動機づけを体験的に高めていく。 ・ クラスメイト・講師との円滑なコミュニケーションを取る。 ・ 既成の自己像をあらためて見直すために研修に参加する。 						
授業計画	<p>【講義】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. より良い相互関係を築くコミュニケーションとは ガイダンスおよび概論 2. ところを通わせるコミュニケーションスキル1 非言語コミュニケーションとアクティブリスニング 3. ところを通わせるコミュニケーションスキル2 聞くこと、聴くこと 4. ところを通わせるコミュニケーションスキル3 感情の理解と自己表現 5. ところを通わせるコミュニケーションスキル4 相手に伝わる自分も相手もOKな伝え方 6. ところを通わせるコミュニケーションスキル5 意見や考えの違う人と率直に伝えあう 7. 自己概念と自己意識 自分を知ってコミュニケーションに活かす 8. 自己マスタリーとストレス対処 ストレスと上手に付き合う行動計画のたてかた 9. 保健行動とプロフェッショナルの面接技法 <p>【学内研修】</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 人間関係づくりの基礎 —— 信頼関係を築く 11. 価値観の違いを越えて —— 無条件の共感とは 12. 傾聴訓練 —— 相手の心を開くために 13. 非言語の意思疎通 —— まず五感を研ぎ澄ますことから 14. 自己開示の自信をつける —— 想いを伝える楽しさを知る <p>15. 【講義】 学習時間なし単位認定試験 【学内研修】 課題提出</p>						

<p>教育方法</p>	<p>講義および自己学習形式（演習シート）、演習形式（ペアワーク、グループワーク）など多様な学習形式を用います。 体験学習・ロールプレイ・ディベート</p>
<p>履修上の助言</p>	<p>講義には多くの演習が含まれるため、みなさんの積極的な参加姿勢を期待しています。また、日常の人間関係の中で、本講義の学びを活用し、より良い関係を築くコミュニケーションを実践してみてください。</p> <p>研修では、小人数でコミュニケーション・スキルを磨くワークショップを行います。体験に基づいて学習する、というパターンを繰り返していきます。対人支援職を志望する強い気持ちと、良好な人間関係を築けるという自信とは、必ずしも一致するわけではありません。後者に苦手意識を抱き、不安に駆られる人も少なくありません。その一方で、後者に独りよがりで過剰な自信を持ってしまって、大きな失敗をする場合もあります。既成の自己像をあらためて見直す覚悟で、参加して下さることを望みます。</p>
<p>テキスト 参考書</p>	<p>オリジナルテキストを使用する。 参考書・参考資料等については、授業内で適宜紹介する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>授業への参加姿勢やワークブックの課題、小テストによって総合的に評価する。(80%) 研修における課題のレポート (20%)</p>

学科目 (単元)	人間関係と コミュニケーションⅡ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	3年	前期
目的	<p>人間は常に合理的な判断に基づいて行動するわけではない。患者や患者家族の病や事故は、それまでの人生を振り返る機会ともなり、医療者の理想とする状態に「相手を変えたい」思いが強く働くほど、患者の有意義な経験を奪うこともある。</p> <p>そのために看護師は、相手の潜在的な欲求も含めたニーズを把握し、相手の世界観に寄り添ったコミュニケーションを意識する必要がある。また、苦手な相手や葛藤場面では、相手の価値観の基礎となる背景に関心を持ち、問題から目を背けず肝心なことを粘り強く伝え、納得し合うアサーティブなコミュニケーションも求められる。本講義では、臨床で起こりやすい葛藤場面を想定し、患者やその家族の心が満足する自己決定や人生選択の支援、医療スタッフとのより良いコミュニケーションの方法を学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・信念対立（人間関係は、異なる価値観を持つもの同士）の多様性を理解する。 ・信念対立解明アプローチを身につける。 ・相手に変化を強くない対話力を身につける。 ・コーチング、カウンセリング、アサーションなどの積極的な対話法を身につける。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係理解①—自分の「コミュニケーションの癖」を知ろう 2. 人間関係理解②—互いの特性を尊重した話し合い 3. 思考を深めるワーク①—患者、患者家族の問題を多角的、俯瞰的に捉え直す 4. 思考を深めるワーク②—患者、患者家族の多様性を尊重した関わり、根気強く言葉の意味を吟味し共有する 5. 患者・患者家族に寄り添う（リスニングスキル） —患者の不安、悲嘆、怒りを聴く 6. 患者・患者家族を力づける（カウンセリングスキル） —患者家族の苦悩（不安、悲嘆、不満）を理解し、力になる 7. 言い出しにくいことを伝える（アサーションスキル） —心から謝罪する、心から励ます、納得がいくまで話し合う 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	<p>既習の基本スキルを復習し、社会学や哲学的な視点を踏まえたコミュニケーション力を養う。講義および自己学習形式（演習シート）、演習形式（ペアワーク、グループワーク）など多様な学習形式を用いる。</p>						
履修上の助言	<p>本講義には多くの演習が含まれるため、みなさんの積極的な参加姿勢が必要となる。理論的な理解だけでなく、臨床場面で本講義での学びをどう活用するかをイメージしながら、受講すること。</p> <p>体験を通して「できる」という実感により自己効力感を高め、うまくいかなかった場合でも、成功につながる多くのヒントを得ていると意識し前向きに学ぶこと。</p>						
テキスト 参考書	<p>オリジナル教材を使用します。</p>						
評価方法	<p>授業への参加姿勢やレポート課題（50%）、試験（50%）によって総合的に評価する。</p>						

学科目 (単元)	健康と運動	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 健康保持増進のための身体運動の必要性およびその実施方法について理解する。 慢性疾患の運動療法につながる基礎的知識について理解する。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と健康の関係との関係を理解する。 運動プログラム開始前の健康状態確認の必要性を理解する。 運動プログラム開始の医学的可否判断基準と、その確認方法を理解する。 スポーツ関連体力と健康関連体力の違いを理解する。 健康・体力づくりのための有酸素性運動の処方を理解する。(計算・運動の演習) 健康・体力づくりのためのレジスタンス・トレーニングの処方を理解する。 (トレーニングの演習) 肥満およびやせと健康の関係を理解する。 肥満とやせの判定方法と、減量が必要な肥満症について理解する。(計算の演習) 食事制限による減量と身体活動による減量の効果の違いを理解する。 減量に必要な身体活動の強度と量を知り、身体活動の計算方法を理解する。(計算の演習) 身体活動中のエネルギー代謝を理解する。 有酸素性のエネルギー代謝を理解する。 筋繊維の種類と介護予防との関連性を理解する。 運動中の熱中症を予防するための環境評価基準と水分・塩分摂取方法を理解する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 生活習慣と健康の関係 運動プログラム開始前の健康状態確認の必要性 運動プログラム開始の医学的可否判断基準 体力の種類と健康との関係 生活習慣病予防と体力づくりのための有酸素性運動の処方 生活習慣病予防と体力づくりのためのレジスタンス・トレーニングの処方 体格と健康の関係 肥満とやせの判定方法と減量が必要な肥満症 減量方法の比較 身体活動による減量 エネルギー代謝 有酸素性のエネルギー代謝 筋繊維組成と介護予防 熱中症 単位認定試験：中間・終講 (学習時間なし) 						
教育方法	講義・演習						
履修上の助言	<p>運動量の計算などを行うため、計算機を持参すると便利である。 %などを含めた小数点以下の数字の処理(四捨五入など)が必要な計算ができるように、準備しておいてください。</p>						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントを印刷した配付資料で講義を進めるため、テキストは指定しない。 参考書等は、随時、紹介する。 						
評価方法	筆記試験(中間試験と終講試験)によって評価する。						

專門基礎 分野

学科目 (単元)	解剖生理学 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	<p>医学の導入である解剖学と関連の大きな細胞と組織、生理学と関連の大きな恒常性の総論。運動器系である骨学と筋学における構造と機能、神経系における構造と機能である感覚情報の受容と処理、処理した情報による運動の発現における知識を身につけ、看護の基礎となる人体の構造と機能を理解する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学の概要を話すことができる。(1・2・3) ・運動器である骨格や筋の類別、個々の骨や筋の特徴と運動の説明ができる。(4・5・6・7・8) ・神経系である中枢神経、末梢神経、伝導路・感覚器の説明ができる。(9・10・11・12・13) ・最大の感覚器である皮膚および、体温コントロールに関する説明ができる。(14) 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学のための基礎知識 ① (ガイダンス) 2. 解剖生理学のための基礎知識 ② (細胞) 3. 解剖生理学のための基礎知識 ③ (組織・体液・ホメオスタシス) 4. 体の支持と運動 ① (骨格系) 5. 体の支持と運動 ② (骨格系) 6. 体の支持と運動 ③ (筋系) 7. 体の支持と運動 ④ (筋系) 8. 体の支持と運動 ⑤ (筋系：運動) 9. 情報の受容と処理 ① (神経系) 10. 情報の受容と処理 ② (神経系) 11. 情報の受容と処理 ③ (神経系) 12. 情報の受容と処理 ④ (神経系) 13. 情報の受容と処理 ⑤ (感覚器系) 14. 身体機能の防御と適応 ① (皮膚・体温) 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義						
履修上の助言	<p>基礎看護学 や 病態治療論 および 臨床の医療行為と関連させながら授業をすすめます。人間の体の構造や機能を知ることは、医療をすすめて行く上で必要不可欠なことです。復習をしっかり行い着実に知識として身に修めてください。講義内容の理解をすすめるために、確認テストをします。</p>						
テキスト 参考書	<p>テキスト 系看 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と理解〔1〕 医学書院 系看 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕 医学書院 参考書 看護につながる形態機能学〔改訂版〕 メヂカルフレンド社 解剖学トレーニングノート 第7版 医学教育出版社</p>						
方法 評価	筆記試験						

学科目 (単元)	解剖生理学Ⅱ	講師名		外来講師		単位 (時間)	1単位 30時間	1年		前期	
目的	<p>循環器である心臓と脈管である動脈・静脈・リンパの構造と機能の違い、呼吸器系における構造と機能であるガス交換のメカニズム、全身を循環する血液と免疫の関係、消化器系における構造と機能である栄養の消化と吸収に関する知識を身につけ、看護の基礎となる人体について理解する。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器のポンプである心臓、脈管である動脈・静脈・リンパの違いについて説明ができる。(1・2・3・4・5) ・血液および免疫について基本的な事の説明ができる。(6・7) ・呼吸器系である器官の類別、各器官の機能についての説明ができる。(8・9・10) ・消化器系である器官の類別、各器官の機能についての説明ができる。(11・12・13・14) 										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の循環とその調節 ① (心臓の構造) 2. 血液の循環とその調節 ② (心臓の構造) 3. 血液の循環とその調節 ③ (心臓の機能) 4. 血液の循環とその調節 ④ (動脈・静脈・リンパの構造) 5. 血液の循環とその調節 ⑤ (動脈・静脈・リンパの機能) 6. 身体機能の防御と適応 ② (免疫) 7. 呼吸と血液のはたらき ① (血液) 8. 呼吸と血液のはたらき ② (呼吸器系) 9. 呼吸と血液のはたらき ③ (呼吸器系) 10. 呼吸と血液のはたらき ④ (呼吸器系) 11. 栄養の消化と吸収 ① (消化器系) 12. 栄養の消化と吸収 ② (消化器系) 13. 栄養の消化と吸収 ③ (消化器系) 14. 栄養の消化と吸収 ④ (消化器系) 15. 学習時間あり・単位認定試験 										
教育方法	講義										
履修上の助言	<p>基礎看護学 や 病態治療論 および 臨床の医療行為と関連させながら授業をすすめます。人間の体の構造や機能を知ることが、医療をすすめて行く上で必要不可欠なことです。復習をしっかり行い着実に知識として身に修めてください。講義内容の理解をすすめるために、確認テストをします。</p>										
テキスト 参考書	<p>テキスト 系看 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と理解〔1〕 医学書院 系看 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕 医学書院 参考書 看護につなげる形態機能学〔改訂版〕 メヂカルフレンド社 解剖学トレーニングノート 第7版 医学教育出版社</p>										
方法 評価	筆記試験										

学科目 (単元)	解剖生理学Ⅲ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	後期
授業の目的	<p>恒常性を維持するために機能する泌尿器系と内臓機能の調節をする器官の構造と機能。発生に関する構造である生殖器と発生から成長を経て老化に至るメカニズムと機能の変化についての知識を身につけ、看護の基礎となる人体について理解する。 解剖見学により、今まで机上で学んだ知識をより確実なものにする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 泌尿器系である器官の類別、各器官の機能および恒常性の説明ができる。(1・2・3・4) 2. 自律性調節である自律神経系とホルモンの機能と恒常性の説明ができる。(5・6・7・8) 3. 人体の発生に関する構造と発生の過程、成長を経て老化の機能の変化とそれに伴う身体変化について説明ができる。(9・10・11・12) 4. 見学により解剖生理学で学んだことを集約して説明することが出来る。(13・14) 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液の調節と尿の生成 ① (泌尿器系) 2. 体液の調節と尿の生成 ② (泌尿器系) 3. 体液の調節と尿の生成 ③ (泌尿器系) 4. 体液の調節と尿の生成 ④ (泌尿器系) 5. 内臓機能の調節 ① (自律性調節) 6. 内臓機能の調節 ② (自律性調節) 7. 内臓機能の調節 ③ (自律性調節) 8. 内臓機能の調節 ④ (自律性調節) 9. 生殖・発生と老化 ① (生殖器系) 10. 生殖・発生と老化 ② (生殖器系) 11. 生殖・発生と老化 ③ (発生・胎児) 12. 生殖・発生と老化 ④ (成長・老化) 13-14. 解剖見学 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義						
履修上の助言	<p>基礎看護学 や 病態治療論 および 臨床の医療行為と関連させながら授業をすすめます。 人間の体の構造や機能を知ることは、医療をすすめて行く上で必要不可欠なことです、 復習をしっかり行い着実に知識として身に修めてください。 講義内容の理解をすすめるために、確認テストをします。</p>						
テキスト 参考書	<p>テキスト 系看 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と理解〔1〕 医学書院 系看 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕 医学書院 参考書 看護につながる形態機能学〔改訂版〕 メヂカルフレンド社 解剖学トレーニングノート 第7版 医学教育出版社</p>						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	人体形態機能学	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期 後期
目的	<p>我々が健康な生活を営むためには、体内の細胞・組織・器官が正常な形態を保ち、的確な生理活動が行われ、体内の環境が一定に保たれること（恒常性の維持）が重要である。恒常性の維持のためにどのようなメカニズムが働いているのかを理解し、その破綻によってどのような異常な変化が生じるかを学ぶ。その異常な変化の派生が全身に及ぼす影響、疾病に対する治療や看護の根拠を学ぶ。</p> <p>日常生活行動はすべてからだの働きの上に成り立っている。演習を通して、体内の環境が保たれていることで日常生活行動が支障なく行えることを学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みのレポート作成時に理解できなかった箇所を克服する。 ・各組織（器官）がどのように連携して恒常性の維持に貢献しているかを総合的に理解する。 ・からだの働きと日常生活行動との関係性を説明する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液とその循環（水分調節） 2. 体液とその循環（血圧調節）① 3. 体液とその循環（血圧調節）② 4. 内部環境の恒常性の維持 ①（酸素と二酸化炭素の恒常性、血糖の恒常性） 5. 内部環境の恒常性の維持 ②（水素イオン濃度の恒常性（酸・塩基平衡の維持）、体温の恒常性） 6. 調節機構 ①（神経性調節（自律神経・ストレス）） 7. 調節機構 ②（液性調節（ホルモン）） 8. 脳・神経系①（神経細胞と伝達） 9. 脳・神経系②（運動機能、伝導路） 10. 体内環境と日常生活行動（講義） 11. 日常生活行動 動く（演習） 12. 日常生活行動 動く（演習） 13. 日常生活行動 息をする（演習） 14. 日常生活行動 息をする（演習） 15. 学習時間あり・単位認定試験 <p>体位や動きによるバイタルサイン変化を知ろう 肺の仕組みを知ろう：肺の模型作成</p>						
教育方法	<p>講義 演習</p>						
履修上の助言	<p>解剖生理学と関連づけてヒトの体のしくみを総合的に学ぶ思考を身につけていきましょう。 解剖生理学の学習ノートと照らし合せながら、受講することを勧めます。</p>						
テキスト 参考書	<p>テキスト 看護につなげる形態機能学（メヂカルフレンド社） 参考書 系統看護学講座 専門基礎 病態生理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学（医学書院） 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ（日本看護協会）</p>						
評価方法	<p>筆記試験</p>						

学科目 (単元)	微生物と感染症	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期 後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義は、病原体と宿主との相互関係によって生じる感染症を、病原体および宿主の両面から考察し、理解を深めることを目的とする。 ・感染症はどの医療現場にも深く根付いている問題であり、医療従事者になるからには、感染症を避けてはとおれない。感染症に対する正しい知識と判断力を養い、感染症の予防、治療に貢献しうる十分な基礎を養う。また、看護師が感染対策にどのようにかかわることができるかについて考える。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物の特徴と分類を理解する。 ・ヒトに重要な影響を与える微生物について理解する。 ・各種病原微生物とその感染症の特徴を説明する。 ・感染症に対する正しい知識と判断力を養い、予防と治療について説明する。 						
授業計画	<p>【 微生物 】 12時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の歴史・総論 (細菌・ウイルス・真菌・原虫) 2. 滅菌・消毒法・化学療法 3. 病原細菌 4. 病原ウイルス (DNA ウイルス・RNA ウイルス) 5. マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・真菌・原虫 6. まとめ <p>【 感染症 】 16時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 感染症総論① (感染症とは何か) 8. 感染症総論② (感染症の成立と免疫) 9. 感染症の病態生理 10. 感染症の検査と診断、治療の流れ 11. 感染症各論① 12. 感染症各論② 13. 感染症各論③ 14. 予防接種 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
方法 教育	講義						
助言 履修 上の	<p>病原体である微生物の知識は、感染症の学習に必要です。予習・復習を行い、理解をすすめてください。</p> <p>感染症は予防が可能な疾患です。医療従事者として正しい予防行動をするためにも、微生物の講義内容を復習し、授業に臨んでください。</p>						
テキスト 参考書	系看	専門基礎	疾病の成り立ちと回復の促進3	微生物学	医学書院		
	系看	専門基礎	疾病の成り立ちと回復の促進2	病態生理学	医学書院		
	系看	専門II	成人看護学11	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院		
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	臨床栄養代謝学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	後期
目的	<p>近年、様々な職種のメディカルスタッフが、チームを組んで効率よく栄養管理を行うために、多くの施設が「栄養サポートチーム (NST)」を設立している。適切な栄養管理は、薬物療法と同様に、疾病の予防・治療に役立つと考えられているため、NSTの一員である看護師にも、栄養管理業務の重要な役割が求められている。従って、本科目では、基礎栄養の分野から応用・臨床栄養の分野に至るまで幅広い知識を習得し、栄養管理に役立てることを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養素の種類と食品群について説明する。 ・ 生体に必要な栄養と食物の消化・吸収・代謝を理解する。 ・ 生体における栄養素のはたらきと食物の消化・吸収・代謝を説明する。 ・ 各ライフステージに必要な栄養管理について理解する。 ・ 栄養状態を評価する方法を説明 (列挙) する。 ・ 食事療法・治療食について理解する。 ・ 患者の栄養についてアセスメントを行う。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の種類と食品群 2. 消化・吸収・代謝 3. 糖 質 4. たんぱく質 5. 脂 質 6. ビタミンとミネラル 7. エネルギー代謝と消費量 8. 栄養状態の評価・判定 9. 栄養ケアマネジメント・栄養サポートチーム 10. ライフステージと栄養 (乳幼児学・学童期・思春期) 11. ライフステージと栄養 (成人・妊産婦、高齢者) 12. 病態別栄養法 13. 病院食 14. 栄養指導 (簡易体験) 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義と食事調査や栄養指導の簡易体験						
履修上の助言	<p>前半の講義では栄養素の働きを学び、後半の講義では疾病時の食事療法、治療食の成り立ちを学習し、栄養指導の実際を学びます。 講義の授業は予習復習をして知識の習得に励んでください。</p>						
テキスト 参考書	<p>系統看護学講座 栄養学 医学書院 日本食品成分表 2021 八訂 (医歯薬出版) 糖尿病食事療法のための食品交換表 (日本糖尿病学会) 文光堂</p>						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	臨床薬理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 臨床における薬物治療を念頭に薬物の作用・効果を学ぶ。 看護師が関与する可能性のある医薬品による医療事故と防止対策について意識づける。 国家試験の出題傾向を押さえて理解する。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 薬物に対する基礎的事項を説明する。 主な疾患について病態と薬物の作用、患者に及ぼす影響を関連づけて説明する。 看護師が関与する可能性のある医薬品について医療事故を予測し、防止対策を説明する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 総論 薬の性質・作用点・投与経路 総論 薬物動態・薬物に影響する因子 総論 薬物依存・相互作用・有償作用 総論 薬の管理 各論 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬 各論 抗がん剤 各論 免疫抑制剤・ワクチン・抗アレルギー薬 各論 NSAIDs・副腎皮質ステロイド・片頭痛治療薬 末梢神経治療に作用する薬物 中枢神経に作用する薬物 心臓、血管系に作用する薬物 ① 心臓、血管系に作用する薬物 ② 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 物質代謝に作用する薬物・まとめ 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義						
履修上の助言	薬物の種類、薬理作用を丸暗記するのではなく、病態、薬物の特徴、投与される患者側の要因など、ポイントをしっかり捉えることが重要である。						
テキスト 参考書	系統看護学講座 今日の治療薬	薬理学	医学書院 南江堂				
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	後期
目的	<p>病理学は、「病気」のなりたちを学ぶ学問である。ヒトに発生する全ての疾患は、病理学総論で扱う項目のいずれかの病態を示すことから、病理学総論をマスターすることは、全ての疾患の本質を理解する上での基礎であり、極めて重要である。</p> <p>本講義では、14コマにわたる病理学総論各項目について、高学年時に学ぶことになる疾患各論をより深く理解できることを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の発症メカニズムを理解する。 ・病理学的用語を理解し、正しく使う。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学とは 2. 細胞・組織とその障害 3. 再生と修復 4. 循環障害 5. 炎症 6. 免疫とアレルギー 7. 感染症 8. 代謝障害 9. 先天異常 10. 新生児の病理 11. 老化と老年病 12. 生命の危機 13. 腫瘍 14. 腫瘍 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	PCを使って、視覚的にも理解しやすい授業を行う。						
履修上の助言	<p>病理学とは、実際に病気になった患者の身体に生じている変化を、細胞・組織・臓器の各レベルにおいて、肉眼像、顕微鏡像を通じて学ぶ学問領域である。身体に起きている病的変化を理解するためには、人体の正常構造を理解している必要がある。これまでに学んだ解剖生理学が苦手だった学生は、病理学の講義と並行し、解剖生理学を勉強していくことが病理学総論の理解につながる。さらに、病理学は難しい医学用語が多く、苦手意識を持つ学生も少なくない。病理学の重要性については、病院実習で患者様を受け持った際に改めて気づく学生が多く見られるが、後から勉強するのは時間的にも困難となる。「病気」を理解する上で最も重要な科目であることから、授業を良く聞き、基本的な知識をしっかりと身につけることで、2年生、3年生で学ぶ全ての科目が理解し易くなる。講義前にはできるだけ教科書を読んできて頂きたい。</p>						
テキスト 参考書	<p>講師のオリジナルプリント カラーで学べる病理学 ヌーベルヒロカワ 教科書に付属している「病理学・整理ノート」を適宜使用する。</p> <p>※参考図書 系看 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕 病理学 医学書院</p>						
方法評価	試験：記述式、選択問題、○×問題など、国家試験を考慮した問題で評価する。						

学科目 (単元)	病態治療論 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期 後期
目的	・呼吸器・循環器・消化器疾患の診断・治療について理解し、看護に活かす。						
到達目標	【呼吸器】 ・呼吸器疾患の病態生理と検査・診断・治療について理解する。 ・知識を看護アセスメントに活用する。 【循環器】 ・循環器疾患の病態生理と検査・診断・治療について理解する。 ・知識を看護アセスメントに活用する。 【消化器】 ・消化器疾患の病態生理と検査・診断・治療について理解する。 ・知識を看護アセスメントに活用する。						
授業計画	【呼吸器：8時間】 1. 呼吸器の構造と機能、症状と病態生理、検査 2. 呼吸器疾患の診断と治療①（呼吸不全、感染による気道・肺の炎症など） 3. 呼吸器疾患の診断と治療②（気管支喘息、肺の腫瘍、結核など） 4. 呼吸器疾患の診断と治療③（呼吸不全の障害による循環器機能への影響など） 【循環器：10時間】 1. 循環器の構造と機能、症状と病態生理、検査 2. 血圧異常、大動脈・静脈疾患の診断と治療 3. 虚血性心疾患の診断と治療 4. 不整脈・心不全・弁膜症の診断と治療 ① 5. 不整脈・心不全・弁膜症の診断と治療 ② 【消化器：10時間】 1. 消化器の構造と機能、症状と病態生理、検査 2. 上部消化管疾患の診断と治療（食道、胃・十二指腸の炎症と腫瘍など） 3. 下部消化管疾患の診断と治療（小腸・大腸の炎症と腫瘍、肛門疾患など） 4. 肝疾患の診断と治療 5. 胆嚢（胆管）・膵臓疾患の診断と治療 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義						
履修上の 助言	各疾患の病態理解、検査、治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。解剖生理学の復習を必ず行ったうえで講義に臨み、知識の修得に励んでください。						
テキスト 参考書	系統看護学講座	呼吸器	医学書院				
	系統看護学講座	循環器	医学書院				
	系統看護学講座	消化器	医学書院				
	系統看護学講座	病態生理	医学書院				
	看護がみえる Vol. 3	フィジカルアセスメント	メディックメディア				
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅱ	講師名	外部講師	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期 後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器・脳神経疾患の診断・治療について理解し、看護に活かす。 ・リハビリテーションの概要と基本的理念について学ぶ。 また、運動が身体に及ぼす影響や障害と評価、障害に応じたリハビリテーションを理解する。 						
到達目標	<p>【運動器】【脳・神経】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患・脳神経疾患の病態生理と検査・診断・治療について説明する。 ・得られた知識を看護アセスメントに活用する。 <p>【リハビリテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概念・歴史、障害レベルについて説明する。 ・廃用症候群、脳血管障害、嚥下障害、脊髄損傷のある対象への基本的なアプローチを述べる。 ・ROM・MMTの目的を理解し、正しい方法で測定する。 ・脳血管障害にある対象の身体的特徴を踏まえ、ポジショニングができる。 						
授業計画	<p>【運動器：8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器疾患の診断・検査と治療・処置 2. 疾患の理解と治療① (外傷性の運動器疾患：骨折・脱臼・捻挫) 3. 疾患の理解と治療② (骨腫瘍・神経の損傷：脊髄損傷・末梢神経損傷) 4. 疾患の理解と治療③ (骨・関節の炎症性疾患：感染症・変形性関節症、 脊椎疾患：脊柱管狭窄症・椎間板ヘルニア) <p>【脳・神経：10時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経機能障害の主な症状と病態生理 2. 検査・診断と治療・処置 3. 疾患の理解と治療① (脳疾患：クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞・脳腫瘍) 4. 疾患の理解と治療② (脊髄・筋・末梢神経疾患：脊髄炎・脊髄腫瘍・ギランバレー症候群) 5. 疾患の理解と治療③ (脱髄疾患・変性疾患：多発性硬化症・パーキンソン病・ 脊髄小脳変性症) <p>【リハビリテーション医療：6時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション概論 (リハビリテーション医学の歴史の変遷、障害レベルとその基本的アプローチ) 2. 生活機能障害とリハビリテーション① (廃用症候群、脳血管障害など) 3. 生活機能障害とリハビリテーション② (嚥下障害、脊髄損傷など) <p>【基礎となる機能評価と機能訓練：4時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習：ROM・MMTの目的、測定方法、実技 2. 演習：脳血管障害患者のADL (片麻痺患者の身体特徴、ポジショニング) <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教育方法	講義・演習						
履修上の助言	各疾患の病態理解、検査、治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。解剖生理学 (特に骨・関節・筋肉・脳・神経) の復習を必ず行ったうえで講義に臨んでください。また、看護技術論・看護方法論などの科目と関連があります。復習をして講義に臨んでください。						
テキスト参考書	系統看護学講座	運動器	医学書院				
	系統看護学講座	脳・神経	医学書院				
	系統看護学講座	病態生理	医学書院				
	看護がみえる Vol. 3	フィジカルアセスメント	メディックメディア				
	リハビリテーション看護	障害をもつ人の可能性とともに歩む	南江堂				
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅲ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌・代謝疾患の診断・治療について理解し、看護に活かす。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内分泌・代謝疾患の病態生理と検査・診断・治療について理解する。 ・ 知識を看護アセスメントに活用する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌・代謝機能の構造と機能 2. 症状と病態生理、検査 3. 内分泌疾患の診断と治療 4. 代謝疾患の診断と治療 ① 5. 代謝疾患の診断と治療 ② 6. 代謝疾患の診断と治療 ③ 7. 代謝疾患の診断と治療 ④ 8. 単位認定試験 (学習時間なし) 						
方法教育	講義						
履修上の助言	各疾患の病態生理、検査、治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。解剖生理学の復習を必ず行ったうえで講義に臨み、知識の習得に励んでください。						
参考文献	系統看護学講座 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅳ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	前期 後期
目的	免疫機能、血液・造血機能、感覚器疾患の診断・治療について理解し、看護に活かす。						
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫のしくみとアレルギーについて説明する。 ・主な免疫機能障害における治療・検査・処置について説明する。 ・血液の生理と造血のしくみについて説明する。 ・主な血液・造血器の疾患における治療・検査・処置について説明する。 ・主な感覚器疾患の病態生理と検査・診断・治療について説明する。 						
授 業 計 画	<p>【免疫機能の障害：8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫のしくみとアレルギーのしくみ 2. 検査(皮膚生検、アレルギーテスト)と治療(安静、薬物治療(ステロイド)、理学療法、食事療法) 3-4. 症状と疾患の理解 アレルギー：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アトピー性鼻炎の定義と分類、食物アレルギーなど 自己免疫疾患：先天性免疫不全症、後天性免疫不全症、関節リウマチ・関節炎、 全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、ベーチェット病など <p>【血液・造血器：8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の生理と造血のしくみ 2. 検査・診断・病態生理 3. 造血器腫瘍治療の基本概念、その他 4. 再生不良性貧血、白血病など <p>【感覚器：計12時間】</p> <p>＜眼：2時間＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼の解剖生理、眼科疾患の患者の特性、眼科疾患と看護、 眼科疾患各論(白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、黄斑変性症など) <p>＜皮膚：4時間＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚の解剖生理 2. 皮膚疾患各論(表在性皮膚疾患、白癬、疥癬、熱傷、腫瘍など) <p>＜耳鼻咽喉：4時間＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉の解剖生理 2. 耳鼻咽喉疾患各論(中耳炎、アデノイド、突発性難聴、メニエール病、アレルギー性鼻炎、 副鼻腔炎咽頭炎、扁桃炎、咽頭がん、声帯ポリープ、喉頭がんなど) <p>＜口腔：2時間＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の解剖生理、口腔疾患各論(口内炎、舌炎、口腔カンジダ症、ベーチェット病、 ヘルパンギーナ、手足口病、口腔がんなど) <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教 育 方 法	講義						
の 履 修 上 の 助 言	各看護学につながる学習です。 病態生理・検査・治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。 解剖生理学(血液の働き)・微生物(感染症)の復習をして講義に臨んでください。						
テ キ ス ト 参 考 書	系統看護学講座	血液・造血器					医学書院
	系統看護学講座	アレルギー	膠原病	感染症			医学書院
	系統看護学講座	耳鼻咽喉					医学書院
	系統看護学講座	歯・口腔					医学書院
	系統看護学講座	病態生理					医学書院
評 方 価 法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論V	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期 後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 腎・水・電解質、酸塩基平衡異常・泌尿器、生殖器・乳房に疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎知識を学び、診断、治療について理解し看護に活かす。 						
到達 目標	<p>【腎・水・電解質、酸塩基平衡異常・泌尿器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 腎・泌尿器の構造、機能について説明する。 排泄機能の障害と検査・治療について説明する。 体液調節機能の障害と検査・治療について説明する。 全身性疾患と腎障害の関連性について説明する。 男性生殖器機能の障害と検査・治療について説明する。 <p>【生殖機能障害・乳房】</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性生殖器の構造、機能について説明する。 女性生殖器機能の障害と検査・治療について説明する。 乳房に発生する疾患の病態・検査・治療について説明する。 						
授 業 計 画	<p>【腎・水・電解質、酸塩基平衡異常 (10時間)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 腎臓の構造と機能 検査・診断と治療・処置 疾患の理解と治療① (腎不全—透析療法を含む) 疾患の理解と治療② (原発性糸球体腎炎) 疾患の理解と治療③ (全身疾患による腎障害、水・電解質異常) <p>【泌尿器 (8時間)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 泌尿器・男性生殖器の構造と機能、 検査・診断と治療・処置 疾患の理解と治療① (尿路・性器の感染症、腫瘍・通過障害など) 疾患の理解と治療② (男性不妊症・男性性機能障害) <p>【生殖機能障害 (8時間)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 女性生殖器の構造と機能 検査・診断と治療・処置 疾患の理解と治療① (良性腫瘍・悪性腫瘍、子宮内膜症) 疾患の理解と治療② (不妊症・不育症) <p>【乳房 (2時間)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 乳房の構造と機能、検査・診断・治療・処置 疾患の理解と治療 (乳腺悪性疾患、乳腺良性腫瘍性疾患、その他の乳腺疾患について) <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教 育 方 法	講義						
履 修 上 の 助 言	<p>看護技術論や看護方法論につながる学習です。 各疾患の病態を理解し、検査・治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。 解剖生理学 (内分泌、腎・泌尿器、女性生殖器) の復習を必ず行っただうえで講義に臨み、知識の修得に励んでください。</p>						
テ キ ス ト 参 考 書	系統看護学講座	腎・泌尿器	医学書院				
	系統看護学講座	女性生殖器	医学書院				
	系統看護学講座	病態生理	医学書院				
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論VI	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・小児に多い疾患および小児各期特有の疾患の病態、診断、治療、予後について学習し、実習に応用できるようにする。 ・小児の成長発達の状態をふまえて、病態の成因、徴候、経過および治療検査と関連づけて理解し、小児の発達に伴う回復過程を学習する。 ・現在の社会や家族の問題が子どもの健康に及ぼす影響を理解し、子どもと家族に対する医療的側面の支援について学ぶ。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生体機能に影響をおよぼす要因を理解し、異常や障害が起こるメカニズムを説明する。 ・主要疾患の病因、病態、検査、治療を説明する。 ・患児の自覚症状や身体所見と関連した病態生理学的知識を説明する。 ・小児の健診・予防接種や小児を取り巻く医療の現状について説明する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科の領域と特徴、乳児検診と予防接種、小児救急・小児保健・医療の現状と問題点 2. 小児症候学・治療学総論 3. 出生前、新生児の疾患と治療： <ul style="list-style-type: none"> 循環器疾患と治療（心室中隔欠損症・心房中隔欠損症・ファロー四徴症など） 4. 呼吸器疾患と治療（急性扁桃炎・急性気管支炎・ウイルス性肺炎など） <ul style="list-style-type: none"> 免疫・アレルギー性疾患と治療（喘息・食物アレルギー・血管性紫斑病・川崎病など） 5. 消化器疾患と治療（先天性食道閉鎖症・ヒルシュスプルング病・胆道閉鎖症など） <ul style="list-style-type: none"> 血液腫瘍疾患と治療（白血病・血友病・神経芽腫・ウィルムス腫瘍など） 6. 代謝・内分泌疾患と治療（成長障害・糖尿病など） <ul style="list-style-type: none"> 腎泌尿器系疾患と治療（ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎など） 7. 神経疾患と治療（痙攣・髄膜炎・脳性麻痺・水頭症など） <ul style="list-style-type: none"> 運動器疾患と治療（先天性股関節脱臼・ペルテス病・先天性内反など） 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義						
履修上の助言	小児看護学総論で学習した成長・発達についての理解が大切です。復習したうえで授業に臨みましょう。						
テキスト	系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅶ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	後期
目的	周産期にある女性と胎児および早期新生児期に生じる健康障害とその回復に向けて、経過の異常や疾病の診断と治療について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の異常とハイリスク妊娠における疾患の診断、治療について説明する。 ・分娩期における異常や疾患の診断、治療について説明する。 ・産褥期に生じる異常の診断、治療について説明する。 ・早期新生児期に生じる異常の診断、治療について説明する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群（子癇・HELLP 症候群含む）、糖尿病・妊娠糖尿病 2. 多胎妊娠、流産・早産、骨盤位、胎盤の異常：前置胎盤・常位胎盤早期剥離、羊水の異常：羊水過多・羊水過少・羊水混濁、前期破水 3. 児頭骨盤不均衡、回旋異常、陣痛の異常：微弱陣痛・過強陣痛 4. 母体損傷、産科異常出血、産科ショック 5. 産科処置（分娩誘発、吸引分娩・鉗子分娩）、産科手術と麻酔（帝王切開術） 6. 産褥期における異常：乳房トラブル 7. 新生児仮死、低出生体重児、新生児の高ビリルビン血症 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義						
履修上の助言	女性生殖器・乳房及び胎児循環の解剖生理を、必ず復習した上で授業に臨んでください。母性看護方法論Ⅰ・Ⅱと関係の深い科目です。妊娠の生理、分娩の機序、産褥期の進行性変化や生活、新生児の呼吸・循環・体温、生理的黄疸等のメカニズムを自己学習し、履修することを勧めます。						
テキスト 参考書	テキスト 系統看護学講座 母性看護学各論					医学書院	
	参考書 母性看護学〈2〉周産期各論 病気が見える Vol.10 産科					医歯薬出版 メディックメディア	
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅷ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	前期
目的	精神に障害を持つ人へ関わるための基礎知識として、精神障害の病理、病態、分類、症状、診断および検査、治療について理解し、看護に活用する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と認知機能について理解する。 ・認知機能の神経基盤について理解する。 ・精神科的診察方法と精神疾患／障害の診断基準を理解する。 ・主な精神疾患／障害の症状について理解する。 ・主な精神疾患／障害の治療について理解する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神症状論と状態像：症状とはなにか、さまざまな精神症状 2. 精神科的診察（診察、一般検査・画像検査・心理検査）、精神疾患／障害の診断基準・分類 病因論的分類・DSM・ICD・ICF) 3-6. 主な精神疾患／障害 <ol style="list-style-type: none"> (1) 統合失調症 (2) 気分障害「双極性障害および関連障害群, 抑うつ障害群」 (3) 神経症状障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (恐怖症性不安障害、強迫性障害、適応障害、解離性障害) (4) 生理的障害および身体主要因に関連した行動症候群 (摂食障害、睡眠障害、性機能不全・性同一性障害) (5) パーソナリティ障害、器質性精神障害「神経認知障害群」 (6) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 (7) てんかん、神経発達障害群、心身症 7. 精神疾患の主な治療法 (薬物療法、精神療法、電気けいれん療法、リハビリテーション療法) 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
授業方法	講義						
履の 修上 助言	授業には積極的に参加し、疑問に感じたことは自分で調べ、考える習慣をつけてほしい。病態生理・検査・治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。						
テ キ 参 考 書	精神看護学[1] 精神看護の基礎 武井 麻子 医学書院 精神看護学[2] 精神看護の展開 武井 麻子 医学書院						
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	総合治療論	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・治療・処置、検査を受ける患者の看護実践のために、主な治療法（手術療法、麻酔療法、放射線療法）とその治療法が生体に及ぼす影響について学ぶ。また、臨床検査の意義と解釈、検体検査、生体検査などについて学ぶ。 						
到達目標	<p>【手術療法】・ 外科的治療の種類と特徴を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低侵襲手術の種類と特徴を述べる。 ・ 手術が生体に与える影響と生体反応のメカニズムを説明する。 ・ ドレナージの目的と管理について説明する。 ・ 術後の創傷治癒過程と創傷の阻害・促進因子を説明する。 ・ 手術で起こりうる一般的な合併症の成り立ちと予防方法を説明する。 <p>【麻酔療法】・ 麻酔の種類と特徴を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔（全身麻酔・脊髄麻酔・硬膜外麻酔）による合併症について説明する。 <p>【放射線療法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 画像診断 [X線診断 (X線撮影、血管造影など)、核医学診断 (シンチグラフィ、PET など)、コンピューター断層撮影診断 (CT、MRI など)] の特徴を述べる。 ・ 放射線治療の有害反応について説明する。 <p>【臨床検査】・ 基本的検査の必要性和検査項目が示す意味を理解する。</p>						
授業計画	<p>【手術療法：10時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法、手術侵襲と生体反応 2. 炎症、外傷、腫瘍、敗血症、ショック 3. 体液栄養管理（主に術後）、ドレナージ 4. 術後合併症① 5. 術後合併症② <p>【麻酔療法：8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 麻酔の種類、麻酔による生体侵襲と合併症、疼痛管理 3. 酸素療法と機械的人工換気、体液、酸・塩基平衡、輸液管理（輸血療法を含む） 4. インフォームドコンセント、小児の麻酔、高齢者の麻酔 <p>【放射線療法：6時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 画像診断（検査方法、基本的な診断方法、特徴的な画像の見方など） 2-3. 放射線治療：定位放射線照射・粒子線治療・小線源治療、核医学治療など治療の侵襲、有害反応、宿酔症状、放射線障害と防護 <p>【臨床検査：4時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査の概要（目的、手順、検体採取、検査による危険とその防止策など） 2. 主な臨床検査 検体検査（血液、尿、便検査など）、生理機能検査（心電図、呼吸機能検査、超音波検査など） <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教育方法	講義						
の 履 修 上 の 助 言	解剖生理・薬理学・病態治療論・看護技術論Ⅳ（バイタルサインなどの基礎的な観察技術）看護技術論Ⅵ（創傷管理）と関連があり、成人看護方法論Ⅱ（周手術期）の基礎知識となります。						
テ キ ス ト 参 考 書	系統看護学講座 別巻		臨床外科看護総論		医学書院		
	系統看護学講座 別巻		臨床放射線医学		医学書院		
	系統看護学講座 別巻		臨床検査		医学書院		
	周手術期の臨床判断を磨く				医学書院		
	高齢者と成人の周手術期看護 2術中/術後の生体反応と急性期看護				医歯薬出版		
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	総合保健医療論	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	3年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療をとりまく現在の社会状況を学ぶ。 ・ 医療や福祉における政策や制度の動向を学ぶ。 ・ 患者の権利について学ぶ。 ・ 現代の日本の保健医療体系を過去および諸外国との比較から据える。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療をとりまく現在の社会状況が理解できる。 ・ 医療や福祉における政策や制度の動向が理解できる。 ・ 患者の権利を擁護する方法がわかる。 ・ 現代の日本の保健医療体系がわかる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と疾病 2. 生活習慣病 3. 医療と人口動態 4. 医療供給体制 5. 医療保障と高齢者福祉 6. 医療における倫理 (インフォームドコンセントなど) 7. 現代医療の諸問題 8. 単位認定試験 (学習時間なし) 						
教育方法	講義						
履修上の助言	復習を必ず行ってください。						
テキスト 参考書	<p>テキスト 系統看護学講座 総合医療論 第3版 医学書院</p> <p>参考書 国民衛生の動向 厚生統計協会</p>						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	公衆衛生学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	1年	前期
目的	<p>看護師を志すものとして「健康」とは何かを理解し、予防医学の重要性や、健康的に生活していくために必要な知識として生活環境及び生活習慣と病気の関係、環境汚染物質などの成 因・汚染防止・汚染除去などに関する基礎知識やそれに付随した法令などを理解し、習得を 目指す。</p>						
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康」「予防医学の概念」について理解できる。 ・さまざまな環境と付随した法令について理解できる。 ・感染症の要因とその予防について理解できる。 ・疫学について理解できる。 						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学の歴史と定義・健康の概念・疾病予防と健康管理 2. 健康と環境 3. 健康指標 人口静態と動態 4. 患者調査・国民生活基礎調査・国民健康栄養調査 5. 地域保健活動・社会保健福祉 6. 感染症・食中毒予防・食品衛生 7. 疫学 危険度・疫学の方法 8. 単位認定試験 (学習時間なし) 						
教 育 方 法	講義						
履 修 上 の 助 言	復習を必ず行ってください。						
テ キ ス ト 参 考 書	授業資料をプリントとして配布予定						
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	地域包括ケア システム論	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	1年	前期
目的	<p>日本は超高齢社会を迎え、医療・看護は、病院完結型から地域完結型へ移行した。そのため地域包括ケアの概念と様々なライフサイクル、健康レベルにある人々の地域における健康支援の在り方、サービス提供のシステムを学ぶ必要がある。医療施設だけでなく、地域で生活する人々を支援する多職種の役割も学び、地域包括ケアシステム全体の理解を深め、保健・医療・福祉における看護師の視点や支援の在り方を学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの基本的な考え方を説明する。 ・地域包括ケアシステムの構築のプロセスを理解する。 ・地域での生活支援のための介護保険、福祉サービスについて説明する。 ・地域包括支援センターの役割を知る ・地域における保健・医療・福祉の連携の大切さを述べる。 ・地域包括ケアシステムにおける看護師の在り方について述べる。 ・退院時における多職種連携の必要性を説明する 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1-2. 地域包括ケアシステム 3. 地域で生活支援するための社会資源（介護保険、障害者総合支援法などの活用） 4. 地域包括支援センター 5. 保健・医療・福祉に関連する職種と連携の必要性 6. 包括ケアシステムにむけた在宅生活における多職種連携 7. 入院、退院調整と支援に向けた取り組みと看護師の役割 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義・協同学習						
履修上の助言	生活者の理解とソーシャルマナーの講義を復習しておいてください。また、身近な生活地域の取り組みについて興味・関心を持っておきましょう。						
テキスト	<p>ナーシング・グラフィカ在宅看護論（1）：地域療養を支えるケア MCメディカ出版 医療福祉総合ガイドブック 2021 医学書院</p>						
評価方法	<p>筆記試験 レポート（学習課題）</p>						

学科目 (単元)	地域保健学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	3年	前期
目的	健康問題の変化にともなって地域住民の保健福祉ニーズは多様化している。地域の人々の健康問題に対応した公衆衛生看護活動（地域看護活動）について、都道府県・市町村における活動の実際を通して、健康を維持するための行政の看護職の役割と住民の主体的活動及び地域包括ケアシステムについて学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健活動の概要を知る。 ・地域看護を取り巻く保健・医療・福祉の連携について説明し地域包括ケアシステムを知る。 ・地域看護活動の対象および場を説明する。 ・介護保険制度について説明する。 ・地域看護活動の実際を知る。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護活動の概要：理念・歴史・健康課題・法律 2. 地域看護活動の方法 地域・在宅・における看護活動の場、主に地域行政機関における看護活動（都道府県、市町村における地域看護活動、母子保健対策） 3. 地域の看護活動：介護保険、地域包括ケアシステム（地域包括支援センター含む） 退院支援、在宅支援、さまざまな機関、職種との連携と調整（訪問看護ステーション等） 4. 地域の看護活動の実際 都道府県における難病・小児慢性疾患患者支援（主に保健所における活動） 事例をとおした本人・家族支援の検討、グループワーク 5. 地域の保健医療福祉計画：生涯を通じた健康づくり（主に生活習慣病予防・高齢者対策）、 地区組織活動 6. 地域の看護活動の実際：精神保健対策、職域・学校における地域看護活動 7. 感染症を含む健康危機管理：結核・エイズを含む感染症対策、災害時看護 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義 グループワーク						
履の助言	グループワークへの積極的参加 新聞・メディアで取り上げられている健康問題について関心を深める						
参考文献	看護師のための地域看護学 ピラールプレス 国民衛生の動向（前年度購入分）						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	保健行動科学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	前期
目的	<p>・行動科学は、社会学、心理学、自然科学等学際的見地から人々の行動を包括的に理解し、介入していく学問で、様々な領域で実践的に活用されています。保健医療の領域においても、その方より健康な状態が獲得されるために、不健康な行動を改善に導く支援が、理論に基づき実践されています。</p> <p>・本科目では、生活習慣病等を取り上げながら、看護師として健康行動を見直す必要性のある人々にどうアプローチしていくのか、基礎理論の学習や演習を通して学びます。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の各段階にある人々の保健行動について理解を深める。 ・主な保健行動変容理論について理解する。 ・事例や体験を通して各理論の活用方法を理解する。 ・行動変容を促す看護について考えることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健行動と心理的・社会的背景 ～生活習慣病を中心に～ 2. 保健行動モデルの諸理論 3. 行動変容支援技法① ～課題の提示～ 4. 行動変容支援技法② ～個別支援技法～ 5. 行動変容支援技法③ ～個別支援技法：演習を中心に～ 6. 行動変容支援技法④ ～グループを対象とした支援技法～ 7. 行動変容を促す看護について (まとめ) 8. 単位認定試験 (学習時間なし) 						
教育方法	講義、体験学習						
履修上の助言	人々の行動を変えることは大変難しいことですが、理論的基盤をもちつつ健康的な行動について支援できる看護師になれるようしっかり学んでください。						
テキスト・参考書	<p>行動変容を促す看護 医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版</p>						
評価方法	<p>筆記試験 60% 体験学習の取り組み状況とそのレポート 40%</p>						

学科目 (単元)	社会福祉活動論	講師名	外部講師	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉・社会保障制度の概要と理念について学ぶ。社会保障制度改革の方向性について、海外との比較を通して、理解する。 ・地域福祉活動の実践について、事例を通して検討を行なう。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自らの言葉で、社会福祉制度の各領域（老人、児童、障害、貧困、地域）の内容について、わかりやすく説明する。 ・学生が自らの言葉で、社会福祉と医療の相互連携について、わかりやすく説明する。 ・学生が自らの言葉で、社会福祉活動の必要性について、わかりやすく説明する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉・社会保障制度 2. 社会福祉と家族・ライフサイクル 3. 社会福祉諸法 4. 社会保険と社会手当 5. 地域福祉の目的と理念 6. 地域福祉計画と活動 7. 権利擁護と虐待対応、健康づくりの活動 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	<p>通常は講義形式で行うほか、グループワークを実施する予定である。 講義終了時にコメントシートの提出を求めることがある。</p>						
履修上の助言	<p>授業を受ける前に、あらかじめテキストの指定箇所を読んでおくこと。 社会福祉に関するニュースについて、日ごろから関心を持つこと。</p>						
テキスト 参考書	<p>ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版</p>						
評価方法	<p>筆記試験</p>						

学科目 (単元)	看護関係法令	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	3年	前期
目的	<p>この科目では、看護師としての業務を行うために必要な法律を勉強します。法律の勉強と聞くだけで、「難しくて、きらいだ!」と感じる人もたくさんいるでしょう。しかし、それぞれの法律の成り立ちや各法律の目的を知ることで、少しずつ興味を持てるようになります。</p> <p>ここで学修する関係法令は、患者さんが安心して診療を受けるためのものであると同時に、看護師として医療に携わる皆さん自身を守るものでもあります。国家試験に出題される内容もたくさん含まれますが、自分の将来のために学修するという目的を持って取り組んでください。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法の概念と看護法を詳しく説明する。 ・医事法について詳しく説明する。 ・保健衛生関係法規の概要について説明する。 ・薬事関係法規の概要について説明する。 ・労働関連法法規の概略を説明する。 ・法に規定された医療安全の取り組みについて説明する。 ・その他、社会的に重要で医療とかわる法制度について幅広く説明する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法の概念、保健師助産師看護師法、人材確保法 2. 医療法、健康増進法、地域保健法 3. 感染症法、予防接種法、がん対策基本法等、労働関連法法規 4. 医療安全と法的責任、その他：医療とかわる法制度 5. 薬事関連法規、母子保健法、母体保護法 6. 学校保健安全法、労働安全衛生法、労働関連法規 7. 難病患者医療法、児童福祉法、児童虐待防止法等、医療安全と法的責任（含、廃棄物処理法） 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	<p>講義を中心に進めていきますが、一方通行を避けるために、学生への問いかけも行います。</p>						
履修上の助言	<p>法律は、社会の要請で成立、改正されていくものです。そのため、世の中の動きを学修することが法律を学ぶことに直結します。テレビやネットでニュースを見ることが大切です。社会問題を他人事と思わず、自分にも必ず関わりのある問題だと認識することの大切です。</p>						
テキスト 参考書	<p>オリジナルの配布プリント 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 医学書院</p>						
評価方法	<p>講義終了時筆記試験（知識度）、講義中の発言（関心度）</p>						

專門分野

基礎看護学

1. 考え方

基礎看護学は、専門分野に位置づけられている。これから学ぶ各看護学を学習する基盤となるものである。

看護の対象はあらゆる発達段階の人であり、その対象に対し個別性のある看護を実践するためには、単に生理的側面のみでなく心理・社会的側面を含め、その個人を総合的にとらえなければならない。また看護とはあらゆる健康状態に応じて、必要な支援を行うものである。つまり、健康の保持増進、疾病予防、健康障害からの回復、社会復帰を目指して最大限の能力が発揮できること、その人らしい死が迎えられるような援助など、対象および家族を含めた個別的な支援を行うことが求められている。

看護の場は病院だけでなく、施設や地域で生活している人も対象としている。看護の目的を遂行するには、看護実践の基礎となる必須概念（人間・健康・環境・看護）の理解を踏まえて、問題解決能力・人間関係能力・専門的技術の実践能力の習得が必要である。また、すべての看護は各人の看護観を基に構築される。本校本学科では科学的根拠に基づき、対象にとって安全・安楽であり、自立をさまたげない看護実践ができるよう、基礎的な能力の育成を目指すと共に、経験を意味づけ、各人の看護観を深めるように講義および実習を構成している。

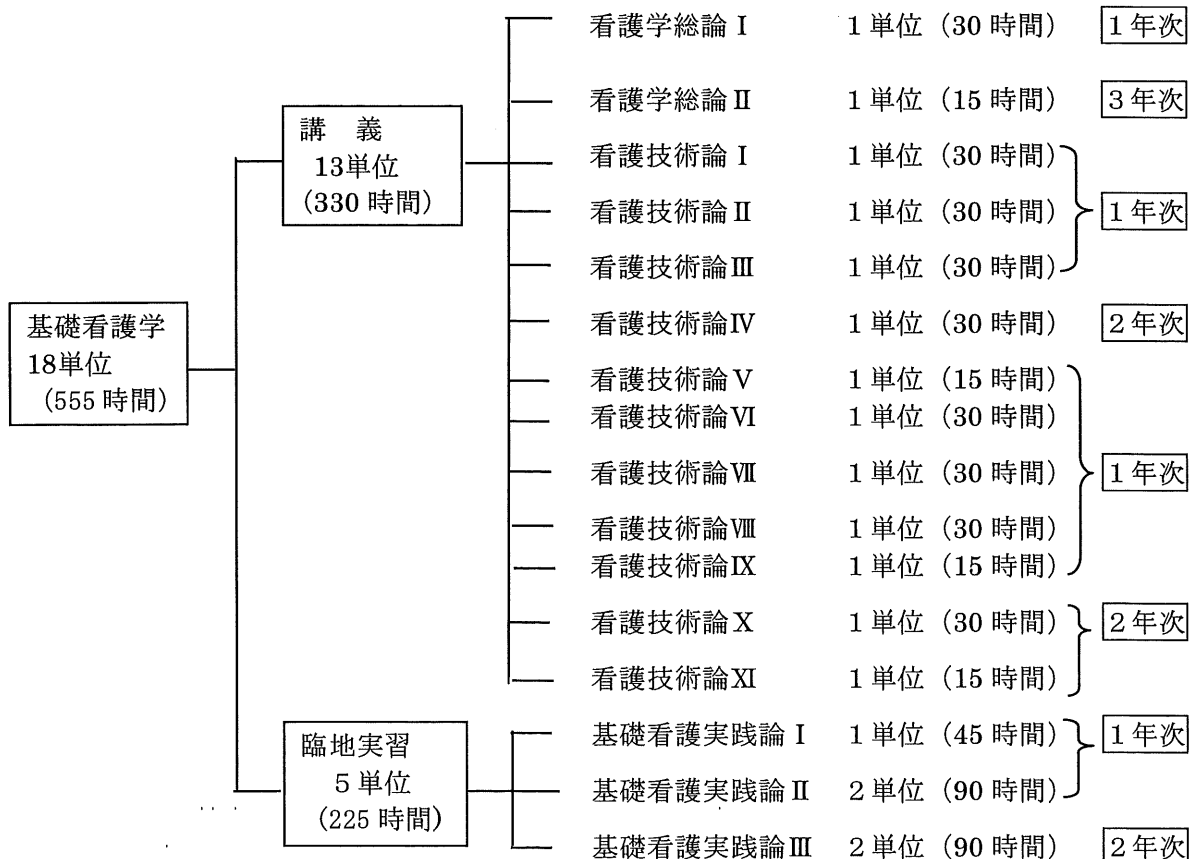
2. 目的

看護の概念を理解し、応用・発展させるための基礎知識・技術・態度を習得する。

3. 目標

- 1) 看護の概念と変遷について理解できる。
- 2) 看護の機能と役割について理解できる。
- 3) 看護を実践するための基礎となる看護技術を習得する。
- 4) 看護の対象である人間と対象のもつ健康状態に応じた看護について理解できる。
- 5) 看護とは何か自身の看護観を深める。

4. 構成



学科目 (単元)	看護学総論 I	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	<p>看護の対象である人間を理解すると共に、看護専門職としての機能と役割について理解する。看護の歴史の変遷や看護理論の学習を通して、看護の本質や目的・活動内容について学びを深め、自分なりの看護観を持ち、看護実践のためのアプローチ方法を考えられることを目指す。看護を取り巻く社会情勢の変化を理解し、地域、看護行政、看護サービスについて関心を持つ。さらに、看護倫理を学び、看護に求められる責任と安全のための対策・職業倫理および専門性を高めていく思考と構えを身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護とは何か、自身の看護観を表明する。 ・看護における人間・健康を定義する。 ・看護実践における法的基盤を説明する（看護の定義・責任・免許の意味・守秘義務）。 ・看護学生の臨地実習における条件について根拠を説明する。 ・看護師の倫理綱領を読み解く。患者の意思を尊重する。 ・ロイ看護理論「適応システムとしての人間」について図を用いて説明する。 						
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護への導入（専門職としての看護師）・看護トピックス 2. 看護とは、看護の変遷・看護を構成する概念・定義・看護の役割と機能、ケアリングの概念 3. 看護の対象の理解（こころとからだ・人間の暮らし） 4. 国民の生活と健康（保健・医療・国民健康づくり） 5. 看護の提供者（職業としての看護・看護と法律・看護職の資格と養成） 6. 看護における倫理（なぜ倫理を学ぶのか・看護者の倫理綱領・倫理原則） 7. 看護の提供のしくみ（サービスとしての看護・診療報酬） 8. 看護を考える（「看護とは何か」を探求する事の意味） 9. 看護実践を導く看護理論①（ナイチンゲール・ニード論・相互作用論） 10. 看護実践を導く看護理論②（セルフケア理論・システム理論） 11. 看護理論の発表 12-14. 本校が用いる看護理論：ロイ適応看護モデルの概要 私の考える看護とは：看護観の発表 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	<p>講義・協同学習（学生同士の対話、教え合う・学び合う）・ペアワーク・グループワークを多く取り入れ、アクティブラーニングで学習を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の学びが仲間の役に立つように責任を負う。 2. 仲間の学びが自分の役に立つと価値を認める。 						
履修上の助言	<p>この授業をとおして、自ら「調べる」、「考える」主体的学習姿勢を身につけてください。新聞・メディアで取り上げられている医療・看護に関する情報に敏感になりましょう。看護理論の学習は看護技術論Ⅲ（看護過程）の講義につながりますので、教科書・参考書をよく読み、復習により理解を深めてください。『語句』『専門用語』はもちろん、普段使っている『語彙』を再考し、自分の言葉で説明できることを心掛けてください。</p>						
参考文献	<p>テキスト 系統看護学講座「看護学概論」 医学書院 「ザ・ロイ適応看護モデル」 医学書院</p> <p>参考書 看護理論各種・ケアリングの理論と実践・その他授業の中で紹介します。</p>						
評価方法	<p>筆記試験 レポート（学習課題）</p>						

学科目 (単元)	看護学総論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	3年	前期
目的	<p>すべての看護行為は倫理的判断に基づいて実施されている。医療従事者としての人間性、倫理観を豊かにし、柔軟な感性と知的な思考能力を持つ看護師となることを目指す。</p> <p>事例検討を通し、“気づき”から“問題解決”へ向けて、患者・家族の立場を考え、異なる価値観や選択肢を検討する力を養い、自己の考えを深める。授業後は、学生自身が倫理的判断に基づいた行動(医療・看護行為)が取れるようになることを期待する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が経験したジレンマについて倫理原則に基づき分析する。 ・症例検討シートを活用し、異なる立場による価値の違いを整理する。 ・看護実践の場で直面する倫理的課題について、複数の選択肢を考え、倫理的判断を行う。 ・患者、家族にとって最善の利益は何か、推論し自身の考えを表明する。 ・患者・家族の意思を尊重して看護する。 ・看護師(学生自身)が行う看護行為についてその理由を説明する。(看護の責務) 						
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職としての職業倫理、患者の意思決定、倫理的課題の事例、医療倫理の基本原則、倫理的課題へのアプローチ、Jensenらの症例検討シート(四分割表)による分析、協同学習による事例検討の進め方 2. 講義・グループワーク 事例の選択と分析(四分割表を活用し、問題を整理する) 3. グループワーク 事例検討(倫理的課題への対応) 4. グループワーク 文献検索(先行研究、統計データ、判例、医療倫理に関する宣言、綱領) 5. グループワーク 事例検討(ディベート) 6. グループワーク 資料準備(結論を導いた過程を中心にプレゼンテーションの準備) 7. プレゼンテーション・まとめ 8. 単位認定試験(学習時間なし) 						
教育方法	<p>講義・協同学習・TBL(チーム基盤型学習)</p> <p>臨地実習で経験した事例を基に事例検討を行う(文献検索・分析・討議・考察・発表)</p>						
履修上の助言	<p>倫理的意思決定は、倫理的感受性と道徳的推論能力が大きく関与し、これらの発達には知識と経験が必要です。感受性と推論能力がないと患者の尊厳や権利をめぐる問題を見逃してしまい、その問題に対し何をなすべきかを決定できなくなります。その能力を発達させるためには、倫理的行動の基準(倫理綱領、医療者の倫理原則など)について学ぶことが効果的です。</p> <p>各看護学領域における倫理、生命医療倫理学、看護関係法令の復習、夏休み中に事例検討のための文献検索を行ってください。</p>						
テキスト・参考書	<p>テキスト 系統看護学講座 看護倫理 医学書院</p> <p>系統看護学講座 看護学概論 医学書院 (1年次使用した書籍)</p> <p>参考書 身近な事例で学ぶ看護倫理 宮脇美保子 中央法規</p> <p>サラT、フライ 看護実践のための倫理 日本看護協会出版</p> <p>看護に活かすバイオエシックス 木村利人 学研</p> <p>ケースブック医療倫理 医学書院</p> <p>*授業で提示・資料配布</p>						
評価方法	<p>筆記試験・自己評価・グループ評価</p> <p>出席状況・グループワーク・事例検討の取り組み状況で総合的に評価する。</p>						

学科目 (単元)	看護技術論 I	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期 後期
目的	<p>本科目では看護実践に必要な対象理解・問題把握・分析・介入立案・評価について、主体的学習姿勢を身につけ、問題解決思考、クリティカルシンキング、判断能力を培っていくことを目的とする。看護実践における思考プロセスを学び、後に学ぶ看護過程の基盤となる考え方を理解する。演習では、紙上事例の展開を行い、基礎看護実践論 I での看護展開に繋げることを目的とする。また、思考の表現手段としてのコミュニケーション力の向上を目指す。</p> <p>医療は複雑かつ重複した業務を、実施しなくてはならず、エラーが発生しやすい環境である。また、看護師は患者の安全を守ることが責務である。「人は誰でも間違える」という視点を持ち、医療における事故について学び、危険を予測し、回避する基礎的な力を養う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護は知識・思考・行動というステップを踏み提供されることを説明する。 ・対象に生じている問題の要因分析を行う。 ・問題解決思考過程を用いて対象に必要な看護を分析する ・演習を通して主体的学習能力、学び合う力、および判断力を培う。 ・医療安全を学ぶことの意義を説明する。 ・医療事故を自分自身に生じる身近な問題として捉える。 ・医療事故の要因がわかり、予防方法と事故発生時の対処方法を説明する。 ・起こりうる医療事故を予知する力の必要性和自己の危険予知能力の程度を認める。 						
授業計画	<p><思考過程> (20 時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践の基盤となる考え方 ①問題解決過程 クリティカルシンキングとは 2. 看護実践の基盤となる考え方 ②倫理的配慮と価値判断、リフレクション 3. 看護を考えよう 考え方の流れ 経過記録 1 4 - 10. 看護を考えよう 事例展開 ①～⑦ <p><医療安全> (8 時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶ意義 2. 事故発生のメカニズム 事故分析と予防策 3. 看護場面での事故対策 危険予知トレーニング 4. 実習で出会う危険と看護学生の責任 <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教育方法	<p>講義 グループワークで事例展開を進めます。</p>						
履修上の助言	<p>主体的な学習者として、自ら学ぶ姿勢を持って学習しましょう。本科目の内容だけでなく、これまで学習したことや自己学習の内容を活用して事例展開に臨みましょう。</p> <p>他者との意見交換を活発に行い、学びを深めましょう。</p> <p>基礎看護実践論 I では本授業の学習内容を用いて看護展開を行います。</p> <p>看護技術論で学習するケア場面における安全の視点を復習しましょう。</p>						
テキスト 参考書	<p>系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 統合分野 2 医療安全 医学書院 学習ガイド II 本校 第一看護学科 ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院 看護診断ハンドブック</p>						
評価方法	<p>筆記試験・授業参加態度・提出課題 授業概要参照</p>						

学科目 (単元)	看護技術論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	後期
目的	<p>看護過程は看護実践の意思決定のプロセスである。専門職としてケアリングに基づいた、科学的で論理的思考による問題解決型アプローチを身につける必要がある。また、この授業をとおして学生が自ら調べ、考え、判断し、その結果に対して責任が取れる主体的学習姿勢を身につけ、クリティカルシンキング、判断能力を培っていくことを目的とする。</p> <p>看護実践はどのような思考プロセスによって、どのように判断され、実践されているのかを問題解決型思考に基づく看護過程というとらえ方から理解する。演習では、紙上事例の展開を行い、基礎看護実践論Ⅱでの看護過程の展開に繋げることを目的とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護を展開するための基本的な考え方を説明する。 ・看護の対象を全人的に把握し（ロイ適応看護モデルを活用）看護展開の方法を説明する。 ・看護実践の思考過程を用いて、事例の看護過程の一連のプロセスを展開する。 ・演習を通して主体的学習能力、学び合う力、および判断力を培う。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは 看護過程を学習する意味 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 倫理的配慮と価値判断、リフレクション 問題解決思考と看護過程の違い 2. 看護過程の段階① アセスメント（情報収集・情報分析） ロイのカテゴリーの意味：グループワーク 3-5. 事例展開 第一段階：行動のアセスメント：グループワーク・発表 6. 看護過程の段階② アセスメント（要因分析）・看護診断・優先順位・全体像 7-9. 事例展開 第二段階アセスメント・看護診断：グループワーク・発表 10-11. 事例展開 診断リスト・全体像：グループワーク・発表 12. 看護過程の段階③ 看護計画・実施・評価・看護に関する記録 13. 事例展開 看護計画 グループワーク 14. 看護計画発表 まとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	<p>講義 グループワークで事例展開を進めます。</p>						
履修上の助言	<p>看護技術論Ⅰで学んだ思考過程を基盤として展開します。協同作業のために必要な技術は、話を聴く・対話をする・相手を尊重する・話し合う・合意により意思決定をする・さまざまな意見を知る・各役割を知る等です。これらを意識しながらワークを進めてください。解剖・病態生理・看護学・心理学・社会学などの知識を活用し、わからないことはそのままにせず、主体的に学んでください。看護の答えは一つではありません。対象にとって何が良い看護となるのか「考える」というプロセスが重要です。</p>						
履修要件	<p>看護技術論Ⅰ 2/3以上出席 基礎看護実践論Ⅰ 履修</p>						
テキスト・参考書	<p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ ザ・ロイ適応看護モデル 看護診断ハンドブック 看護過程の解体新書</p>		<p>医学書院 医学書院 医学書院 学研</p>				
評価方法	<p>筆記試験 授業概要参照</p>						

学科目 (単元)	看護技術論Ⅲ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	看護を行う上で、対象がどのような状態なのか把握するためには観察や情報収集がとても重要である。特にバイタルサイン測定は対象の身体状況を知るための基本的技術である。この授業では、対象の身体状況を知るために必要な、根拠のある適切なバイタルサイン測定の基本的技術を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体状態の必要な観察をする。 ・バイタルサイン測定の必要性を説明する。 ・根拠に基づき正確にバイタルサインを測定する。 ・バイタルサインの数値を正常か異常か判断する。 ・バイタルサイン測定を正確かつ適切に時間内に行えるように技術チェックを受けて、自己の課題を明確にする。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における観察の意義 2. 生体におけるバイタルサイン 循環 (体温・呼吸・脈拍) 3. バイタルサイン測定の実際 演習 (体温・呼吸・脈拍) 4. バイタルサイン測定の実際 演習 (体温・呼吸・脈拍) 5. 生体におけるバイタルサイン 循環 (血圧) 6. バイタルサイン測定の実際 演習 (血圧測定) 7. バイタルサイン測定の実際 演習 (血圧測定) 8. バイタルサイン測定の一連の流れと報告について 9. バイタルサイン測定の実際 演習 (一連のバイタルサイン測定) 10. バイタルサイン測定の実際 演習 (一連のバイタルサイン測定) 11. バイタルサイン測定の実際 演習 (一連のバイタルサイン測定) 12. 技術チェック (バイタルサイン測定) 13. 技術チェック (バイタルサイン測定) 14. まとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・演習 (シミュレーター使用)、技術チェック						
履修上の助言	<p>解剖生理学の知識が必須となるので、関連臓器の解剖生理学の授業を復習して授業に臨みましょう。必要に応じ解剖生理学の教科書を持参することを勧めます。基礎看護実践論Ⅰでは受け持ち患者のバイタルサイン測定はかかせません。正しい観察技術を身につけ、技術チェックに合格して実習に臨めるようにしましょう。演習の参加は必須です。授業時間以外にも積極的に技術練習を行って確実な技術を習得しましょう。</p> <p>また、この科目は看護技術論Ⅴの基盤となる科目です。確かな技術を習得しましょう</p>						
テキスト・参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント 看護につなげる形態機能学 系統看護学講座 解剖生理学		医学書院 メディックメディア メヂカルフレンド社 医学書院				
評価方法	筆記試験 技術チェック						

学科目 (単元)	看護技術論Ⅳ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期 後期
目的	対象者の健康問題を把握するために必要な看護技術であるフィジカルイグザミネーションについて学ぶ。視診・聴診・触診や問診による情報収集の方法を習得する。また、観察した情報を分析・判断し、対象の身体状況をアセスメントする。これらの過程を通し、看護技術を提供するために必要な対象の身体状況を把握するための基礎的技術・知識・思考・態度について学習する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体状態の把握のために必要な観察をする。 ・フィジカルイグザミネーションの必要性を説明する。 ・身体状態を把握するための情報を、正しい技術で収集する。 ・正しい部位と方法で呼吸音・心音を聴取する。 ・フィジカルアセスメントとは何か、看護における意義を説明する。 ・フィジカルイグザミネーションで得られた身体的情報の正常・異常を判断する。 ・得られた情報に基づいて対象の身体状態を分析する。 ・分析した身体状態から対象に必要な看護の方向性を見出す。 ・グループで教え合い、学び合い、高め合っている関係性（協同学習の姿勢）を築く。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルイグザミネーションの目的と意義 2. 呼吸器系のフィジカルイグザミネーション 3. 循環器系のフィジカルイグザミネーション 4-5. 呼吸器系・循環器系のフィジカルイグザミネーションの実際（演習） 6-7. 呼吸音・心音聴取 技術チェック 8. フィジカルアセスメントの目的と意義 9. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 10-11. 循環器系のフィジカルアセスメント①② 12. フィジカルアセスメントの実際 ～事例をもとに情報収集する内容を検討する～（演習に向けた準備） 13. 問診・シミュレーターを使用した情報収集（演習） 14. 事例から考えたフィジカルアセスメントの発表（まとめ） 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・グループワーク・シミュレーターを使用した演習						
履修上の助言	<p>看護技術論Ⅲで習得したバイタルサイン技術が基盤となります。フィジカルアセスメントでは科学的根拠のある観察力が要求されます。看護師の観察力・判断力・行動力そのものが、その後の対象の健康状態に大きく影響します。今まで学習してきた解剖生理学・人体形態機能学・病態生理学・コミュニケーション技術・看護技術論Ⅲで学習したバイタルサイン測定技術などを復習して授業に臨みましょう。また、この科目は全ての看護方法論の基礎となります。基礎看護実践論Ⅲではフィジカルイグザミネーション技術を用いて対象理解に務めます。授業内ではグループワークを行います。事前学習や必要な教材の準備をして臨みましょう。</p>						
履修要件	看護技術論Ⅲ 単位修得 基礎看護実践論Ⅱ 単位修得						
テキスト・参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 循環器 呼吸器 看護過程に沿った対症看護 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント		医学書院 医学書院 学研 メディックメディア				
評価方法	筆記試験 事前課題の提出状況 授業態度・グループワーク取り組み状況 詳細は授業概要参照						

学科目 (単元)	看護技術論V	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	1年	前期
目的	健康障害を抱えている人は、抵抗力が低下し感染の危機に脅かされている。感染成立のしくみや感染予防策の知識を習得することは、患者を感染から守るだけでなく、自分自身を守ること、仲間を守ることにつながることを理解し、対象の健康回復への支援のために必要な知識と技術を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・標準予防策（スタンダードプリコーション）を正確に実施する。 ・感染成立の条件及び院内感染防止の基本を説明する。 ・看護師が感染防止のための実践を行うことの重要性を述べる。 ・無菌操作について学び正しく実施する。 ・無菌操作の原則に基づき創傷処置を実施する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染防止の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策（講義） 2. 標準予防策（手指消毒・ガウン・マスク）（演習） 3. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識、滅菌物の取り扱い（講義・演習） 4. 無菌操作（滅菌包装、滅菌鑷子、滅菌ガーゼ、滅菌ガウン、滅菌手袋の取り扱い）（演習） 5. 創傷管理の基礎知識（講義） 6. 創傷処置の実際（創洗浄と創保護、包帯法）（講義） 7. 基本的な創処置（演習） 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義・演習						
履修上の助言	<p>感染防止技術は全ての看護技術に共通して必要な技術であるため、正しく実践できるようにしていきましょう。</p> <p>基礎看護実践論Ⅱで本科目での学習内容を活用します</p>						
テキスト・参考書	<p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院</p> <p>根拠と事故からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院</p> <p>看護のための感染防止アドバンス インターメディカ</p>						
評価方法	<p>筆記試験</p> <p>詳細は授業概要参照</p>						

学科目 (単元)	看護技術論VI	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期
目的	<p>環境が人に与える影響を学び、健康生活の維持や疾病回復のための環境を整える技術を様々な知識をもとに考え、患者に合った方法で実施する。</p> <p>人が活動すること、休息することの意義を理解し患者に合った活動の方法や休息の方法を考え、適切な看護を実施する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・療養生活の環境を整えるための基礎知識を習得し援助技術を実施する。 ・基本的活動の基礎知識を習得し援助技術を手順に基づいて実施する。 ・睡眠と休息の基礎知識を習得し援助技術を手順に基づいて実施する。 ・入院している患者にとって、環境整備や活動・休息に対する援助の必要性を述べる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは (講義) 2. 環境調整技術、リネンの取り扱い、ベッドメイキング、リフレクションとは (演習) 3. 環境調整技術、リネンの取り扱い、ベッドメイキング、リフレクションとは (演習) 4. 活動と休息の基礎知識 (講義) 5. 姿勢と体位、体位変換、ボディメカニクス技術 (講義・演習) 6. 姿勢と体位、体位変換、ボディメカニクス技術 (講義・演習) 7. 臥床患者のリネン交換 (演習) 8. 臥床患者のリネン交換 (演習) 9. 移動の援助の基礎知識 (講義・演習) 10. 歩行介助、車椅子やストレッチャーへの移乗・移送技術 (演習) 11. 歩行介助、車椅子やストレッチャーへの移乗・移送技術 (演習) 12. 活動と休息の援助 (演習) 13. 事例患者に対する一連の看護援助の実施 (演習) 14. 事例患者に対する一連の看護援助の実施 (演習) 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・演習およびリフレクション・グループワーク						
履修上の助言	<p>環境の変化により人がどのような影響を受けるのか科学的に考え、対象の状況に応じた環境を考えることができるようになります。自分を取り巻く環境に興味を持ち、その意味を考えることで学習が深まります。また、人間の細やかな動きを理解するために解剖生理学や物理学の知識も活用し環境・活動・休息の援助に活かしましょう。適切な技術の習得には、事前学習や自主練習が必須となります。</p> <p>看護技術論Ⅷ・Ⅸにおけるケアの際に本科目の内容を活用します</p>						
テキスト 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 系統看護学講座 臨床看護総論 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ ザ・ロイ適応看護モデル			医学書院 医学書院 医学書院 日本看護協会出版会 医学書院			
評価方法	筆記試験 詳細は授業概要参照						

学科目 (単元)	看護技術論Ⅶ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	生理的欲求の1つである清潔のニーズを満たすために、清潔の援助は看護師が行う日常生活援助の中で行われることが多い援助である。身体の清潔の援助が必要な対象に対して、対象の安全・安楽を考慮し自立を妨げない援助を行えるように、根拠に基づいた知識と技術を習得することを目的としている。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の清潔・衣生活の意義・目的を説明する。 ・清潔援助の基本的知識を学び、援助方法を選択する視点を述べる。 ・状況設定した対象に安全・安楽・自立を考慮した援助を手順に基づいて実践する。 ・演習での患者体験や看護者体験を通して、倫理的な姿勢や態度に気づきを示す。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の清潔：日常における清潔習慣・皮膚粘膜の生理・清潔の意義（講義） 2. 清潔援助の種類と援助方法の選択と留意点（講義） 3. 入浴・部分浴【手浴・足浴】（講義） 4. 部分浴（演習；手浴・足浴） 5. 部分浴（演習；手浴・足浴） 6. 全身清拭・寝衣交換（講義） 7. 全身清拭・寝衣交換（演習） 8. 全身清拭・寝衣交換（演習） 9. 洗髪 口腔ケア・整容（髭剃り・爪切りなど）（講義） 10. 洗髪（演習；仰臥位・座位での洗髪） 11. 洗髪（演習；仰臥位・座位での洗髪） 12. 陰部洗浄（講義・演習；シミュレーターを使用し、援助をうける患者役を体験） 13. 事例患者に対する一連の看護援助の実施（演習） 14. 事例患者に対する一連の看護援助の実施（演習） 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・演習・リフレクション・グループワーク						
履修上の助言	身体清潔の意義を理解するためには、解剖生理学（外部環境からの防御）の知識が必要です。演習への参加は必須であり、演習前に講義の復習、予習（手順書の作成、DVDの視聴など）を行ってから臨む事が重要です。また、看護技術の手順を覚えるだけでなく、“なぜそのような方法で行なうのか”根拠を理解して臨んでください。授業時間以外にも自主練習を行ない、積極的にアドバイスを求め、基本的な援助技術を身に付けましょう。同時期に学習する看護技術論Ⅶ（ボディメカニクス、体位変換）の知識と関連させて学習を進めましょう。						
参考文献	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ				医学書院		
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版				医学書院		
	系統看護学講座 臨床看護学総論				医学書院		
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	看護技術論Ⅶ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	後期
目的	人間にとって基本的欲求である栄養と排泄の意味を考え、対象にとって安全・安楽な栄養摂取及び排泄の看護ができる知識と技術を習得することを目的としている。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養状態や摂取能力などの基礎的知識を習得し、アセスメントの視点について述べる。 ・食事介助の具体的な方法を学び、援助を実施する。 ・排泄に関する観察とアセスメントの視点について述べる。 ・様々な排泄援助の方法の基礎的知識を習得し、根拠に基づいた排泄援助を実施する。 ・食事介助や排泄援助を受ける対象の気持ちと配慮について考える。 						
授業計画	<p>【栄養：10時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養と食事の意義、食欲のメカニズムと影響を及ぼす因子 2. 消化吸収のメカニズム、栄養状態のアセスメントの視点 3. 経口的栄養摂取の食事介助（講義・演習） 4. 経口的栄養摂取の食事介助（講義・演習） 5. 食欲不振、体動制限のある対象への食事援助 非経口的栄養摂取の援助：経管栄養法 <p>【排泄：18時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄に関連した臓器と機能、排泄の意義とメカニズム 2. おむつ交換（演習） 3. 尿器・便器の取り扱い、排泄援助の観察とアセスメント（演習） 4. 排泄障害時の看護（グリセリン浣腸・排便の演習） 5. 排泄障害時の看護（グリセリン浣腸・排便の演習） 6. 排尿障害時の看護 7. 排尿障害時の看護（一時的導尿の演習） 8. 排尿障害時の看護（一時的導尿の演習） 9. まとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・演習・グループワーク						
履修上の助言	解剖生理（消化器系、泌尿器系の解剖生理）の復習が必要です。必ず復習をして臨みましょう。 演習の参加はここでしか学べない貴重な経験になります。ぜひ参加しましょう。 今まで学習した看護技術論の復習をして臨みましょう。 様々な学習内容を関連づけて考えられることを目指しましょう。						
テキスト 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 看護過程に沿った対症看護 看護のための感染防止アドバンス 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 系統看護学講座 臨床看護総論			医学書院 学研 インターメディカ 医学書院 医学書院			
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	看護技術論IX	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	1年	後期
目的	呼吸・循環・体温に異常が生じている患者は、心身ともに大きな苦痛を抱いている。そのような異常を軽減し、苦痛を緩和するための技術として、罨法・吸入・吸引・酸素療法の技術を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・罨法を根拠に基づいて選択し、その理由を説明する。 ・罨法を実施する時の注意点を根拠に基づいて説明する。 ・患者の呼吸状態をアセスメントする。 ・酸素吸入時の注意点とその時に必要な観察項目・ケアを説明する。 ・患者にあわせた排痰ケアを選択した理由を説明する。 ・根拠に基づいた吸引や酸素投与の技術を習得する。 ・吸引による苦痛に対して気づきを示す。 						
授業計画	<p>【苦痛の緩和・身体の安楽を整える技術：4時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 温罨法・冷罨法(炎症、罨法の効果、罨法による事故) 2. 温罨法・冷罨法(炎症、罨法の効果、罨法による事故) <p>【呼吸・循環を整える技術：10時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 酸素療法(適応、合併症、必要な観察・ケア) 2. 排痰ケア(排痰しやすくなる要素、体位の調整、咳嗽法、深呼吸) 3. 吸入(吸入の効果、合併症) 4. (演習)酸素療法・吸引 5. (演習)酸素療法・吸引 <p>8. 単位認定試験(学習時間なし)</p>						
教育方法	講義・演習・グループワーク・視聴覚教材・シミュレーター						
履修上の助言	呼吸・循環・体温を司る解剖及びそのメカニズムについて復習が必要です。演習では手順だけでなく「何故その方法が必要なのか」といった根拠を理解した上で臨みましょう。看護技術論IVの学習と関連しているので、復習しておいて下さい。演習の参加は必須です。						
テキスト・参考書	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院</p>						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	看護技術論X	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期 後期
目的	<p>検査・薬物療法（与薬）の目的や看護師の役割を理解し、安全・安楽に患者がその目的を達せられるよう援助する知識と技術を習得する。患者が安全で効果的に薬物療法を受けられるために必要な準備から実施・後始末の方法・観察事項など原理・原則に基づいて実践できる知識と技術を身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・検査・与薬における看護師の役割を述べる。 ・検査・与薬における看護師として責任の重要性に対する気づきを示す。 ・根拠に基づく正確な方法を説明する。 ・薬物療法に必要な準備・実施・後始末を根拠に基づいて実践する。 						
授業計画	<p>【検査：10時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 検査の目的と看護師の役割 2. 検査の種類と検体の取り扱い 検査時に起こりうる事故の要因と対策 3. 静脈血採血の手順と注意事項 医療者の感染防止 4. 静脈血採血の技術演習・血糖測定（演習） 5. 静脈血採血の技術演習・血糖測定（演習） <p>【与薬：20時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬の意義・与薬に関する基本的知識（講義） 2. 直腸内与薬・筋肉内注射・皮下注射 適応と部位 3. 様々な与薬の作用機序・禁忌事項 4. 筋肉内注射・皮下注射（演習） 5. 筋肉内注射・皮下注射（演習） 6. 静脈内注射・ワンシヨット・輸血（講義） 7. 静脈内点滴・輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い方法・安全な与薬が行える（講義・GW） 8. 静脈内点滴・輸液ポンプ・シリンジポンプ（演習） 9. 静脈内点滴・輸液ポンプ・シリンジポンプ（演習） <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教育方法	<p>講義・演習 ペアワーク・グループワークを取り入れ、学習します。</p>						
履修上の助言	<p>解剖生理学、看護技術論VIの復習。演習前には講義の復習、予習（手順書の作成、テキストの動画を視聴）を行ってから臨みましょう。侵襲度の高い看護技術です。看護師としての責任を自覚しながら演習に参加しましょう。 与薬（輸液管理）の授業には、比と単位換算（時間、容積、重量）の計算方法を復習し、理解して臨んでください。</p>						
テキスト 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護のための感染防止アドバンス インターメディカ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第2版 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院</p>						
評価方法	<p>筆記試験</p>						

学科目 (単元)	看護技術論Ⅵ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	後期
目的	看護におけるヘルスプロモーションのケアを行うために必要な基礎的な知識・思考過程・技術を学ぶ						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーションケアの展開過程を説明する 対象に合った学習内容と方法を見出す 事例患者に適した学習支援計画（指導案）を立案する。 模擬患者に指導を実践する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーションケアの意義 学習に対する対象理解 基礎理論の活用（セルフマネジメント、健康信念モデル、自己効力感、エンパワーメント、変化のステージモデル） 学習内容選択の考え方 教材研究 学習目標の原則・タキソノミーと目標設定の留意点 学習方法の選択 学習媒体 指導案の立案・実施・評価の考え方 指導案立案の手順と留意点、指導実施時の留意点と患者への配慮 評価の目的と方法・評価のポイント 紙上事例を基に指導案立案、指導教材の作成 紙上事例を基に指導案立案、指導教材の作成 指導の実施 指導の実施 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義・協同学習・演習 ペアワーク・グループワークを多く取り入れ、学習します。						
履修上の助言	紙上事例のアセスメントを活用して、指導について考えます。行動変容を促す看護について、成人看護学総論や保健行動科学で学習した内容を復習して授業に臨んで下さい。						
履修要件	看護技術論Ⅰ	単位修得					
	看護技術論Ⅱ	単位修得					
	基礎看護実践論Ⅰ	単位修得					
	基礎看護実践論Ⅱ	単位修得					
テキスト	系統看護学講座 ナーシング・グラフィカ 行動変容を促す看護	基礎看護技術Ⅰ 成人看護学概論		医学書院 メディカ出版 医学書院			
方法評価	筆記試験	他	*授業概要参照				

学科目 (単元)	基礎看護実践論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 90時間	1年	後期
目的	患者・看護師間の相互関係の構築を基盤に、受け持ち患者に必要な看護を考え実践する。また、実践を通して看護過程のアセスメントの考え方を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護者として対象に関心をもち、信頼関係を築く。 ・受け持ち患者の健康問題の状況から、看護の視点で情報を収集する。 ・患者にとって望ましい変化をもたらすために必要な看護を立案する。 ・受け持ち患者の反応や状況を確かめながら、安全・安楽・自立を考慮し看護技術を実践する。 ・本校の看護展開過程（ロイの適応モデル）を用いて受け持ち患者の看護診断を見いだす。 						
授業計画	<p>基礎看護実践論Ⅱ</p> <p>【学内】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. まとめ（実習の気づきや学びの共有と発表） <p>【臨地】1実習時間45分</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟の特殊性と対象の生活環境を知る。 2. 対象に必要な情報を収集する。 3. 情報を整理し対象の状況をアセスメントする。 4. アセスメントから対象の看護診断を導き出す。 5. 対象に必要な看護を考え実施・評価する。 6. 実習を自己評価し、今後の学習課題を明確化する。 						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	基礎看護実践論Ⅰの目標に到達した上で履修しましょう。 看護技術論Ⅰ・Ⅱの学習を基に看護過程を展開します。実習時間だけではなく、日々の自己学習が必要になります。時間を確保し、主体的な学習を行いましょう 実習開始以前から（2週間）健康管理のために適切な行動を心がけましょう。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 2/3以上出席 看護技術論Ⅱ 2/3以上出席 基礎看護実践論Ⅰ 履修						
テキスト・参考書	<p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床 看護技術 第2版 医学書院</p> <p>ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院</p> <p>看護診断ハンドブック 医学書院</p>						
評価方法	実習評価表 参照						

学科目 (単元)	基礎看護実践論Ⅲ	講師名		学内教員		単位 (時間)	2単位 90時間	2年		前期	
目的	看護過程の展開を通して、対象に適した看護を実践するための能力を養う。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、対象に適したコミュニケーションを活用し、信頼関係を築く。 ・受け持ち患者を身体的・心理的・社会的に統合した存在として捉える。 ・看護過程を展開し、対象にとって望ましい変化をもたらすために必要な看護を立案する。 ・対象の反応や状況を確かめながら、安全・安楽・自立を考慮し看護技術を実践する。 ・自身の看護を振り返り意味づけをする事で看護観を深める。 										
授業計画	<p>【学内】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. まとめ (看護計画・看護観の発表) <p>【臨地】 1 実習時間 45分</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟の特殊性と対象の生活環境を知る。 2. 対象に必要な情報を意図的に適した方法で収集する。 3. 情報を整理し対象の状況をアセスメントする。 4. アセスメントから対象の看護診断を導き出す。 5. 対象に必要な看護を立案し実施・評価する。 6. 実習を自己評価し、今後の学習課題を明確化する。 										
教育方法	臨地実習										
履修上の助言	<p>事前学習や技術練習に励み十分準備をして実習に臨みましょう。既習学習だけでなく、対象に必要な学習を進んで行いましょう。</p> <p>看護過程の展開に関する復習を行い、必要に応じて事前にアドバイスを受けましょう。</p> <p>主体的学習者として自身の考えを積極的に述べましょう。</p> <p>実習開始以前（2週間程度）から健康管理のために適切な行動を心がけましょう。</p>										
履修要件	<p>看護技術論Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ～Ⅸ単位修得</p> <p>看護技術論Ⅳ 2/3以上出席</p> <p>基礎看護実践論Ⅰ 単位修得</p> <p>基礎看護実践論Ⅱ 単位修得</p>										
テキスト・参考書	系統看護学講座	基礎看護技術Ⅰ						医学書院			
	系統看護学講座	基礎看護技術Ⅱ						医学書院			
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床	看護技術 第2版						医学書院			
	ザ・ロイ適応看護モデル							医学書院			
	看護診断ハンドブック							医学書院			
評価方法	実習評価表 参照										

地域・在宅看護論

1. 考え方

今後長期的な日本の人口動向を予測した「将来推計人口」によると、2060年の日本の人口は674万人と10年比32%、4132万人減少すると試算した。65歳以上が5人に2人を占める他、生産年齢人口が減少し、少子高齢化が加速する。そのため、人口および疾病構造の変化に応じた医療提供体制の整備が急務であり、地域包括ケアシステムの推進にむけ、地域に目を向け活躍できる人材を育成する必要がある。

地域に暮らす人々の看護は、看護の土台ともいえるものである。地域・在宅看護論では、従来の在宅看護論から対象や場の拡大を図り、「地域」における看護実践を拡充し、個人、家族を看護の対象として、健康や暮らしを支援するために生活の基盤である地域を理解する。地域で暮らしながら、病気を発症し、必要な治療を受け、病気と共に地域で暮らす場合もある。また、病気を発症せずにそのまま暮らし続けることもある。そのため、地域で健康と暮らしを支える予防的な看護も学習内容とする。

看護を展開する場は居宅も含め地域で暮らす人すべてが対象となる。療養者・家族を生活者としてとらえ、その人が望む、その人らしい生活ができるよう支援するものである。そのためには、一次予防を含めた健康の保持増進を支援するだけでなく、健康問題を抱えて生活している療養者や家族の理解を深め、それぞれの持つセルフケア能力、考え方や価値観、強みを尊重しながら看護に活かす必要がある。それらの基盤が自らの健康を管理し、健康寿命を全うして生き抜く力「自助」を支援する看護である。また「互助」である家族や近隣の人々との繋がりである「互助」の推進が重要である。

家族を含め多職種の人と協働することが必要なため、医療・介護・福祉チームの一員として看護師の役割を果たすことが求められる。

以上をふまえ、地域・在宅看護論では療養者、家族の理解を深めていくと共に、生活者として地域で暮らす人と理解し、看護を地域包括ケアシステムの中で実践できる基本的な知識、態度を養うことを目指し講義及び実習を構成した。

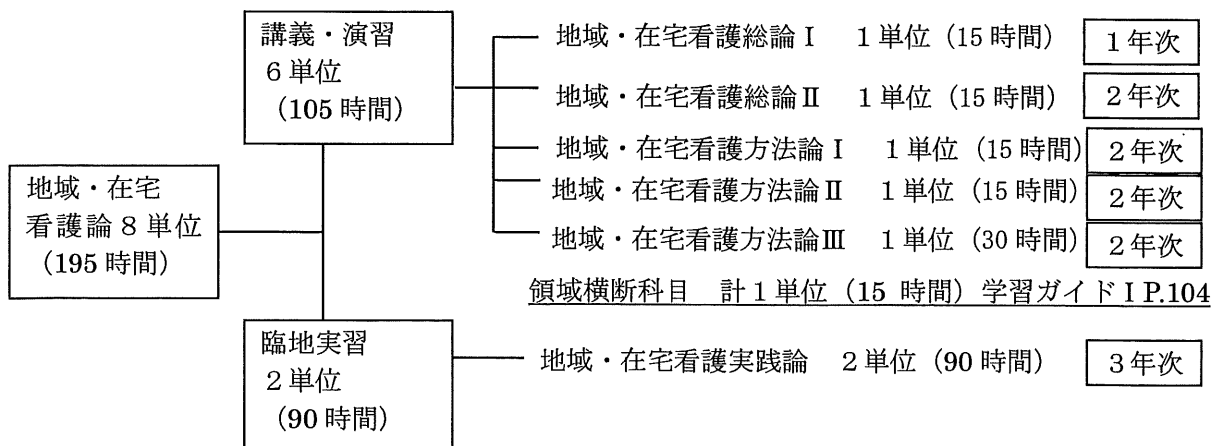
2. 地域・在宅看護論の目的

地域包括ケアシステム等を促進するために、地域に暮らす人々と共に生活する人々とその家族のセルフケア能力、強みを理解し、健康と暮らしを継続的に支援する能力を育成する。

3. 地域・在宅看護論の目標

- 1) 地域で生活する人を理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。
- 2) 地域で生活する療養者や家族を支援するための、医療・保健・福祉制度を理解する。
- 3) 地域で生活する療養者・家族の生理的・心理的・社会的特徴を理解する。
- 4) 療養者・家族のセルフケア能力、強み、応じた看護について学ぶ。
- 5) 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。
- 6) 地域・在宅看護において必要な態度やマナーを習得する。

4. 構成



学科目 (単元)	地域・在宅看護総論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	前期
目的	<p>総論Ⅰで学んだ学習を基に看護を展開する場合は居宅も含め地域で暮らす人すべてが対象となる。療養者・家族を生活者としてとらえ、その人が望む、その人らしい生活ができるよう支援する、一次予防を含めた健康の保持増進を支援するだけでなく、健康問題を抱えて生活している療養者や家族の理解を深め、それぞれの持つセルフケア能力、考え方や価値観、強みを尊重しながら看護に活かす必要がある。自助、互助を推進できる看護を学習内容とし、家族理論の基本を学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後の生活を想起し、自助・互助・共助の視点で記入する。 ・様々な視点で家族を理解する必要性に気づける。 ・看護職として在宅療養に必要な支援を考え記入する。 ・在宅看護の対象者について説明できる。 ・健康問題が家族におよぼす影響を考える。 ・円環的關係、システムの構造をもつ家族の特徴、理論を活用して説明する。 ・家族を看護する目的を説明する。 ・介護という課題に対する家族の適応状態を把握するために必要な情報収集の視点について説明する。 ・在宅看護の特徴をふまえた、家族看護過程の全体像を説明する。 ・家族のセルフケア能力を把握するために必要な情報を整理して記入する。 						
授業計画	<p><家族を理解するための看護> 1-2. 地域・在宅看護論の対象 家族、家族を支える看護 3-4. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 ジェノグラム・エコマップ, 家族システム理論 家族ストレス対処理論, セルフケア理論の活用 <対象、家族を支援するための看護過程・強みを活かした看護過程> 5-6. 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント ヘルスアセスメント, 病態・症状のアセスメント 家族のアセスメント, 生活のアセスメントの実際 7. 事例をもとに看護過程の展開 8. 単位認定試験 (学習時間なし)</p>						
教育方法	講義、グループワーク						
履修上の助言	在宅看護総論Ⅰ、生活者の理解とソーシャルマナーについて理解し授業に臨むことが望ましいです。						
履修要件	生活者の理解とソーシャルマナー 単位修得 地域包括ケアシステム論 単位修得 地域・在宅看護総論Ⅰ 単位修得						
参考文献・テキスト	ナーシンググラフィカ在宅看護論Ⅰ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会						
評価方法	筆記試験 提出物						

学科目 (単元)	地域・在宅看護方法論 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	前期
目 標	地域で生活するすべての人（発達段階）や疾病、状況に応じた看護の役割の実際を学ぶ。訪問看護ステーションでの取り組みを学ぶことで生活者を時間軸で捉え、生活者としてのイメージ化を促す。それにより対象のニーズ、関心ごと、健康問題を捉えて解釈し、統合的に把握できることを目標とする。						
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・療養者・家族への接近方法、観察方法を説明する。 ・地域における日常生活援助の方法・留意点等を説明する。 ・療養者の状態別の支援内容・方法を説明する。 ・在宅において医療的な管理が必要な療養者の看護について説明する。 ・地域における災害時の対応につちえ説明する。 						
授業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養者・家族へ接遇、在宅における観察方法（災害時の対応含む） 2. 訪問看護ステーションの役割 対象者とのコミュニケーションの実際 ヘルスアセスメントの必要性 接遇の重要性 3. 訪問看護の実際（栄養：食事、胃ろう、在宅静脈栄養法：点滴、皮下注射、ポート） 4. 訪問看護の実際（排泄：膀胱留置カテーテル、ストーマ管理） 5. 訪問看護の実際（清潔・活動：リハビリ、ADL） 6. 訪問看護の実際（多職種との連携方法） 7. 訪問看護の実際（在宅酸素療法・人工呼吸器管理） 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育 方法	講義 演習						
履の 修助 上言	在宅看護総論 I、II の授業内容を復習して臨んで下さい。						
テキ スト ・参 考書	<p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版</p>						
評価 方法	筆記試験						

学科目 (単元)	地域・在宅看護方法論Ⅱ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	前期
目的	<p>地域で生活するすべての人（発達段階）や疾病、状況に応じた看護の役割の実際を学ぶ。実際の地域での看護の取り組みを学ぶことで生活者を時間軸で捉え、生活者としてのイメージ化を促す。特に退院支援からターミナル期までを見据えた看護の実践の具体を学ぶ。それにより対象のニーズ、関心ごと、健康問題を捉えて解釈し、統合的に把握できることを目標とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養の意義と役割を説明する ・地域における日常生活援助の方法・留意点等を説明する。 ・療養者の状態別（退院時、安定期、リハビリ期、急性増悪期）の支援内容・方法を説明する。 ・在宅において医療的な管理が必要な療養者（認知症、難病など）の看護について説明する。 ・在宅における終末期看護について考える。 						
授業計画	<p>暮らしの場で行われる治療と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養の意義と役割 <ul style="list-style-type: none"> 介入時期と看護の継続性 治療の場からの移行期 在宅療養の安定期 在宅リハビリテーション期 急性増悪期 2. 認知症の療養者に対する看護 3. 栄養摂取のアセスメント 4. 災害と感染予防について 5. 神経難病（ALS）の療養者に対する看護 6-7. 在宅における終末期看護 <ul style="list-style-type: none"> 終末期 グリーフケア 継続看護の意義と方法 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義 演習						
履修上の助言	在宅看護総論Ⅰ、Ⅱの授業内容を復習して臨んで下さい。						
テキスト・参考書	<p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版</p>						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	地域・在宅看護方法論Ⅲ	講師名	学内教員：22時間 外来講師：8時間	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	後期
目的	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を果たすための看護過程の展開を学ぶ。事例を用いながら問題解決思考、ICF、強みを活かした考え方を活かして展開していく。対象を尊重して多職種と連携する方法を考える学習内容とする。また、今の健康状態を適切にアセスメントし、対応方法を提案する能力を強化するためにもフィジカルアセスメント技術では演習を取り入れ学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護過程の展開演習を通し、必要な看護を導き出す考え方を説明する。 ・実習で体験する可能性が高い看護技術を、事例に合わせて実施する。 ・訪問者として、適切な態度・マナーについて説明する。 ・在宅における、他職種の支援について学び、それぞれの役割を説明する。 ・全授業を通して、在宅看護実践論に向けて、自己の学習課題を明確にする。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容のオリエンテーション・事例紹介 地域・在宅での生活支援のアセスメントとは 在宅看護過程の展開演習①（療養者の病態をアセスメント） 2. 在宅看護過程の展開演習②（療養者の生活をアセスメント） 3. 在宅看護過程の展開演習③（家族の介護力や生活、支援のアセスメント） 4. 在宅看護過程の展開演習④（家族の強み、セルフケア能力のアセスメント①） 5. 在宅看護過程の展開演習⑤（家族の強み、セルフケア能力のアセスメント②） 6. 在宅看護過程の展開演習⑥（家族の生活支援のアセスメントのまとめ） 7-8. 看護技術演習準備（在宅療養で実施する可能性が高い技術演習 接遇・技術） 9-10. 看護技術演習（在宅療養で実施する可能性が高い技術演習② 接遇・技術） 11-12. 在宅医療のとりくみ①（認知症高齢者と家族への支援の実際） 杉山先生 13-14. 在宅医療のとりくみ②（在宅における終末期医療の実際） ⇒日下部先生 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義、グループワーク、演習						
履修上の助言	生活者を支援することの意識を持って取り組んでください。 地域・在宅看護総論ⅠⅡ 方法論ⅠⅡの内容を必ず復習して授業に参加して下さい。 在宅看護実践論を履修する前年度に履修することが望ましいです。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 地域・在宅看護総論Ⅰ 単位修得 地域・在宅看護総論Ⅱ 履修						
参考文献	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 参考書 強みと弱みからみた 在宅看護過程 医学書院						
評価方法	筆記試験と授業態度（課題の取り組みやGW・演習の取り組み状況）により総合的に評価する。						

学科目 (単元)	地域・在宅看護実践論	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 90時間	3年	前期 後期
目的	<p>地域の暮らしを理解するために、社会資源実習では福祉の場で暮らしの活動への介入を体験し、ノーマライゼーションの考え方、自助、互助、公助として人々が支えあって生きることの大切さを学ぶ。</p> <p>また、訪問看護実習では、生活の場における看護師の役割である療養する人、家族の特性を理解し、QOLの向上とセルフケア能力の向上を目指した看護の実際を学ぶ。そのため、療養者の生活を支援する際の生活をアセスメントし、その人の強み、セルフケア能力を高められるアセスメントを展開し、多職種との行動について考える。まとめとしてグループワークで学びを共有して深める。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で療養する人を支援する社会資源と多職種の役割を、既習学習を活用し説明する。 ・対象を地域で暮らす生活者として捉え、互助、共助の視点を持ち、看護師として支援のあり方を説明する。 ・地域で療養する人、家族（支える人）の健康上の問題や課題を見極めアセスメントする。 ・訪問看護に至る過程、問題解決の考え方とその人の強みを活かした支援方法を説明する。 ・地域で生活する人を支援する社会資源の活用、医療機関との連携、協働について学び、保健医療福祉チームの一員であることを説明する。 ・地域で生活する対象への看護のあり方を考え、医療者として接遇を実践する。 						
授業計画	<p>在宅療養をサポートする施設において実習し、在宅看護の対象となる人々に対する理解を深め、看護の役割を考えるため、下記の内容を実習する。</p> <p>1 実習時間45分</p> <p>【学内学習：9時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.実習内容及び実習施設のオリエンテーション 2.看護過程の展開 3.実践論のまとめ <p>【社会資源実習：障害者通所施設実習・特別支援教育課：36時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.在宅療養者を支援する社会資源と多職種の役割について <p>【訪問看護ステーション・多機能型実習：45時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.療養者と家族の身体的、精神的、社会的特徴について 2.療養者が在宅で療養生活を送るために必要な看護について 3.家族に必要な看護について 4.在宅療養を支援する他のサービス・職種との連携について 5.地域で働く看護師としての心構えについて 6.安定した在宅療養を継続するために必要な看護師の役割について 						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	<p>在宅看護総論Ⅰ、Ⅱ、在宅看護方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業内容を復習し、理解をして実習に参加して下さい。</p> <p>必要な事前学習、記録類などは指定された期日に提出して下さい。</p> <p>一人での行動が多くなります。看護学生として主体的な学びを期待されています</p>						
参考書	<p>ナーシンググラフィカ</p> <p>在宅看護論①② 地域療養を支えるケアと技術メディカ出版</p> <p>在宅看護総論Ⅰ、Ⅱ、在宅看護方法論Ⅰ、Ⅱの授業資料</p> <p>その他、地域・在宅看護の健康問題を理解するために必要な教科書及び資料</p>						
評価方法	実習評価表 参照						

成人看護学

1. 考え方

成人とは、青年期、壮年期、向老期と人生で最も長いライフサイクル上で、身体的には成長・成熟・衰退と変化し、精神的には発達課題を達成する中で成長しつづける存在である。成人看護における看護の対象は、社会や家庭において中心的な役割や、責任をもちながら生活をしている。その対象にとっての「健康」とは何かを考え、医療が必要となった時にも、その人らしく安心して生活が送れるように一人ひとりの立場や役割、生活習慣と関連付けて考える分野である。

日々発展し続けている医療の中で対象を総合的な視点からアセスメントし、看護を実践する能力を養うことを目標とする。

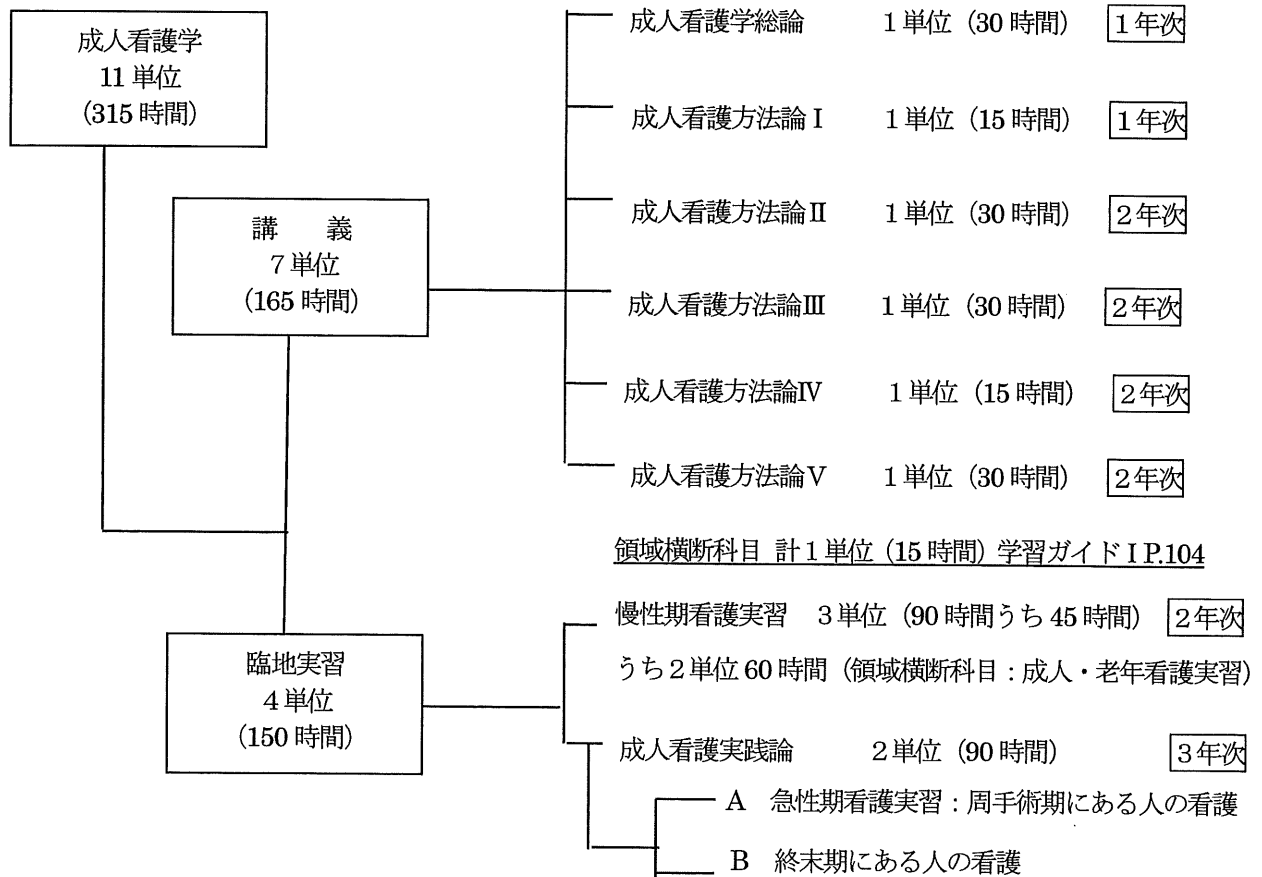
2. 目的

あらゆる健康レベルにある対象に対し、健康の保持・増進・疾病の予防・回復に向けての看護を実践できる能力を養う。

3. 目標

- 1) 成人期にある対象の生理的・心理的・社会的・霊的特徴について学ぶ。
- 2) 成人期にある対象の健康に影響する因子を理解し、看護上の問題を明らかにする。
- 3) 成人期にある対象とその家族の健康状態に応じた看護の方法を学び実践する。

4. 構成



学科目 (単元)	成人看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期 後期
目的	<p>・成人期は人生の中でいちばん長く、変化の著しい期間である。家庭や職場、地域社会でさまざまな役割をもつ成人期にある人の健康の保持・増進や疾病を予防する看護について統合的にとらえ理解する。また、成人期にある人は、活動性や価値観も多様であり、それに伴い健康観も様々である。成人看護に有用な理論を学び、各健康段階にある人の複雑な心理・行動学的な反応を多角的多面的にとらえ、その心理や行動を分析し対象理解を深めて看護に活用する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の特徴や成人の生活と健康障害について関連付けて説明する。 ・成人期にある対象の健康の保持・増進や疾病予防の必要性について述べる。 ・成人期にある対象の看護に必要な基本的な関わり方について、例を用いて説明する。 ・保健指導作成過程において、自己の見解を示す。 ・各健康状態にある対象者や家族の特徴について説明する。 ・各健康状態にある対象者や家族の看護の特徴について説明する。 ・成人期にある対象を看護するときの基本的な関わり方について、例を用いて説明する。 ・事例を用いて、どのように理論を看護に適用したらよいか気づきを示す。 ・グループワークに積極的に参加し、協同学習の姿勢を身につける。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の理解 発達段階と発達課題 成人各期の特徴 アンドラゴジー 2. 成人期にある対象の理解 生涯発達の特徴 健康の保持・増進・疾病予防 3. 生活習慣に関する健康障害 4. ストレスに関する健康障害 5. 職業に関する健康障害 6. 成人期にみられる健康障害から保健指導を考える (グループワーク) 7. 成人保健の動向 (人口動態と生活状況の変遷) 8. 身体機能の変調に合わせた看護：①急性期・回復期にある人の看護 9. 身体機能の変調に合わせた看護：②慢性期・終末期にある人の看護 <p><成人看護に有用な理論・モデルの考え方、看護への適応方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 「セルフマネジメント」 11. 「行動変容モデル」「病みの軌跡」 12. 「自己効力」 13. 「ストレスコーピング」 14. 「危機」 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
方法 教育	講義・協同学習						
助言 履修上の	<p>成人について理解が深められるように、対象理解を基盤に授業を進めていきます。新聞や雑誌・テレビなどを活用して世の中の動向に目を向け、成人期の人の生活や健康障害について考えながら学習をしましょう。</p> <p>授業では、事例を活用しながら理論やモデルをどのように看護へ適用していくかを考えます。</p>						
テキスト 参考書	ナーシング・グラフィカ 国民衛生の動向 系統看護学講座 行動変容を促す看護	成人看護学概論 臨床看護総論					メディカ出版 厚生統計協会 医学書院 医学書院
方法 評価	筆記試験						

学科目 (単元)	成人看護方法論 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	1 年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 運動機能障害、脳神経機能障害を持つ人の身体的・心理的・社会的側面を理解し、対象のQOLの維持、向上につながる看護を学ぶ。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの症状の観察とアセスメントを関連づける。 治療・検査・処置に伴う対象の心理について気づきを示す。 治療・検査・処置・障害受容のプロセスに応じた看護について説明する。 対象のQOLの維持・向上のための看護について説明する。 						
授業計画	<p>【 運動機能障害を持つ人の看護：6 時間 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動機能障害を持つ人の特徴 2. 症状の観察とアセスメント 3. 治療、検査、処置に伴う看護 4. 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） <p>【 脳神経機能障害を持つ人の看護：8 時間 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経機能障害を持つ人の特徴 2. 症状の観察とアセスメント 3. 治療、検査、処置に伴う看護 4. 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） <p>単位認定試験（学習時間なし）</p>						
教育方法	講義・協同学習						
履修上の助言	解剖生理学（特に骨・関節・筋肉）・病態治療論Ⅱ（運動器・脳神経）、看護技術論Ⅶ（歩行・移乗・移送の基礎知識）・成人看護学総論と関連があります。復習をして講義に臨んでください。						
テキスト 参考書	系統看護学講座 系統看護学講座	成人看護学 [7] 成人看護学 [10]	脳・神経 運動器	医学書院 医学書院			
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	成人看護方法論Ⅱ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期 後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 悪性腫瘍やアレルギー疾患、免疫機能障害、代謝・内分泌機能障害、および消化器機能障害、腎・泌尿器機能障害、女性生殖器機能障害を持つ人の身体的・心理的・社会的側面を理解し、対象のQOLの維持、向上につながる看護を学ぶ。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの症状の観察とアセスメントを関連づける。 治療・検査・処置に伴う対象の心理について気づきを示す。 治療・検査・処置・障害受容のプロセスに応じた看護について説明する。 対象のQOLの維持・向上のための看護について説明する。 						
授業計画	<p>各機能障害について以下の①～④を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 機能障害を持つ人の特徴 ② 症状の観察とアセスメント ③ 治療・検査・処置に伴う看護 ④ 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・造血機能障害を持つ人の看護（4時間） 2. 血液・造血機能障害を持つ人の看護 3. アレルギー疾患・免疫機能障害を持つ人の看護（4時間） 4. アレルギー疾患・免疫機能障害を持つ人の看護 5. 代謝・内分泌機能障害を持つ人の看護（6時間） 6. 代謝・内分泌機能障害を持つ人の看護 7. 代謝・内分泌機能障害を持つ人の看護 8. 消化機能障害を持つ人の看護（6時間） 9. 消化機能障害を持つ人の看護 10. 消化機能障害を持つ人の看護 11. 腎・泌尿器機能障害を持つ人の看護（4時間） 12. 腎・泌尿器機能障害を持つ人の看護 13. 女性生殖器機能障害を持つ人の看護（婦人科：2時間） 14. 女性生殖器機能障害を持つ人の看護（乳腺：2時間） 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・協同学習						
助言 履修上の	解剖生理学、病態治療論Ⅲ、成人看護学総論と関連があります。復習をして、講義に臨んでください。						
テキスト 参考書	系統看護学講座	成人看護学	[4]	血液・造血器			医学書院
	系統看護学講座	成人看護学	[5]	消化器			医学書院
	系統看護学講座	成人看護学	[6]	内分泌・代謝			医学書院
	系統看護学講座	成人看護学	[8]	腎・泌尿器			医学書院
	系統看護学講座	成人看護学	[9]	女性生殖器			医学書院
	系統看護学講座	成人看護学	[11]	アレルギー 膠原病 感染症			医学書院
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	成人看護方法論Ⅲ	講師名	学内教員 外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルな状態にある人、循環器機能障害、呼吸器機能障害を持つ人の身体的・心理的・社会的側面を理解し、対象のQOLの維持、向上につながる看護を学ぶ。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの症状の観察とアセスメントを関連づける。 ・治療・検査・処置に伴う対象の心理について気づきを示す。 ・治療・検査・処置・障害受容のプロセスに応じた看護について説明する。 ・対象のQOLの維持・向上のための看護について説明する。 						
授業計画	<p>【クリティカルな状態にある人の看護：4時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルな状態にある人患者・家族の特徴と看護 2. 一次救命処置（胸骨圧迫、人工呼吸、AED）の演習 <p>【循環器機能障害を持つ人の看護：12時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器機能障害を持つ人の特徴 2. 症状の観察とアセスメント 3. 循環器系のフィジカルアセスメント 4. 治療、検査、処置に伴う看護 ① 5. 治療、検査、処置に伴う看護 ②（心臓リハビリテーションなど） 6. 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） <p>【呼吸器機能障害を持つ人の看護：12時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器機能障害を持つ人の特徴 2. 症状の観察とアセスメント 3. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 4. 治療、検査、処置に伴う看護 ① 5. 治療、検査、処置に伴う看護 ②（酸素療法・呼吸リハビリテーションなど） 6. 障害受容プロセスに応じた看護（社会生活への援助） <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教育方法	講義・演習・協同学習						
履修上の助言	解剖生理学（循環器・呼吸器）、病態治療論Ⅰ（呼吸器・循環器）、成人看護学総論と関連があります。復習をして、講義に臨んでください。						
テキスト・参考書	系統看護学講座	成人看護学[2]	呼吸器			医学書院	
	・系統看護学講座	成人看護学[3]	循環器			医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	第2版				医学書院	
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	成人看護方法論Ⅳ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 紙上事例を用いて、個人およびグループワークを通して、慢性期にある人の看護過程を展開し、成人・老年実践論に向けてアセスメントする能力を育成する。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 事例をもとに、看護過程を通して慢性期にある人にとって必要な看護について考え、記述する。 対象を生活者と捉え、社会復帰まで見据えたアセスメントを行い、看護上の問題を抽出する。 個別性のある視点で看護計画を立案する。 ペアワークやグループワークを通して、慢性期のアセスメントを深める。 						
授業計画	<p>【成人期の自己管理を必要とする人の看護・事例展開】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的様式のアセスメント発表と検討 (グループワーク) ① 2. 生理的様式のアセスメント発表と検討 (グループワーク) ② 3. 自己概念様式のアセスメント発表と検討 (グループワーク) 4. 役割機能様式・相互依存様式のアセスメント発表と検討 (グループワーク) 5. 全体像の発表と検討 (グループワーク) 簡易アセスメントの記載方法 (講義) 6. 簡易アセスメントの発表と検討 (グループワーク) 看護計画の立案の考え方 (講義) 7. 看護計画の発表と検討 (グループワーク) 8. 単位認定試験 (学習時間なし) 						
教育方法	講義・事例展開・協同学習						
履修上の助言	看護技術論Ⅲ (看護過程)、成人看護学総論の復習をして、講義に臨んでください。春休み前に課題を提示します。課題は計画的に取り組みましょう。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 成人看護学総論 単位修得						
テキスト 参考書	ナーシング・グラフィカ 行動変容を促す看護 ザ・ロイ適応看護モデル、看護診断ハンドブック 看護過程に沿った対症看護		成人看護学概論		メディカ出版 医学書院 医学書院 学研		
評価方法	筆記試験 学習課題 (授業概要参照)						

学科目 (単元)	成人看護方法論V	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期															
目的	<ul style="list-style-type: none"> 周手術期にある人の身体的、心理的、社会的状況を理解し、急性期から社会復帰に至るまでの看護について学ぶ。また、事例を用いて周手術期にある人の一連の看護過程を学ぶ。 																					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 周手術期看護の特徴と看護師の役割について説明する。 手術を受ける患者の身体的・心理的・社会的影響を述べる。 手術療法を受ける患者に起こりうる合併症とその予防のための看護について説明する。 手術療法を受ける患者の看護過程から回復を促進するための看護を理解する。 ペアワークやグループワークを通して、周手術期のアセスメントを深める。 																					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 手術後の生体反応(神経・内分泌系反応、サイトカイン誘発反応) 術後合併症予防の看護 ① 循環器 術後合併症予防の看護 ② 循環器 術後合併症予防の看護 ③ 呼吸器 術後合併症予防の看護 ④ 疼痛 術後合併症予防の看護 ⑤ 消化器 術後合併症予防の看護 ⑥ 創傷治癒過程、縫合不全 術前評価と術前の患者の看護 術後せん妄の看護 周手術期にある患者の事例展開(手術前日) アセスメント検討・発表 (GW・発表) 周手術期にある患者の事例展開(手術当日) アセスメント検討・発表 (GW・発表) 周手術期にある患者の事例展開(手術1日目) アセスメント検討・発表 (GW・発表) 周手術期にある患者の事例展開(手術3日目) アセスメント検討・発表 (GW・発表) 周手術期にある患者の事例展開(退院前) アセスメント検討・発表 (GW・発表) 学習時間あり・単位認定試験 																					
教育方法	講義・事例展開・協同学習																					
履修上の 助言	解剖生理学、総合治療論、病態治療論、看護技術論II(看護過程)、成人看護方法論IV(慢性期看護過程)の復習をして、講義に臨んでください。夏休み前に課題を提示します。事前課題には計画的に取り組みましょう。																					
履修要件	看護技術論I 単位修得 看護技術論II 単位修得 成人看護学総論 単位修得 総合治療論 履修																					
テキスト 参考書	<table border="0"> <tr> <td>高齢者と成人の周手術期看護</td> <td>1 外来/病棟における術前看護</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>高齢者と成人の周手術期看護</td> <td>2 術中/術後の生体反応と急性期看護</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>高齢者と成人の周手術期看護</td> <td>3 開腹術/腹腔鏡下看護を受ける患者の看護</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>周手術期の臨床判断を磨く</td> <td>手術侵襲と生体反応から導く看護</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>臨床外科看護総論</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>							高齢者と成人の周手術期看護	1 外来/病棟における術前看護	医歯薬出版	高齢者と成人の周手術期看護	2 術中/術後の生体反応と急性期看護	医歯薬出版	高齢者と成人の周手術期看護	3 開腹術/腹腔鏡下看護を受ける患者の看護	医歯薬出版	周手術期の臨床判断を磨く	手術侵襲と生体反応から導く看護	医学書院	系統看護学講座	臨床外科看護総論	医学書院
高齢者と成人の周手術期看護	1 外来/病棟における術前看護	医歯薬出版																				
高齢者と成人の周手術期看護	2 術中/術後の生体反応と急性期看護	医歯薬出版																				
高齢者と成人の周手術期看護	3 開腹術/腹腔鏡下看護を受ける患者の看護	医歯薬出版																				
周手術期の臨床判断を磨く	手術侵襲と生体反応から導く看護	医学書院																				
系統看護学講座	臨床外科看護総論	医学書院																				
評価方法	筆記試験																					

学科目 (単元)	成人看護実践論 A (周手術期にある人の看護)	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 66/90 時間	3年	前期 後期
目的	・周手術期にある人の身体面・心理面に及ぼす影響を理解し、心身の回復および社会復帰に向けた看護の基礎的能力を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手術や検査が対象の身体面・心理面に及ぼす影響を説明する。 ・症状に伴う苦痛の緩和、手術後の回復を促進する援助を実践する。 ・手術が与える生活への影響とその援助について考察する。 						
授業計画	<p>1 実習時間 45分</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある人の身体的・心理的变化を周手術期の経過に沿って理解する。 2. 病態・患者背景・治療・看護など収集した情報を日々アセスメントする。 3. 手術前の患者や家族の心理状態、手術の準備、術後合併症予防のための援助の実施。 4. 手術当日の援助、医師・病棟看護師・手術室看護師との連携と継続看護、チーム医療について学ぶ。 5. 症状に伴う苦痛の緩和、手術後の回復を促進する援助の実施。 6. 手術が与える生活への影響とその援助について理解を深める。 7. 手術後の日常生活や退院に向けて、回復を促進するための援助の実施。 						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	<p>実習オリエンテーションには必ず参加してください。</p> <p>総合治療論、成人看護学総論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅵの授業内容を復習して、実習に臨んでください。また、周手術期を通して術後合併症を予防する援助が必要になります。</p>						
テキスト 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ・Ⅱ、各論 ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下看護を受ける患者の看護 周手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 系統看護学講座 臨床外科看護総論 ザ・ロイ適応看護モデル 看護診断ハンドブック 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント</p>					<p>医学書院 メディカ出版 医歯薬出版 医歯薬出版 医歯薬出版 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 メディックメディア</p>	
評価方法	<p>実習評価表 参照</p> <p>成人看護実践論のうち、成人看護実践論Aは90点とする。</p>						

学科目 (単元)	成人看護実践論B (終末期にある人の看護)	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 24/90 時間	3年	前期 後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 終末期にある人とその家族に対する看護師や他職種とのかかわりを通して、その人の全人的苦痛の緩和とその人らしく生きていくことの意味について自己の考えを深める。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 終末期にある人の身体的・精神的・社会的・霊的苦痛に対する気づきを示す。 終末期にある人とその家族の状況と行われる援助を関連づける。 実習を通して、生と死について考え、自己の見解を示す。 緩和ケア病棟の特色と役割について、見学内容をもとに説明する。 						
授業計画	<p>1 実習時間 45分</p> <ol style="list-style-type: none"> 終末期にある人の理解とケア、緩和ケアとは何か、家族ケア、エンゼルケアについて事前学習し、実習に臨む。 看護師のシャドーイングを通して緩和ケアにおける対象と家族への看護を学ぶ。 日々、カンファレンスで見学内容を共有し、学びを深める。 学習内容 <ul style="list-style-type: none"> ①終末期にある人との関わりを通し、身体的・精神的・社会的・霊的苦痛とは何かを知る。 ②終末期にある人とその家族に行われている援助の実際を学ぶ。 ③生と死について自己の考えを深める。 ④緩和ケア病棟の特色と役割を学ぶ。 学びや気づきを実習記録に記載する。 必要時、追加学習をして学習を深める。 						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	<p>オリエンテーションには必ず参加し、「終末期と看護」の授業内容を復習して、実習に臨んでください。</p> <p>終末期にある人の苦痛を和らげる援助や基本的な看護技術について、手順や留意点を事前学習し、まとめておきましょう。</p> <p>積極的に質問し、カンファレンスでも意見交換を充実させ、多くのことを感じ、学んでください。</p>						
テキスト 参考書	ナーシング・グラフィカ 緩和ケア メディカ出版						
評価方法	<p>実習評価表 参照</p> <p>成人看護実践論のうち、成人看護実践論Bは10点とする。</p>						

老年看護学

1. 考え方

老年期とは、老化に基づく身体的な衰退と定年や子供の教育の終了に伴う社会活動の衰退をきたし、人生の終わりに向かって生きている特別な意味をもつ時期である。

老年人口が急増している現在、医療、福祉はいうまでもなく、教育や産業の分野でも高齢者問題が重視され、看護においてはその実践の範囲が施設内から地域へと拡大してきている。対象および家族が望む生き方を支援するためには、老化が身体的、精神的、社会的にどのような変化をもたらすのかということを理解し、様々な経験に裏付けされた知識や実績を豊富にもつ対象の価値観を尊重した看護が必要となる。

老年看護学では、高齢社会における看護の役割や老年期にある人の疾病の予防・回復、健康の保持・増進への援助を行うために必要な知識・技術・態度の習得を目標とする。

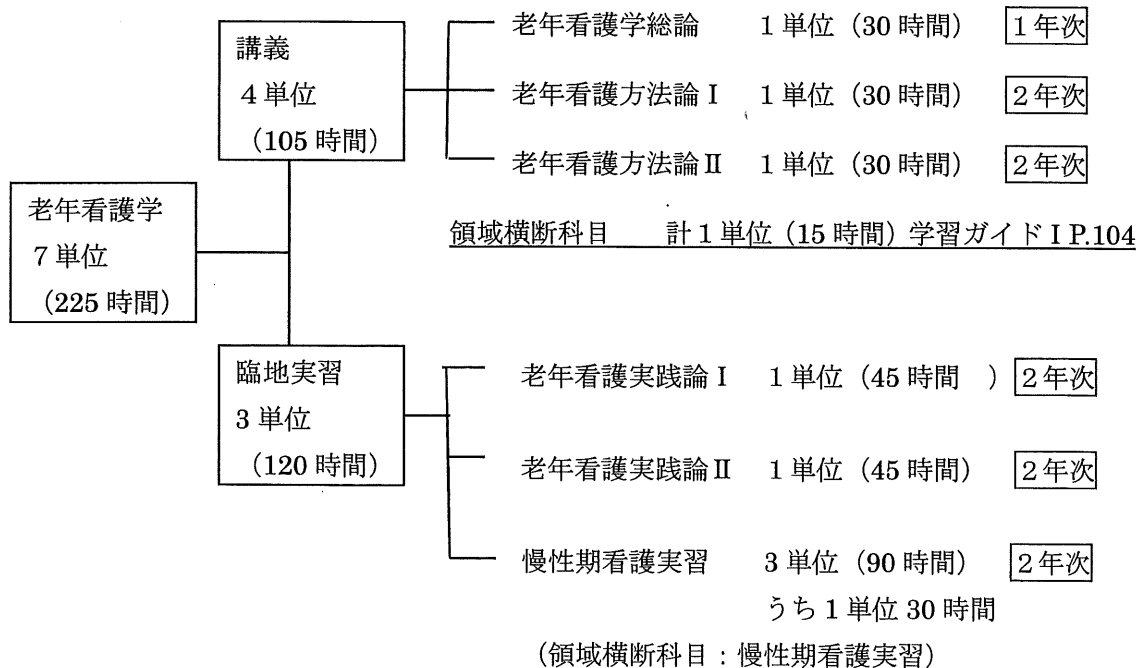
2. 老年看護学の目的

老年期にある対象と家族に対し、健康の保持・増進、疾病の予防・回復に向けての看護を実践できる能力を養う。

3. 老年看護学の目標

- 1) 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明する。
- 2) 老年期にある対象を支える保健、医療、福祉制度を説明する。
- 3) 発達課題をふまえ、健康状態に応じた対象およびその家族に対する看護の方法を考え実践する。
- 4) 対象の価値観を尊重する態度を身につける。

4. 構成



学科目 (単元)	老年看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・老化が身体的・精神的・社会的にどのような変化をもたらすかを理解した上で、高齢者をとりまく環境と社会の考え方を知り看護に活かすことが求められる。過去は長く、未来の短いことを認識して生活している高齢者の思いを知り、老年期にある対象に届くコミュニケーションを培い、安全・安楽・自立・予防的側面を常に考え、看護実践に活かす素地を学ぶ。 ・様々な経験に裏打ちされた知識や実績を豊富にもつ高齢者に対して、対象の価値観・生活習慣を知り、親しみと尊敬の気持ちをもって、援助できることが望ましい。知識を深め活用できるように身につけることを目的とする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の定義をふまえ、理論から老年期の発達課題、統計的特徴を説明する。 ・高齢者の身体的特徴を高齢者模擬体験をふまえて述べる。 ・老年看護の倫理として、高齢者虐待、安全確保と身体拘束、アドボカシーについて説明する。 ・認知症高齢者と生活する家族の思いと家族への支援について考えを述べる。 ・高齢者に関する社会制度と生活を支える仕組みを説明する。 ・高齢者の疾病の特徴や身体的変化をもとに、災害時の看護、高齢者の機能低下と事故の関連性について説明する。 ・老年看護の目標をふまえ、老年看護に携わる者の責務を説明する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の定義と、老年期の発達課題 2. 高齢者に関する統計的特徴及び、有訴者率、通院者率、受療率の特徴 3. 高齢者の高齢者疑似体験、高齢者が日常生活で感じている怖さ、不自由さ 4. 高齢者の特徴をふまえた看護 高齢者の疾患の特徴、恒常性と4つの力の変化、フレイル、サルコペニア 5. 高齢者の特徴をふまえた看護 (GW) : 加齢によって起こる変化 6. 高齢者の特徴をふまえた看護 (GW発表) : 加齢によって起こる変化 7. 日常生活を支える基本動作と看護ケア① 高齢者の身体機能の変化による運動機能への影響 高齢者に多い転倒・転落を予防するためのアセスメントとケア 8. 日常生活を支える基本動作と看護ケア② 高齢者の身体機能の変化による運動機能への影響 高齢者に多い転倒・転落を予防するためのアセスメントとケア 9. 高齢者に関連する社会制度の実際と、高齢者の生活を支える地域の支援 10. 高齢者の生活を支える仕組み 11. 高齢者の権利擁護：高齢者虐待、アドボカシー、ノーマライゼーション 12. 高齢者の特徴をふまえた看護 (GW発表・共有) 災害時の事例、リロケーションダメージ、生活不活発病、事故対策 13. 認知症高齢者と生活する家族の思い、ユマニチュード 14. セルフケアの定義と老年看護の役割 セルフケア理論を活用し、患者のセルフケア能力に合わせた援助 老年看護の役割 エンパワメントを生み出すための関わり 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・グループワーク、演習を多く取り入れ、学習します。DVDを視聴します。						
履修上の助言	テキスト、プリントを使用します。テキストは事前に目を通しておいてください。新聞を読み、学生の地域の広報誌に目を向け、高齢者に対する情報を得ておいてください。						
参考文献	系統看護学講座 老年看護学 ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 新看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者			医学書院 メディカ出版 中央法規			
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	老年看護方法論 I	講師名	学内教員 外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	前期
目的	<p>・この科目では、加齢に伴う主な機能低下や高齢者特有の健康障害、多くみられる症状・治療・検査に対するケアや看護を学ぶ。これらを学ぶことによって、老健実習（老年看護実践論Ⅱ）や病院実習で高齢者を受け持った際に、高齢者の健康状態をアセスメントし、対象にあわせた看護を実践できることを目的とする。</p>						
到達目標	<p>・日常生活を営む上での高齢者の特徴（加齢による機能低下、病的機能低下）を説明する。 ・高齢者特有の加齢に伴う主な健康障害や症状・治療・検査に対するケアや看護を述べる。 ・高齢者の健康状態をアセスメントし、その対象にあわせた看護を展開するための基本、実践のための看護援助の基本、高齢者の健康障害に着目した看護の原理について述べる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活リズムと看護ケア 高齢者にしばしばみられる睡眠障害と生活リズムの調整 2. 食事と看護ケア 高齢者の栄養と食生活、栄養投与方法 3-4. 摂食、嚥下障害のある高齢者に多い症状と看護 摂食嚥下のメカニズム、高齢者の摂食嚥下の特徴とアセスメント 高齢者の摂食嚥下障害の看護と評価、摂食嚥下リハビリテーション 5. 排泄と看護ケア 老化による排泄機能の生理的・病的低下、高齢者に多い排泄障害と対応（失禁・便秘） 6. 清潔と看護ケア 高齢者の皮膚の特徴・高齢者に多い臨床症状（老人性皮膚掻痒症）、安全な入浴への援助 7-8. 褥瘡のある高齢者に多い症状と看護 褥瘡の定義・発生機序、褥瘡予防、褥瘡の治療、褥瘡の発生予測・発生予防 褥瘡リスクの評価、褥瘡発生後の看護の実際 9. 脱水のある高齢者の症状と看護 加齢による脱水症の病態と要因、脱水症のアセスメント、脱水症の予防と援助 10. 薬物療法を必要とする高齢者の看護 加齢に伴う薬物動態の変化と薬物動態による有害反応、高齢者の薬物療法の特徴と看護 11-12. 認知症のある高齢者に多い症状と看護 認知症の定義、基本構造、認知症の診断・治療と予防、認知症の評価方法 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本と看護の実際 13. 手術療法を必要とする高齢者の看護 手術を受ける高齢者の特徴、術後せん妄の要因・誘因とメカニズム、看護のポイント 経皮内視鏡的胃瘻増設術（PEG）の概要、合併症 14. 胃瘻を造設した高齢者の看護 経管栄養における高齢者の特徴とケアの必要性 PEGの管理と栄養管理法（栄養注入ルート）の選択、高齢者に関する栄養評価の方法 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義、グループワーク、演習						
履修の助言	<p>テキストは該当箇所を受講前に目を通しておいてください。 老年看護学総論で学習した内容について復習しておいてください。</p>						
テキスト参考書	系統看護学講座 老年看護学 ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 根拠と事故防止から見た老年看護技術 新看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者			医学書院 メディカ出版 医学書院 中央法規出版			
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	老年看護方法論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 事例の看護過程の展開を通して、科学的・論理的思考能力を養う。特に加齢に伴う心身の変化、様々な健康レベルにある老年者の生活像を理解し、望ましい生活への援助について学ぶ。また、高齢者をイメージ化でき、対象を尊重しながら、自立を促す具体的な援助について考えることを目的とする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 対象の加齢に伴う変化や対象（家族も含む）の生活をふまえてアセスメントし、看護上の問題を抽出する。 個別性のある視点で看護計画を立案する。 援助時に予測される危険について述べる。 						
授業計画	<p>1-2. 老年期の看護過程の展開（講義） 高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方、高齢者の総合的機能評価（GCA）</p> <p>3. 病院における老年期の看護過程の展開 ①生理的様式のアセスメント（GW）</p> <p>4. 病院における老年期の看護過程の展開 ②生理的様式のアセスメント（GW）</p> <p>5. 病院における老年期の看護過程の展開 ③自己概念様式・相互依存様式のアセスメント（GW）</p> <p>6. 病院における老年期の看護過程の展開 ④アセスメントのまとめと看護計画立案</p> <p>7. 病院における老年期の看護過程の展開 ⑤看護計画の発表と検討（GW）</p> <p>8-9. 病院における老年期の看護過程の展開 ⑥看護計画の実施（演習）</p> <p>10. 施設における老年期の看護過程の展開（講義）</p> <p>11. 施設における老年期の看護過程の展開 ①アセスメントの発表</p> <p>12. 施設における老年期の看護過程の展開 ②アセスメントのまとめ</p> <p>13-14. 施設における老年期の看護過程の展開 ③経鼻胃管の挿入、経管栄養法の実施（演習）</p> <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教育方法	講義、グループワーク、演習						
履修上の助言	看護過程の復習をしておいてください。 解剖生理学、病態治療論、老年看護学総論、老年看護方法論Ⅰと関連があります。 各自、自己学習を行い受講してください。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 老年看護学総論 単位修得						
参考書・テキスト	系統看護学講座 老年看護学 ナーシンググラフィカ 老年看護学② 根拠と事故防止から見た老年看護技術 新看護観察のキーポイント 高齢者			高齢者看護の実践		医学書院 メディカ出版 医学書院 中央法規出版	
評価方法	筆記試験 ※授業概要参照						

学科目 (単元)	老年看護実践論 I (地域で生活する高齢者を支える看護)	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 45 時間	2 年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活する高齢者との関わりをとおり、高齢者の理解を深める。高齢者の健康を維持し、生活を可能にするための施設および、行われている支援内容を学ぶ。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を取り巻く社会支援（老人福祉センター）について気づきを示す。 ・高齢者の身体的特徴や生活行動の具体例を列挙する。 ・通所介護サービスの実際や対象について気づきを示す。 ・高齢者の健康管理の実際と通所介護における看護の役割について解釈を述べる。 ・高齢者の特徴を考慮した関わり方を学び、老年看護の基礎となる態度を見出す。 						
授業計画	<p>1 実習時間 45 分</p> <p>1. 【老人福祉センター】 (23 時間)</p> <p>老人福祉センターを利用している高齢者と関わることで、身体的特徴や生活行動等を、コミュニケーションを通して理解する。また、難聴・視力低下などの加齢に伴う身体的特徴を考慮した関わり方を学び、老年看護の基礎となる態度について理解する。</p> <p>2. 【通所介護】 (22 時間)</p> <p>通所介護サービスの概要と行われている看護の実際を学ぶ。 通所している高齢者と関わり、高齢者の理解を深める。</p>						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	<p>実習オリエンテーションには必ず出席してください。</p> <p>各施設の役割と利用する高齢者の健康レベルについて事前学習をして臨んでください。</p> <p>親しみと尊敬の気持ちをもって高齢者に関わり、高齢者の理解を深めてください。</p> <p>必要な記録物などは指定された期日に提出してください。</p>						
履修要件	<p>老年看護学総論 単位修得</p> <p>基礎看護実践論 I 単位修得</p> <p>基礎看護実践論 II 単位修得</p>						
テキスト・参考書	<p>系統看護学講座 老年看護学</p> <p>新看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者</p> <p>ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際</p> <p>根拠と事故防止から見た老年看護技術</p>			<p>医学書院</p> <p>中央法規</p> <p>メディカ出版</p> <p>医学書院</p>			
評価方法	実習評価表 参照						

学科目 (単元)	老年看護実践論Ⅱ (施設で生活する高齢者を支える看護)	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 45時間	2年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病・障害をきたした高齢者を対象に生活適応への援助を考察し、多職種との連携や看護職の役割について学ぶ。 						
到達目標	<p>【介護老人保健施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人保健施設の特徴を把握し、対象の身体・心理・生活背景の特徴を説明する。 ・対象にあったコミュニケーションの方法を考え、関わる。 ・対象に行われているサービスの実際を知り、意味づける。 ・介護老人保健施設のチームアプローチにおける看護師の役割を考える。 <p>【認知症高齢者疑似体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の体験している心理（内的な世界）を経験する。 ・認知症高齢者に対する関わりについて考えを述べる。 						
授業計画	<p>1 実習時間 45分</p> <p>1. 【介護老人保健施設】 (42時間) 介護老人保健施設に入所している高齢者を受け持ち、対象の理解を深める。 対象に行われているサービス・看護の意味を理解する。 介護老人保健施設における看護師の役割、他職種との連携を学ぶ。</p> <p>2. 【認知症高齢者疑似体験】 (3時間) 認知症高齢者の体験している心理（内的な世界）について疑似体験を行う。</p>						
教育方法	<p>臨地実習</p>						
履修上の助言	<p>実習オリエンテーションには必ず出席してください。 各施設の役割と利用する高齢者の健康レベルについて事前学習をして臨んでください。 親しみと尊敬の気持ちをもって高齢者に関わり、高齢者の理解を深めてください。 必要な記録物などは指定された期日に提出してください。</p>						
履修要件	<p>老年看護学総論 単位修得 老年看護方法論Ⅰ 履修 老年看護方法論Ⅱ 2/3以上の出席 基礎看護実践論Ⅰ 単位修得 基礎看護実践論Ⅱ 単位修得 基礎看護実践論Ⅲ 履修 老年看護実践論Ⅰ 履修</p>						
テキスト・参考書	<p>系統看護学講座 老年看護学 新看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者 ナースングラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 根拠と事故防止から見た老年看護技術</p>			<p>医学書院 中央法規 メディカ出版 医学書院</p>			
評価方法	<p>実習評価表 参照</p>						

小児看護学

1. 考え方

小児看護の対象である小児は、社会の一員として、無限の可能性と個性を持ちつつ生活している人間であり未来を担うかけがえのない世代である。小児期は成長・発達の途上にあり人として生活していく基盤を形成する時期であり、様々な環境との相互作用は人間形成に多大な影響を与える。

小児期は依存と自立の過程にあり親、家族、社会の養護が必要であるが、子どもなりの力を持っており、小児はその能力を十分に伸ばすと共に独自の個性を尊重されなければならない。親、家族及び地域、社会は小児が健全な発育を遂げるために必要なよい環境を整えなければならない。

小児看護は小児の健全な成長・発達に責任を持ち、あらゆる健康状態にある小児が各自の能力を十分に発揮し、個々にあったより良い生活を送ることができるよう、援助を行うことである。

子どもの心身の状況や生活状況を判断し、子どものもつ能力と可能性を最大限に引き出し、その子どもと家族にふさわしい生活を提供する責任がある。その役割と責任を身につけるために、小児看護学は小児期の特徴や小児をとりまく社会、親及び家族を含む対象を理解し小児の状況にあった看護援助を行うための基礎的知識、技術、態度を養うことを目的とする。子どもと家族が体験していることに寄り添い、子どもと家族の最善の利益を守る専門職業人として自ら学ぶ態度を養うことをめざしている。

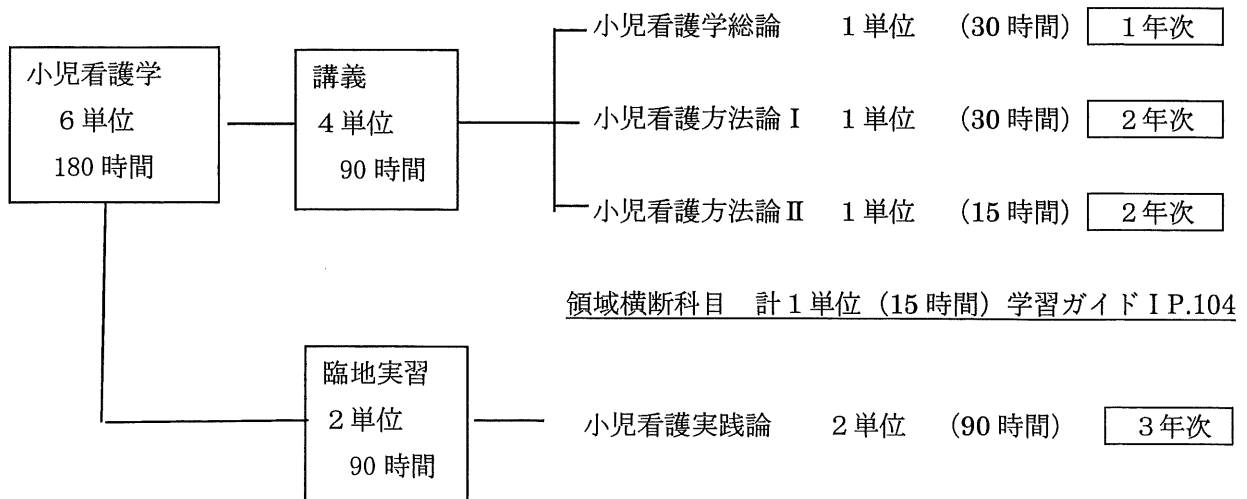
2. 目的

小児看護学の学習を通し、あらゆる健康レベルにある小児とその家族の状況にあった看護活動を行うための基礎知識・技術・態度を習得する。

3. 目標

- 1) 子どもの人権と基本的倫理に基づいた看護を説明する。
- 2) 子どもの成長・発達を説明する。
- 3) 小児各期の特徴に適した生活と養護について説明する。
- 4) 子どもをとりまく社会的状況とその動向、および子どもの成長発達を促し、健康の保持、増進、病気の回復を促すための看護活動を実践する。
- 5) 子どもと家族が、最善の利益を得ることができるための関わりを実践する。
- 6) 小児看護に必要な基本的な看護技術を身につける。

4. 構成



学科目 (単元)	小児看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特徴や成長発達、子どもを取り巻く環境の意義、子どもの人権について理解し、子どもの存在や小児看護の役割について学ぶ。 ・現在の社会や家族の問題が子どもの健康に及ぼす影響を理解し、子どもが健やかに成長発達することについて考える。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の成長発達の順序性を説明する。 ・各発達段階の特徴を踏まえた関わりを具体化する。 ・子どもと家族にとって最善の看護を考える上で基盤となる知識を習得する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴と理念 2. 子どものコミュニケーションの特徴 3. 子どもの権利 4. 成長・発達の基本的知識 5. 小児看護で必要な発達理論 6. 乳児期の特徴と世話 7. 幼児期の特徴と世話① 8. 幼児期の特徴と世話②日常生活の自立に向けた支援 9. 学童・思春期の特徴と世話 10. 子どもの起こりやすい事故と対策 11. 小児の栄養① 12. 小児の栄養② 13. 子どもの遊びの意義 14. 小児と家族を取り巻く社会環境と動向 家族の特徴 小児と家族の諸統計 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・演習・グループワーク						
履修上の助言	<p>小児看護学は、自分の成長発達してきた道すじを洞察する機会にもなります。まず、身近な子どもたちに目を向けて子どもの理解につなげましょう。</p> <p>子どもの育つ環境は時代とともに変化しています。子どもを取り巻く社会の動向に目を向け意識してテレビや雑誌に目を通し、子どもの育つ環境に関心を寄せましょう。</p>						
テキスト・参考書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 看護のための人間発達学 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 国民衛生の動向					医学書院 医学書院 医学書院 照林社	
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	小児看護方法論 I	講師名	学内教員 外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 健康障害で入院する子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもの健康段階に応じた看護の方法を学習する。 状況に適した基本的な小児看護技術について学び、子どもと家族に最適な看護を考える。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康障害を持つ子どもの状態を成長発達や理論に基づいて説明する。 健康段階に応じて必要な子どもと家族の看護について説明する。 健康障害を持ちながら成長発達する子どもの持つ力を引き出す看護を表現する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外来受診をする子どもと家族の看護 2. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護 3. 小児病棟で起こりうる事故とその対策 4. 先天性疾患の子どもと家族の看護 5. 小児の周手術期看護 6. 急性期の子どもと家族の看護 7. 子どもの事故と救命救急 ① 8. 子どもの事故と救命救急 ② 9. 障害を持った子どもの生活と看護 10. こころの健康障害を持った子どもと家族の看護 11. 慢性期の子どもと家族の看護 12. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 13. 心理的準備とプレパレーション 14. 事例をもとにプレパレーション演習 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義 演習						
履修上の助言	小児病態学、小児看護学総論の学習内容の理解が大切です。これらの授業でのノート・資料・学習内容を基に健康障害のある子どもと家族の看護について学んでいきましょう。臨床で小児看護に携わる看護師より講義を予定しています。臨床での事例を多くお話し頂けるとと思います。興味関心をもって積極的に授業に臨みましょう。						
テキスト参考書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医療安全ワークブック 看護のための人間発達学 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版		医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 照林社				
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	小児看護方法論Ⅱ	講師名		学内教員		単位 (時間)	1単位 15時間	2年		後期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して子どもと家族に必要な看護につながる考え方を学ぶ。 ・設定した場面の演習を通してアセスメントし行動する能力を育成する。 										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事例をもとに、看護過程を通して子どもと家族にとって必要な看護について考え、記述する。 ・事例をアセスメント(情報収集から情報の分析)し、子どもの全体を図式化することにより、子どもがどのような状況にあるかを考え、解決すべき問題(看護診断)を明確にする。 ・事例の病態、発達段階、個性性をアセスメントし看護介入を考え、記述する。 ・設定場面から子どもに起きていることは何かを観察し、看護に必要な行動がとれる。 										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経過記録(1)の注目した情報・情報の分析・目標・看護介入① 2. 経過記録(1)の注目した情報・情報の分析・目標・看護介入② 3. 経過記録(1)の発表 事例を基に行動のアセスメント、刺激のアセスメント、看護診断 4. 診断と優先順位の思考をについてカテゴリーの共有・検討・発表準備 5. 看護診断発表。事例を基に全体像の作成 6. 全体像を発表し学びを共有 7. 演習 8. 単位認定試験(学習時間なし) 										
教育方法	グループワーク・グループ発表・講義、演習										
履修上の 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を理解するために、病態と機能障害、治療、子どもの成長発達、等について十分な知識を自己学習したうえで授業に臨んでください。 ・看護過程の基本的な考え方を復習し、小児看護の特徴を重視した看護過程の考え方を学んでいきましょう。 										
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 小児看護学総論 単位修得										
テキスト 参考書	系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 照林社 看護のための人間発達学 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院										
評価方法	筆記試験・提出物										

学科目 (単元)	小児看護実践論	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 90時間	3年	前期 後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとの関わりを通して成長発達する子どもの特徴を理解する。また、健康障害を持つ子どもと家族の特徴を理解する。 子どもと家族が必要としている看護を考え、看護を行うための基本的知識、技術、態度を身につけ、小児看護における看護実践能力を養う。 						
到達目標	<p>【病棟実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもに関心をもって関わる。 健康障害や入院が子どもの成長発達におよぼす影響を説明する。 健康障害や入院が子どもと家族におよぼす影響を説明する。 子どもと家族の状況に応じた看護を実践する。 子どもの事故防止・安全を理解し行動する。 <p>【保育園実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもに関心をもって関わる。 子どものコミュニケーションの特徴について説明する。 発達段階に合った基本的生活習慣の自立への援助を実践する。 子どもの身体的・精神的・社会的な成長発達を説明する。 子どもの安全についての環境や工夫を実践する。 子どもが育つことについて自己の考えを文章化する。 						
授業計画	<p>1 実習時間 45分</p> <p>【病棟実習 (60 時間)】 健康障害を持つ子どもとの関わりを通して子どもの特徴を理解し、子どもとその家族の看護を考え実践する。病棟で1名を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>【保育園実習 (30 時間)】 保育園で生活している子どもたちとの関わりを通して、子どもの健やかな成長発達を考える。学生個々が発達段階の異なるクラスで実習し、学びを共有する。</p>						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	既習学習を活用しながら、子どもの理解を深めていきましょう。子どもとの関わりを通して、感じたこと考えたことを看護に活かしてください。						
テキスト・参考書	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児臨床看護各論 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 看護のための人間発達学 看護診断ハンドブック				医学書院 医学書院 照林社 医学書院 医学書院		
評価方法	実習評価表 参照						

母性看護学

1. 考え方

母性看護の対象は、妊産褥婦とその子どもだけでなく、全てのライフステージにある女性である。また女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、母子をとりまく家族も対象であり、社会の中に存在・生活し、成長・発達している。その対象を取り巻く社会において、それぞれの生き方や役割の多様性、少子化、生殖補助医療技術の進歩・発展とそれに伴う生命誕生に関わる多様の倫理観、母子をめぐる生活環境の著しい変化が認められる。時代における変化は、女性を取り巻く環境として健康に影響を与え、女性の現在の健康は次世代の健康にも影響を及ぼす。そのため、対象をとりまく環境や社会のニーズに敏感になり、女性のライフステージに応じた変化を捉え、女性の一生を通じて健康の保持・増進と QOL の向上を図ることが求められる。

したがって、人間のセクシャリティの発達と母性の発達、リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖の健康/権利）を基盤とし、女性が健やかに一生を過ごせるように対象の個別性に応じた支援を行うために必要な知識・技術・態度を養うことを目指す。また、また学習を通して学生自身の母性性・父性性や生命に対する自らの考えを深められ、自己の役割や健康について考えられる機会としたい。

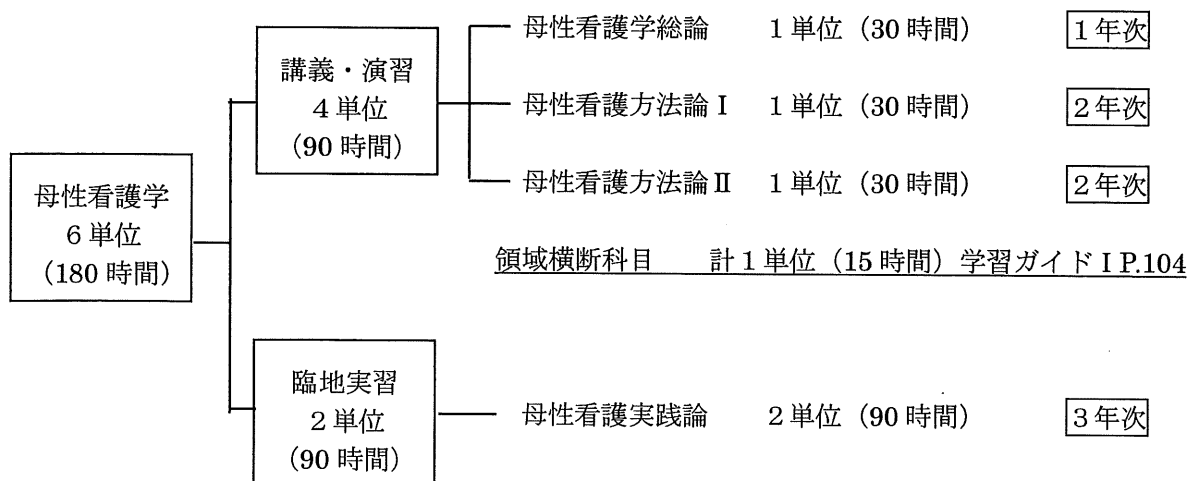
2. 目的

母性の特性を理解し、各ライフステージの対象に合った健やかな生活を送るために必要な看護の基本的知識、技術、態度を養う。

3. 目標

- 1) 母性の概念とその特性を学び、母性看護の役割について考える。
- 2) 女性の性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）についての認識を深め、表現する。
- 3) 母性看護における倫理・医療安全について考察する。
- 4) ライフステージ各期にある対象の特性から、母性看護における健康問題と看護を考える。
- 5) 周産期における母子および父親、家族に対して基礎的な看護を実践する。
- 6) 生命の尊さに気づき、自己の看護観を深める。

4. 構成



学科目 (単元)	母性看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目的	女性の生涯を通しての健康と、女性の特質とされる「母性」の健康について学ぶ。 女性・男性の身体的・機能的・心理社会的な発達を基盤に、女性の健康についてあらゆる方向から考えられるよう基礎的知識を学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性の身体的特性、心理・社会的特性を述べる セクシュアリティの発達と課題について知り、その概念と特質を述べる リプロダクティブ・ヘルス/ライツの定義を学び、4つの基本的要素を挙げる 母子保健の現状と課題を知り、看護者の役割について考え意見交換する 母子保健に関する主な組織と法律および関連する施策と行われている支援の内容を挙げる 子宮・卵巣の周期的変化による月経のしくみと、妊娠の成立のメカニズムを説明する 女性のライフステージ各期における看護について以下の要点を学び、述べる (身体的特徴、心理・社会的特徴、主要な健康問題、看護師の役割と必要な援助) リプロダクティブヘルスケアについて現代女性を取り巻く環境と健康問題の関連を考える 母性看護における倫理について考え、意見交換する 自己の意見を伝え、他者の意見を傾聴し、学び合う姿勢を身につける 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念① 母性とは 母性看護の基盤となる概念② 母子関係と家族発達、セクシュアリティ 母性看護の基盤となる概念③ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状① 母性看護の歴史的変遷と現状 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状② 母性看護の対象を取り巻く環境 母性看護の対象理解① 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 母性看護の対象理解② 月経周期 妊娠の成立と性分化 母性看護の対象理解③ 母性の発達・成熟・継承 女性のライフサイクルと家族 9～11. 女性のライフステージ各期における看護 : 思春期、成熟期、更年期・老年期の女性の健康と看護 12～13. リプロダクティブヘルスケア : 家族計画 性感染症 HIV 人工妊娠中絶 喫煙 性暴力 児童虐待 国際化社会 14. まとめ 母性看護に必要な技術 母性看護における倫理 母性看護のあり方 15. 自己学習・単位認定試験 						
教育方法	協同学習を取り入れた講義およびグループワーク						
履修上の助言	母性について理解が深められるように、また人間の性と生殖 (sex、ジェンダー、セクシュアリティ) について、対象理解を基盤に考察をしていきます。 さらに、周産期に限らず「女性の健康」という視点でも講義を行います。 自己の意見を伝え、他者の意見を傾聴し、学びあう姿勢を持って臨んでください。						
テキスト・参考書	テキスト 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 ※国民衛生の動向 (指定された日時に持参すること) 参考書 ナンガグラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 デイコ出版						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	母性看護方法論 I	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期
目的	<p>妊娠・分娩・産褥・新生児の生理と経過について学習し、正常経過をたどる妊婦、産婦、褥婦と新生児およびその家族に対する看護を実践するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>母子に対する安全・安楽な技術を提供するために必要な看護技術を、演習での実践を通して修得する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・分娩・産褥・新生児の生理およびその経過を説明する。 ・正常経過をたどる妊産婦および胎児・新生児とその家族への看護を説明する。 ・褥婦と新生児およびその家族への看護（正常の判断・支援内容と方法）を説明する。 ・母子に対して、安全・安楽な技術を提供するために必要な看護技術を実践する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の生理 (母親になるということ、妊娠期の身体的特性：胎児の発育と生理、母体の生理的变化) 2. 妊婦と胎児のアセスメント 3. 妊娠期にある人への看護①（妊娠初期～妊娠後期にある妊婦と家族への看護） 4. 妊娠期にある人への看護②（マイナートラブル、妊婦の心理、親になるための準備教育） 5. 分娩の生理（分娩三要素、分娩の機序、分娩の経過、産痛の理解） 6. 分娩が胎児に及ぼす影響、産婦と胎児の健康状態のアセスメント、産婦と家族への看護 7. 新生児の生理（新生児の身体的特徴、新生児の機能および子宮外適応現象） 8. 新生児のアセスメント 9. 産褥期の経過（褥婦の身体的変化＝退行性変化、進行性変化、褥婦の心理社会的変化） 10. 褥婦のアセスメント（産褥経過の診断、褥婦の健康状態のアセスメント） 11-12. 産褥期・新生児期にある人への看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 分娩後 24 時間までの母子の看護（子宮復古・創部の治癒促進をはかる援助、休息を促す援助、母乳育児を促す援助、母親役割獲得を促す援助、新生児への出生直後の観察と看護） (2) 1 日～退院までの母子の看護（身体機能の回復への看護、母乳育児支援、育児にかかわる看護、家族関係再構築への看護、新生児の経過観察と看護） (3) 退院後の褥婦への看護 13-14. 母性看護技術演習 <ul style="list-style-type: none"> (1) 妊娠期（妊婦体験、子宮底・腹囲計測、レオポルド腹部触診法、胎児心拍聴取） (2) 産褥期（産褥子宮底観察法） (3) 新生児（バイタルサイン測定） 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	協同学習を取り入れた講義およびグループワーク・演習						
履修上の助言	イメージがしやすいように、視覚教材、モデル人形等を用いて授業・演習を行ないます。予習・復習として、次に提示しているDVDの視聴を勧めます。						
テキスト 参考書	<p>テキスト 系統看護学講座 母性看護学各論</p> <p>写真でわかる母性看護技術アドバンス</p> <p>参考書 母性看護学 〈2〉周産期各論</p> <p>ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践</p> <p>病気がみえる Vol.10 産科</p> <p>DVD：目で見える母性看護 Vol. 1～6、目で見える新生児看護 Vol. 1～2 医学映像教育センター</p>				<p>医学書院</p> <p>インターメディカ</p> <p>医歯薬出版</p> <p>メディカ出版</p> <p>メディックメディア</p>		
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	母性看護方法論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	後期
目的	<p>妊娠・分娩・産褥・新生児期における異常経過と看護の基礎的知識を学び、正常から逸脱した妊産褥婦とその家族の気持ちを考え、対象に合わせた看護について学ぶ。 また、紙上事例を用いて、褥婦と新生児の看護過程を展開し、産褥期・新生児期のアセスメントの視点を理解する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正常から逸脱した妊娠・分娩・産褥・新生児の要因を説明する。 ・正常から逸脱した妊産褥婦とその家族への看護を説明する。 ・正常から逸脱した妊産褥婦とその家族への配慮について考えを述べる。 ・不妊の原因・治療を知り、不妊治療を受けるカップルの心理社会的な特徴を述べる。 ・紙上事例により褥婦と新生児の看護過程を展開し、産褥期・新生児期のアセスメントの視点を説明する。 ・母性看護の対象をイメージし、個別に応じたケアを提供できるための自己課題を明確にする。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイリスク妊娠の要因と看護 妊娠期に注意すべき感染症の母子への影響 2. 妊娠期に合併する全身疾患の影響と看護 糖尿病、心疾患、精神障害、子宮筋腫 妊娠疾患による母児への影響と看護 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合妊娠 3. 多胎妊娠、流産・早産の看護、不妊の看護 分娩遷延のリスクと看護 4. 胎児機能不全の要因と看護 帝王切開術を受ける母子の看護（術前・中・後の看護を含む） 5. 子宮復古不全の要因と看護 産褥期の精神障害の看護 6. 産褥熱の要因と看護 産褥血栓症の特徴と予防方法 乳房・乳頭トラブルの種類と看護 7. 頭部軟骨組織損傷の種類と観察 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血の要因と予防方法 新生児仮死の治療と看護 低出生体重児の看護 高ビリルビン血症のリスクと看護 8-14. 産褥期の紙上事例を使用した褥婦と新生児の看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事例の理解とフェイスシートの活用 (2) 妊娠期・分娩期の母子の経過から情報を整理、1日目のアセスメント・計画立案 (3) 発表と学びの共有① (4) 産褥期の経過から情報を整理、3日目のアセスメント・計画立案 (5) 発表と学びの共有②（技術の実施含む） (6) 母子の経過から情報を整理、心理社会面のアセスメント (7) 発表と学びの共有③・まとめ 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	<p>講義・グループワーク 看護過程の展開では協働学習の実践</p>						
履修の助言	<p>病態治療論Ⅶ、母性看護方法論Ⅰの学習を踏まえての履修が効果的です。 妊娠、分娩、産褥および新生児の正常な経過について、自己学習し履修することを勧めます。 看護過程は、母性看護実践論で使用する記録用紙を用いて展開します。授業資料や参考図書を活用し学習をすすめましょう。</p>						
履修要件	<p>看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 母性看護学総論 単位修得</p>						
テキスト	<p>系統看護学講座 母性看護学各論 写真でわかる母性看護技術アドバンス 参考書 母性看護学1 妊娠・分娩 母性看護学2 産褥・新生児 新看護観察のキーポイント 母性Ⅰ、Ⅱ 他：病態治療論Ⅶ，母性看護総論，母性看護方法論Ⅰで提示した参考書</p> <p style="text-align: right;">医学書院 インターメディカ 医歯薬出版 医歯薬出版 中央法規</p>						
評価方法	<p>筆記試験</p>						

学科目 (単元)	母性看護実践論	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 90時間	3年	前期 後期
目的	周産期にある母子及び家族の特性を理解し、母子の身体的、心理・社会的変化を捉えながら母子の健康を維持・促進するための援助を考え、実践する基礎的能力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期・分娩期の情報をふまえ、母子の身体的側面、心理・社会的側面の情報収集し、分類する。 ・母子の身体的、心理・社会的変化を捉えながら、母子への看護の必要性を判断し、適切な看護の実践・評価を行う。 ・母子関係の形成と発展、親役割取得過程への支援を考える。 ・生命に対する尊敬や家族の絆について自己の考えを深める。 ・周産期における継続看護の必要性について考える。 						
授業計画	<p>1 実習時間45分</p> <p>1 週目：学内にて紙上事例の展開・実施。</p> <p>2 週目以降：臨地実習</p> <p>受け持ち母子の看護技術（褥婦、新生児の観察、乳房ケア・授乳介助、沐浴・ドライケニック等）を見学後、一緒に実施する。</p> <p>受け持ち母子の看護過程（看護介入の計画・実践・評価）の展開を行なう。</p> <p>集団指導（母親学級・両親学級など）の見学。分娩の立会い。</p> <p>必要に応じて受け持ち母子に必要な保健指導を考え、指導案の立案・実施を行なう。</p> <p>産科外来・助産師外来にて、妊婦健診・保健指導等について実際に学ぶ。</p> <p>最終日：「学びと気づき」の発表・評価面接</p>						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	<p>妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護技術に対して、安全を最優先に考え、安楽な技術提供ができるよう準備を整えておいてください。</p> <p>病態治療論Ⅶ、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学総論の復習を計画的に行い、妊娠、分娩、産褥および新生児の正常な経過について、学習ノートを活用して履修することを勧めます。</p>						
テキスト 参考書	<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 母性看護学各論</p> <p>写真でわかる母性看護技術アドバンス</p> <p>参考図書</p> <p>母性看護方法論Ⅰ、Ⅱシラバスを参照</p>			<p>医学書院</p> <p>インターメディカ</p>			
評価方法	実習評価表 参照						

精神看護学

1. 考え方

現代社会においては、相次ぐ大規模災害や感染症により日常の生活が脅かされている。また複雑多様化した現代社会のゆがみとして、人々がストレスを引き起こしやすく、心の健康に障害を抱える人が増えている。したがって、2011年には地域医療の基本方針となる医療計画で重点的に取り組む課題として、新たに「精神疾患」が加えられた。このことから心の健康問題は、重要な課題と言える。

人は精神障害の有無に関わらず、その人らしく生きていく権利があり、全ての人に回復と成長の可能性がある。精神看護の役割は、人が自己実現へと向かうプロセスを支えるために、精神的・身体的・社会的な援助を提供することである。

医療の場においては、高度医療が求められ、精神科医療を取り巻く環境も急速に変化し、多くの精神科病院が急性期治療中心となり、入院期間は確実に短縮している。したがってこれからの精神看護は、入院治療から地域生活の支援に至るまで、幅広く求められることになる。

これらのことを踏まえ、精神看護学では、保健・医療・福祉の統合を視野に入れ、心の健康の保持増進、健康障害時の回復、そして社会復帰に向けての支援について考え、学ぶ機会としたい。

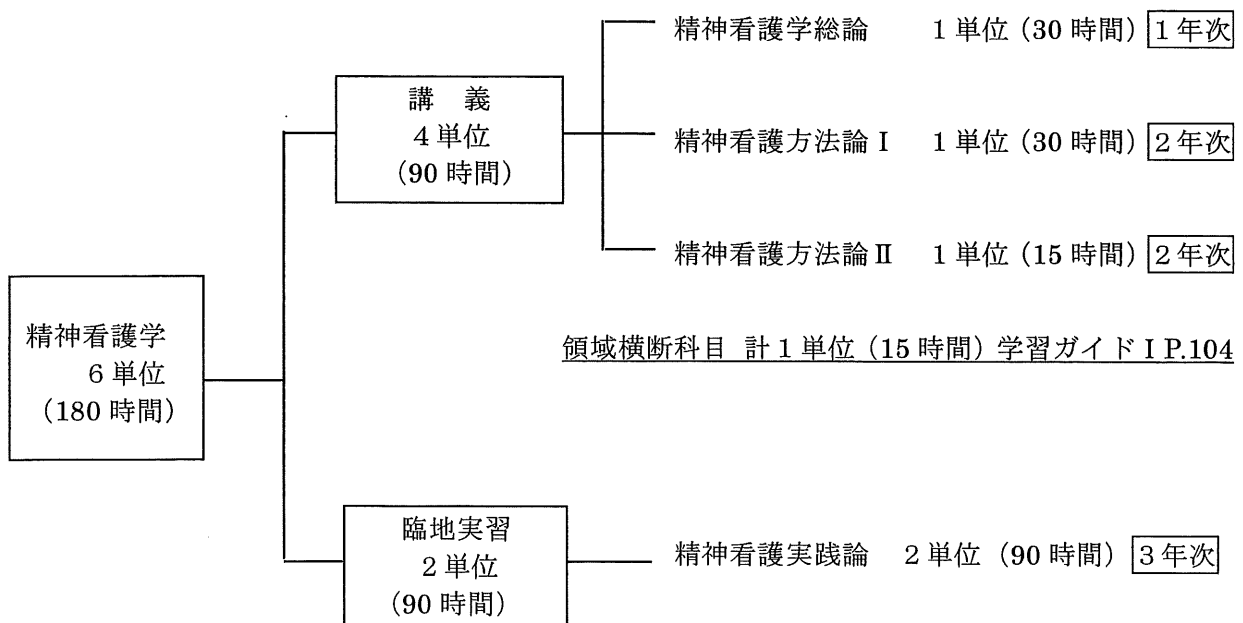
2. 目的

あらゆるライフステージにある人およびその家族を対象として、心の側面から健康の保持増進、健康障害から社会復帰までの基礎的看護について学ぶ。あわせて、対象者との人間関係を通して自己を洞察する力を養う。

3. 目標

- 1) 心の働き及び心の発達、様々な環境との相互作用であることを理解する。
- 2) 心の健康問題の発生のプロセスと心の健康の保持増進や回復のための看護活動について理解する。
- 3) 精神障害者およびその家族の看護を実践するための基礎的な知識技術を習得する。
- 4) 対象者との人間関係を通して自己を振り返り、自己洞察をする力を養う。
- 5) 精神障害者の処遇の歴史を理解し、ノーマライゼーションについて考える。

4. 構成



学科目 (単元)	精神看護学総論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	1年	後期
目的	<p>心の働きと発達、心の健康問題を理解し、心の健康保持・増進と心病人を理解するための基礎知識とともに保健・医療・福祉の視点から、社会の偏見の中で暮らしている精神に障害のある人に対する看護の基盤を築く。また、ライフサイクルや社会の変化におけるメンタルヘルスについて自ら調べ、考え、発表し主体的学習姿勢を培うと共に精神障害についての理解を深める。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心のはたらきを知り、自身の心の健康を考えられる。 ・自身の防衛機制(適応機制)行動やストレスに対する対処行動を日常の経験から照らし合わせて考え説明する。 ・ライフサイクルにおける危機と健康問題、社会の変化とメンタルヘルスとの関連性を調べ発表する。 ・精神医療の歴史的変遷と現状から、社会の中の精神障害者に対する人権と倫理について自己の意見を述べる。 ・精神障害者の生きにくさや思いを感じとり、精神領域における医療従事者としての役割や精神看護の役割について自己の考えを述べる。 ・看護師自身の労働上のメンタルヘルス上の問題を引き起こす可能性を理解し、その対処方法を述べる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の位置づけ 精神(こころ)の健康とは 心のしくみと人格の発達 2. 人間の心のはたらき:心の成長発達と危機・防衛機制、ストレスと対処行動、危機介入 3. ライフサイクルにおける危機と健康問題 (グループワーク) 「乳児期・乳幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期・中年期、老年期」 4. ライフサイクルにおける危機と健康問題(グループワーク発表) 5. 社会の変化とメンタルヘルス(グループワーク) 「アルコール、薬物依存、自殺と予防、PTSD、心身症、虐待、不登校、いじめ」 6. 社会の変化とメンタルヘルス (グループワーク発表) 7. 学校・職場におけるメンタルヘルス 8. 精神医療看護の歴史および法と制度 9. 精神保健の動向、倫理と人権、ノーマライゼーション 10. 精神障害者の理解:観察、ケアの原則・方法 11. 精神障害者の理解 (DVD鑑賞) 12. 精神障害者の理解 (DVD鑑賞) 13. 精神看護の機能と役割 精神科医療チーム・リエゾン精神看護 14. 看護師のメンタルヘルス 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義およびグループワーク、DVD鑑賞						
履修上の助言	<p>授業には、積極的に参加し、疑問に感じたことは、自分で、調べ、考える習慣をつけてほしい。</p> <p>心の成長発達や環境については、社会状況とともに新聞やメディアなどに関心を持ち、学習に望んでほしい。グループワークでは、何より参加が基本です。他者の意見を聞き、自分の意見も述べ、グループとして協力してほしい。</p>						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ	精神看護の基礎	武井 麻子	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ	精神看護の展開	武井 麻子	医学書院			
	国民衛生の動向	厚生統計協会					
評価方法	<p>筆記試験、レポート(学習課題) *授業概要参照</p>						

学科目 (単元)	精神看護方法論 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	2年	前期 後期
目的	<p>心病む人が体験している世界を知ることができ、主な疾患・症状、検査・治療、自立へ向けての援助の基礎的知識と考え方を理解し、回復過程に応じた看護や援助方法を学ぶ。社会で暮らすためには、心病む人の健康の維持や生活能力の改善、再発予防が重要となる。そのためには、家族・精神医療保険福祉や地域活動の関係者、雇用や教育、行政について理解する必要がある。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主な精神疾患の回復過程に応じた看護と援助方法について説明する。 ・主な精神疾患に関する治療・検査を説明する。 ・主な精神疾患及び症状のある人の看護について説明する。 						
授業計画	<p>【回復過程に応じた看護と援助方法：14時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症の経過に沿った看護 2. 統合失調症の経過に沿った看護 3. 統合失調症の経過に沿った家族支援 4. 地域リハビリテーション・訪問看護 5. 地域における精神看護（実践事例） 6. 精神障害者の地域における支援 7. 精神障害者の地域における支援の実際 <p>【治療・検査・精神疾患・症状を持つ人の看護：8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院治療：入院の意味・治療的環境（精神療法・行動療法・環境療法） 2. 入院中の安全：精神科における人権とリスクマネジメント（自殺・離院・誤嚥・暴力・院内感染など）、緊急時の対処方法 3. 精神科の治療と身体ケア （検査・薬物療法・電気けいれん療法・作業療法・レクリエーション療法・・集団療法） 4. 神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害の看護 （恐怖症性不安障害・強迫性障害・適応障害・解離性障害・身体表現性障害） <p>【精神疾患・症状を持つ人の看護：6時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気分【感情】障害【双極性障害及び関連障害群、抑うつ障害群】の看護 2. 各障害の看護①（摂食障害・睡眠障害・性功能不全・性同一性障害・パーソナリティ障害・てんかん・神経発達障害群） 3. 各障害の看護②【依存症の看護】（アルコール依存症・薬物依存症ほか） <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教育方法	講義及びグループワーク						
履修上の助言	<p>授業には、予習・復習をしたうえで臨んでください。疑問に感じたことは、自分で、調べ、考える習慣をつけましょう。また授業で理解できなかったことは、その時に積極的に質問や確認を行ってください。</p>						
参考書	<p>系統看護学講座 精神看護の基礎 武井 麻子 医学書院 系統看護学講座 精神看護の展開 武井 麻子 医学書院 精神看護学 学生 - 患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 医歯薬出版</p>						
評価方法	<p>筆記試験、レポート（学習課題） *授業概要参照</p>						

学科目 (単元)	精神看護方法論Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	後期
目的	紙上事例を用いてオレム看護理論による看護過程を展開する中で、個人およびグループワークを通して、精神障害者のセルフケアの査定とアセスメントの視点についての学びを深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通し紙面上で情報収集をする。 ・情報を関連付けてアセスメントする。 ・分析した結果よりセルフケアを5段階で査定する。 ・分析した結果より問題を明確化する。 ・明確となった問題より必要な看護を導く。 ・事例による看護過程の展開を通し精神障害者に関心を寄せ理解する。 ・項目のセルフケア要素に沿って自ら調べ、考えたことをグループメンバーへ伝える。 						
授業計画	<p>セルフケア理論を用いて、グループで患者理解と看護の為に必要な学習を考え、看護過程を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケア理論の概要、事例紹介 2. 精神障害を持つ人の事例展開：患者像・全体像（ワーク・発表） 3. 精神障害を持つ人の事例展開：個人衛生と体温（ワーク・発表） 4. 精神障害を持つ人の事例展開：活動と休息（ワーク・発表） 5. 精神障害を持つ人の事例展開：空気・水・食物、排泄（ワーク・発表） 6. 精神障害を持つ人の事例展開：孤独とつきあい（ワーク・発表） 7. 精神障害を持つ人の事例展開：安全を保つ能力（ワーク・発表）・経過記録 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義およびグループワーク						
履修上の助言	自ら学ぼうという意志のもとに、看護過程を展開する上で必要な文献・資料を準備してください。既習した知識や文献・資料を十分に活用し課題学習に取り組んでください。グループワークは、課題学習を基に活発に意見交換してください。また他者の意見や考えを理解し、学びを深めるとともに自身の考えや意見をアサーティブに伝えてください。						
履修要件	看護技術論Ⅰ 単位修得 看護技術論Ⅱ 単位修得 精神看護学総論 単位修得						
参考文献	精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 医歯薬出版 系統看護学講座 精神看護の基礎 武井 麻子 医学書院 系統看護学講座 精神看護の展開 武井 麻子 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院						
評価方法	筆記試験、レポート（学習課題） *授業概要参照						

学科目 (単元)	精神看護実践論	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 90時間	3年	前期 後期
目的	精神障害者との関わりから対象理解を深め、看護の実践を通して精神看護の基礎を学ぶ。また、その過程を通して自己洞察する能力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習体験を通して精神障害者の理解を深める。 ・患者-看護師関係の相互作用の発展過程を分析し、治療的に関わる。 ・精神障害者のセルフケア能力を査定し、看護を実践する。 ・精神医療における看護の役割・機能・倫理的課題を考え表現する。 ・障害者総合支援法を理解し、精神障害者が地域のなかで自立して生活するためのサービスや援助について表現する。 ・依存症回復者の体験談から依存症者について理解を深めるとともに、その家族や看護師の役割を考え表現する。 						
授業計画	<p>1 実習時間 45分 精神科病棟実習 (72時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カルテ・対象との関係を築きながらの情報収集 3. プロセスレコード検討会 4. 患者像・全体像・セルフケアの査定・アセスメント発表 5. 援助計画に沿って援助の実施 6. まとめの会 <p>地域社会復帰施設実習 (18時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 利用者との関り 3. カンファレンス 						
教育方法	臨地実習 (病院、地域社会復帰施設) ・当事者の体験談 ・DVD事前学習						
履修上の助言	対象に関心を寄せて自ら学ぼうという意志のもと積極的に関わってください。治療的コミュニケーション技術を活用しながら、個別的な看護を展開していきましょう。またプロセスレコードを通し自己洞察し、自己の傾向に気づくことが大切です。必要な記録類などは指定された期日に提出してください。						
参考文献	精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 医歯薬出版 系統看護学講座 精神看護の基礎 武井 麻子 医学書院 系統看護学講座 精神看護の展開 武井 麻子 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院						
評価方法	実習評価表 参照						

領域横断科目

1. 考え方

看護の対象は地域で暮らしている人であり、活躍する場は増えている。そのため、様々な発達段階、健康レベルの人を対象とし、その個々に応じた看護の提供が望まれる。看護実践に際しては同じ技術においても、対象の特性を踏まえて専門性の高い知識や技術を活用し、基本的技術を応用して実践する必要がある。

領域横断では、それまで発達段階別に学習していた知識・技術に関して、領域の枠を超えた視点を持ち、気づき、課題解決できる実践的な知識や技術の習得を目指している。

各領域では対象を絞り、その特性に応じた看護を学習しているため、領域横断では同じテーマの看護に関して対象ごとにどのような違いや共通点があるのか、看護の提供に際して、何をどのように配慮し、応用することが必要なのかに焦点を当て学習することで、より対象の特性や、基本と応用の違いが明確になる。看護の対象を包括性や継続性の観点で捉えた教育内容としている。

課題学習に自ら取り組み、発信し、実践したことを繰り返しリフレクションすることで、経験から学びを積み重ねることが可能になる主体的で実践型の教育を目指す。

さらに常に目的、目標を明確にし、専門的な理解を深め、多職種の中における看護職の役割を意識することで自身の看護観を育成し、臨床で活用できる実践型教育が行われるように構成している。

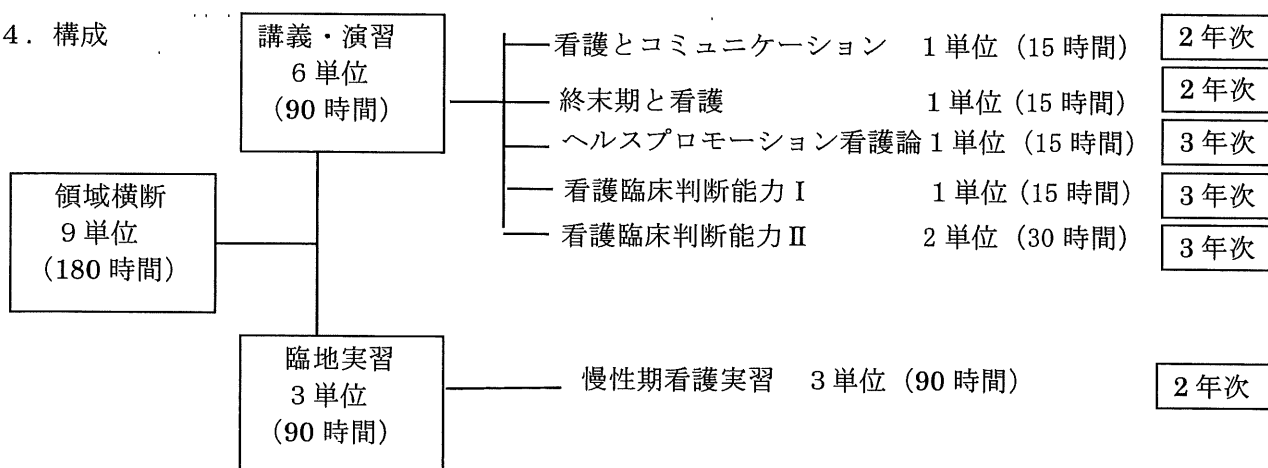
2. 目的

看護の対象を包括性、継続性の観点で捉え、知識やスキルを活用・応用して実践できる力を習得する。

3. 目標

- 1) 各ライフステージにある対象に対し、発達・状況に応じたコミュニケーションを考える
- 2) 終末期における医療チーム（多職種連携）の中での看護師の役割について説明する。
- 3) ヘルスプロモーションの活動方法について、個人・家族・集団・地域それぞれを単位として理解する。
- 4) 対象の発達段階と健康状態に対する臨床判断のプロセスを実践する。
- 5) 対象の発達段階を踏まえ、セルフケア能力を高める援助を実践する。

4. 構成



5. 領域横断科目の単位数内訳（専門分野における単位数配分）

科目名	単位	地域・在宅	成人	老年	小児	母性	精神	計
看護とコミュニケーション	1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.5	1
終末期と看護	1	0.3	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	1
ヘルスプロモーション看護論	1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.3	0.1	1
看護臨床判断能力 I	1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	1
看護臨床判断能力 II	2	0.3	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	2
小計	6	1	1	1	1	1	1	6
慢性期看護実習	3	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	3
合計	9	1	3	2	1	1	1	9

学科目 (単元)	看護とコミュニケーション	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	後期
目的	<p>看護師に求められるコミュニケーションは、看護実践に欠かせない重要なスキルであり、また同時にチーム医療の一員として、看護師間や多職種との連携においても必要不可欠である。したがって知識だけではなく様々な対象や場面で実践できる技術として修得する必要がある。</p> <p>またプロセスレコードを通し客観的に自分自身の言動や行動を振り返り洞察することを学ぶ。更に対象と看護者の相互作用過程を明らかにし、対象理解を深めることで看護場面に活用できるようにする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージにある対象に対し、発達・状況に応じたコミュニケーションを考える。 ・コミュニケーション場面をプロセスレコードにより再構成する。 ・再構成された場面を客観的に洞察する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療的コミュニケーション、プロセスレコードの意義と活用目的・方法 2. 自己を振り返る方法（プロセスレコードの活用の実際） 3. 精神の臨地実習で看護学生が遭遇するコミュニケーション（事例検討）GW 4. 1) 小児の発達段階別のコミュニケーション。（プリパレーションの活用） 2) 家族を含めた患児とのコミュニケーション 5. 1) 周産期にある対象のコミュニケーション （母子相互作用を高めるコミュニケーション） 2) 母親の意思を尊重し、セルフケアが向上するコミュニケーション 6. 高齢者のコミュニケーション上の問題と工夫 1) 感覚・言語・認知機能の低下に伴う問題 2) 判断力の低下に伴う問題 3) 環境・人間関係の変化に伴う問題 4) 家族や日常生活支援に携わる人も含めたコミュニケーション 7. 多職種連携・対象の家族・地域の人とのコミュニケーション 1) 医療における多職種間でのコミュニケーション 2) 対象およびその家族とのコミュニケーション 3) 地域の人とのコミュニケーション 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
授業方法	講義 演習						
履の助言	授業には積極的に参加し、疑問に感じたことは自分で調べ考える習慣をつけてほしい。また自分の考えは主体的に述べるよう習慣づけてほしい。						
テキスト参考書	看護コミュニケーション 精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開						
評価方法	授業・課題へのとりくみ状況 筆記試験 *授業概要参照						
単内訳	地域・在宅、老年、母性：各0.1単位、小児：0.2単位、精神0.5単位						

学科目 (単元)	終末期と看護	講師名	外部講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	2年	後期
目的	<p>これからの日本は「多死社会」を迎えるとされ、看取りを行う場も多様化すると考えられている。このことから、看護職はあらゆる状況に応じ、最期までその人らしい人生を全うできるように支える役割を期待されている。生命を脅かす疾患による問題に直面しているあらゆる発達段階にある患者と家族に対して、痛みを始めとした身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛の緩和と予防のための基本的知識と考え方を学ぶ。対象や家族の意思を尊重した継続的なケアの実践につながる基礎的知識を学び、多様なニーズにこたえるための能力を養う機会とするとともに、死生観や看護観を育む機会とする。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期・緩和ケア・ホスピスケアの定義、理念を説明する。 ・終末期にある人の特徴（身体面・精神面・社会面）について説明する。 ・痛みをはじめとする主な症状、治療・看護について説明する。 ・主な精神症状とその治療・看護について説明する。 ・終末期の患者の家族が抱える問題と家族ケアについて説明する。 ・終末期における医療チーム（多職種連携）の中での看護師の役割について説明する。 ・療養方法や療養場所など、終末期の生き方・過ごし方について、その人の意思決定を支える看護援助について自己の考えを述べる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期看護・緩和ケア・ホスピスケアの定義と歴史、制度、理念 病院（一般病棟・緩和ケア病棟・ホスピス）や施設で終末期を過ごす人と家族への看護 終末期にある人とその家族の特徴 2. 全人的苦痛（トータルペイン）・全人的ケア① 身体的苦痛の緩和：WHO方式3段階除痛ラダー、疼痛アセスメント、オピオイドによる疼痛緩和、身体的諸症状の緩和 3. 全人的苦痛（トータルペイン）・全人的ケア② 精神的苦痛の緩和・霊的苦痛（スピリチュアルペイン）の緩和・社会的苦痛の緩和 臨死期の看護（看取り、エンゼルケア、遺族へのケア） 4. こどもの死と子どもを亡くす家族の看護 小児の発達段階による死の概念の変化、死への過程の違いによって起こる小児とその家族が抱える問題、終末期の小児を取り巻く人々への影響 5. 周産期に子どもを亡くす家族の看護 流産・死産・新生児死を体験した家族へのケア 6. 在宅で終末期を過ごす人と家族への看護 7. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、エンド・オブ・ライフケア その人らしい生き方（意思決定）を支えるケア 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義						
履修上の助言	臨床薬理学、生命医療倫理、臨床心理学、看護学総論（成人・老年・母性・小児・在宅）と関連があります。苦痛症状の緩和や対象の心身の反応過程などの復習をして、講義に臨んでください。						
テキスト 参考書	ナーシング・グラフィカ 緩和ケア						
評価方法	筆記試験						
単内訳	地域・在宅：0.3単位、成人：0.2単位、老年：0.3単位、小児：0.1単位、母性：0.1単位						

学科目 (単元)	ヘルスプロモーション 看護論	講師名		学内教員		単位 (時間)	1単位 15時間	3年		前期	
目的	<p>小児期から老年期にある様々な発達段階、多様な状況にある対象に合った保健指導・健康教育を実践できるよう、基礎看護学で取得した保健指導技術を実践できる技術として習得する。また、保健指導・健康教育を実施する自身の健康を保つための方法を学ぶ。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションの考え方を説明する。 ・ヘルスプロモーションの活動方法について、個人・家族・集団・地域それぞれを単位として理解する。 ・健康教育について理解し、看護職の役割について説明する。 ・健康づくり（保健指導・健康教育）を計画・作成、発表する。 										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションの概念と動向 地域で暮らす人の生活と健康課題 2. ヘルスプロモーション活動の実際 看護職の役割 3. 看護者の健康 集団精神療法 (WRAP) 4. 私たちの考える健康づくり1 5. 私たちの考える健康づくり2 6. 私たちの考える健康づくり3 7. 発表・まとめ 8. 単位認定試験 (学習時間なし) 										
教育方法	<p>講義・演習 健康づくり（保健指導・健康教育）についてグループワーク</p>										
履修上の助言	<p>グループで指導案を作成し実際にプレゼンを行うため、自分の考えを持ち、主体的に意見を述べ、また他者の意見も聞きながら、メンバー同士で協力し合って進めて欲しい。 地域で暮らす人の生活を知り、人々が直面している健康問題・健康課題に関心を持ちながら授業に臨んで欲しい。</p>										
テキスト 参考書	<p>系統看護学講座 基礎看護技術 I ナースিং・グラフィカ 成人看護学概論 医学書院 行動変容を促す看護 医学書院 看護技術論Ⅻで提示した資料</p>										
評価方法	<p>グループワークへの取り組みと発表 課題レポート 筆記試験</p>										
単内 単位	<p>地域・在宅、成人：各0.2単位、母性：0.3単位、老年、小児、精神：各0.1単位</p>										

学科目 (単元)	看護臨床判断能力 I	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目的	対象者の健康問題を把握するために必要な臨床判断能力であるフィジカルアセスメントについて学ぶ。専門領域毎の特徴を踏まえフィジカルイグザミネーションや問診による情報収集の方法及び、収集した情報の分析・判断について検討をする。多様な臨床現場の状況において臨床判断に繋げる学習とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床判断能力とは何か、看護における意義を説明する。 ・身体状態を把握するための情報を、正しい技術で収集する。 ・フィジカルアセスメントで得られた身体的情報から正常・異常を判断する。 ・得られた情報に基づいて対象の身体状態を分析する。 ・分析した身体状態から対象に必要な看護の方向性を見出す。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床判断能力とは 看護実践力の中でも臨床判断が必要な理由、プロセス、フィジカルアセスメント発達段階を踏まえたアセスメントの特徴を知り、事例検討に必要な準備を行う。 2. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際（成人領域） 身体状態の変化、合併症や悪化をきたしやすい状態、多剤内服の要因による副作用症状 3. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際（老年領域） 加齢による変化、症状の出現が緩やかであり、合併症や悪化をきたしやすい状態 特徴的な症状が出にくく見過ごされやすい 4. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際（小児領域） 発達段階別に応じた観察の視点 5. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際（母性領域） 妊産褥婦・新生児の五感を使用したフィジカルアセスメント 6. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際（精神領域） 精神状態のアセスメントと看護、精神状態のアセスメントの方法、観察の視点 精神状態のアセスメントのポイント 7. 各発達段階、病期に応じたフィジカルアセスメントの実際（地域・在宅領域） フィジカルイグザミネーションの活用、早期発見のための問診と観察、緊急時の対応 8. 単位認定試験（学習時間なし） 						
教育方法	講義 演習 協同学習						
履修上の助言	看護技術論IV（フィジカルイグザミネーション）はもちろん、今までの専門分野の学習を基に講義を発展していきます。 十分に復習し講義に臨みましょう。また、解剖生理学の知識も復習しておきましょう。						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 総論・各論 看護が見える VOL3 フィジカルアセスメント			医学書院 メディックメディア			
評価方法	授業・課題へのとりくみ状況 筆記試験 *授業概要参照						
単内訳	地域・在宅：0.1単位、成人、老年、小児、母性：各0.2単位、精神：0.1単位						

学科目 (単元)	看護臨床判断能力Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	2単位 30時間	3年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の活動の場は病院から地域へと広がり、看護師は自立した医療職者としての判断、健康状態の解釈や適切な行動が求められる。 ・これまで学習した医学の専門知識を基盤に臨床判断のプロセスである「気づき」「解釈」「反応」「省察」を学び、臨床判断の基礎的能力を養う。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床判断のプロセスを説明する。 ・対象の変化に気づき、専門知識を活用して対象の健康状態を知覚的に把握する。 ・根拠に基づいた解釈をし、今後の予測と必要な介入を考える。 ・実践した介入による対象の反応を省察する。 ・対象の発達段階と健康状態に対する臨床判断のプロセスを実践する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象・状況に応じた臨床判断能力 2. 急激な身体変化に対する臨床判断 (1) 3. 急激な身体変化に対する臨床判断 (2) 4. 急激な身体変化に対する臨床判断 (3) 5. 急激な身体変化に対する臨床判断 (4) 6. 急激な身体変化に対する臨床判断 (5) 7. 対象の症状・徴候に対する臨床判断 (1) 8. 対象の症状・徴候に対する臨床判断 (2) 9. 対象の症状・徴候に対する臨床判断 (3) 10. 対象の症状・徴候に対する臨床判断 (4) 11. 対象の症状・徴候に対する臨床判断 (5) 12. 生活場面における臨床判断 (1) 13. 生活場面における臨床判断 (2) 14. 生活場面における臨床判断 (3) 15. 単位認定試験：中間・終講 (学習時間なし) 						
方法教育	講義・演習 (シミュレーターの活用)・協同学習						
履修上の助言	各分野における病態学、総論、方法論について、復習して授業に参加してください。臨床判断能力Ⅰをふまえ、様々な学習内容を関連づけて考えられることを目指しましょう。他者の意見を聞き、自分の意見も述べ、グループとして協力して学習を深めましょう。						
テキスト参考書	系統看護学講座 専門分野 総論・各論 看護が見える VOL3 フィジカルアセスメント			医学書院 メディックメディア			
評価方法	授業・課題へのとりくみ状況 筆記試験 *授業概要参照						
単内訳	地域・在宅、老年、母性、精神：各0.3単位、成人、小児：各0.4単位						

学科目 (単元)	慢性期看護実習	講師名	学内教員	単位 (時間)	3単位 90時間	2年	後期																				
目的	<ul style="list-style-type: none"> 慢性的な健康障害をもつ人の特徴を理解し、セルフケア能力を高めるための看護の基礎的能力を習得する。 																										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 対象との関わりを通して信頼関係を築き、望ましい相互作用について考察する。 慢性的な健康障害をもつ人の身体的・心理的・社会的特徴を説明する。 対象の発達段階を踏まえ、セルフケア能力を高める援助を実践する。 																										
授業計画	<p>1 実習時間 45分</p> <ol style="list-style-type: none"> 病態・患者背景・治療・看護など収集した情報を日々アセスメントする。 身体・心理・社会面の情報間の関連性と看護の方向性を整理し、対象者の全体像について説明する。(12カテゴリーのアセスメント、全体像の記載) 明らかになった看護上の問題について看護計画を立案し、看護を展開する。(SOAP 記載) 対象者のセルフケアに向けた支援内容(教育指導)の検討、計画立案と実施 テーマカンファレンスで、理論を用いて実践した看護を振り返る。 他職種との連携(チーム医療)、看護の継続性について学ぶ。 																										
教育方法	臨地実習																										
履修上の助言	<p>基礎看護実践論Ⅲの目標に到達した上で履修しましょう。 慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、日常生活援助から自己管理に向けての保健指導まで、対象に合わせたセルフケアの獲得や維持・向上のための援助を実践します。成人看護学総論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅴまでの授業内容と看護技術論、看護理論を復習して、実習に臨んでください。必要な記録類などは指定された期日に提出してください。</p>																										
履修要件	<table border="0"> <tr> <td>成人看護学総論</td> <td>単位修得</td> </tr> <tr> <td>老年看護学総論</td> <td>単位修得</td> </tr> <tr> <td>看護技術論Ⅰ</td> <td>2/3以上の出席</td> </tr> <tr> <td>成人看護方法論Ⅳ</td> <td>履修</td> </tr> <tr> <td>老年看護方法論Ⅱ</td> <td>履修</td> </tr> <tr> <td>基礎看護実践論Ⅰ</td> <td>単位修得</td> </tr> <tr> <td>基礎看護実践論Ⅱ</td> <td>単位修得</td> </tr> <tr> <td>基礎看護実践論Ⅲ</td> <td>履修</td> </tr> <tr> <td>老年看護実践論Ⅰ</td> <td>履修</td> </tr> <tr> <td>老年看護実践論Ⅱ</td> <td>履修</td> </tr> </table>							成人看護学総論	単位修得	老年看護学総論	単位修得	看護技術論Ⅰ	2/3以上の出席	成人看護方法論Ⅳ	履修	老年看護方法論Ⅱ	履修	基礎看護実践論Ⅰ	単位修得	基礎看護実践論Ⅱ	単位修得	基礎看護実践論Ⅲ	履修	老年看護実践論Ⅰ	履修	老年看護実践論Ⅱ	履修
成人看護学総論	単位修得																										
老年看護学総論	単位修得																										
看護技術論Ⅰ	2/3以上の出席																										
成人看護方法論Ⅳ	履修																										
老年看護方法論Ⅱ	履修																										
基礎看護実践論Ⅰ	単位修得																										
基礎看護実践論Ⅱ	単位修得																										
基礎看護実践論Ⅲ	履修																										
老年看護実践論Ⅰ	履修																										
老年看護実践論Ⅱ	履修																										
テキスト 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ・Ⅱ、各論 ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 ザ・ロイ適応看護モデル 看護診断ハンドブック			医学書院 メディカ出版 メディックメディア 医学書院 医学書院 医学書院																							
評価方法	実習評価表 参照																										
単内訳	成人：2単位、老年1単位																										

看護の統合と実践

1. 考え方

看護の統合と実践は今まで学習した基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱなどで学習した科目を一つに統合させ、学習してきた看護の知識、技術、態度の集大成の科目である。適切な看護活動を行うには学んだ知識の更なる蓄積、看護の対象となる人に応じて必要な知識を想起し、その知識を統合する力が必要となる。また、統合した知識を基に看護の対象となる人の状態を判断し、その状態に応じた適切な方法の選択をし、実践できる力が必要である。

看護の統合と実践の科目は「臨床の場」を設定し、看護の対象となる人の状況に応じて既習の知識、技術を統合し実践が行えることを目指し、講義及び実習を構成している。

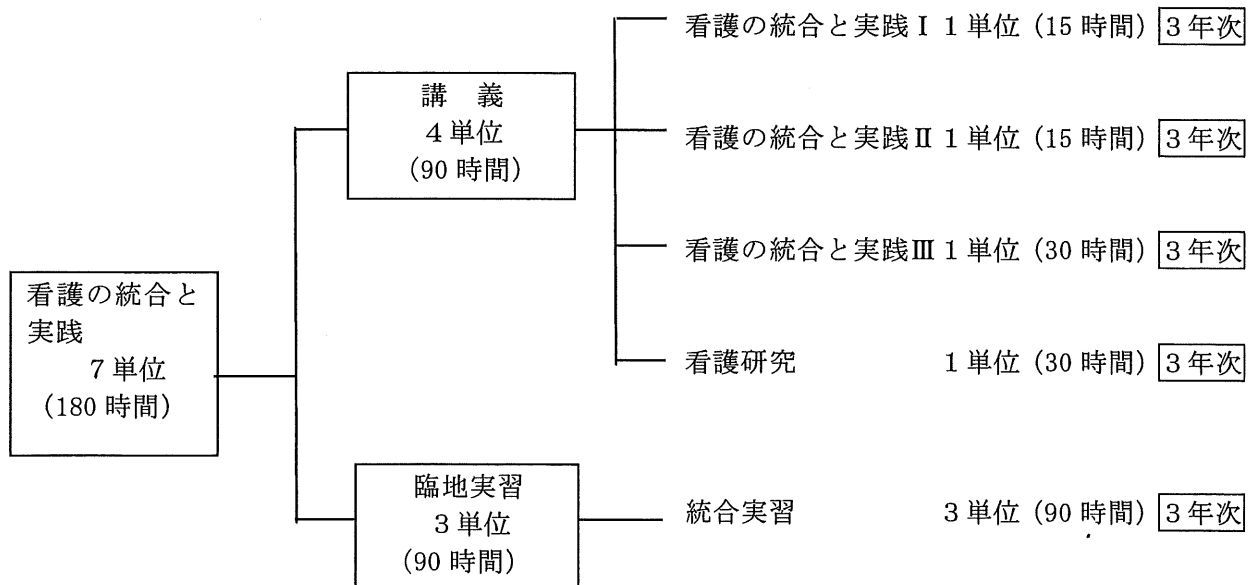
2. 目的

既習の知識、技術、態度を統合させ、看護の対象へ適切に看護実践する能力を向上する。

3. 目標

- 1) 看護における協働とメンバーシップ、リーダーシップの役割が説明する。
- 2) 看護マネジメントの基礎的知識を習得する。
- 3) 医療事故の要因分析の基礎的知識を習得する。
- 4) 災害直後から支援できる看護の基礎的知識を習得する。
- 5) 国際社会における看護師としての協力を考える。
- 6) 看護を多角的視点から考察して、質の高い看護を迫及する姿勢を養う。
- 7) 看護技術の総合的評価をし、卒業時に到達すべき技術を習得する。

4. 構成



学科目 (単元)	看護の統合と実践 I	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	3年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 既習授業や臨地実習で培ってきた知識、技術を統合して「対象の状態を的確に判断する能力」「対象の状態に応じた看護ケア方法を選択する力、実践力」を身に付ける。 「OSCE：客観的能力試験」により、判断力、技術力、マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を評価する。また、リフレクションを通し自己課題を明確にする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 事例をもとに、患者の状況を理解するために必要な学習内容を説明する。 患者の状況をアセスメントし、看護上の問題を明らかにする。 アセスメントに基づき、安全、安楽、自立を考慮した看護計画を立案し実践する。 OSCE およびリフレクションを通して自己の課題を明確し、課題解決方法を説明する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション・事例のアセスメント (グループワーク) 2. 事例の患者のアセスメントを行い必要な看護の経過記録 (1) 立案 3. 演習 1：提示されたステーション課題の技術練習 (実習室) 4. 演習 2：提示されたステーション課題の技術練習 (実習室) 5. 客観的能力試験 (OSCE)・ビデオ撮影による直後リフレクション 6. 客観的能力試験 (OSCE)・ビデオ撮影による直後リフレクション 7. 演習 3：グループリフレクション 8. 単位認定試験：筆記試験 (学習時間なし) 						
教育方法	複数のステーション課題を基に主体的な自己学習活動・技術演習を行う。						
履修上の助言	<p>OSCE の実践に向けて、これまでの知識、技術を統合して、対象の状況を判断し、より安全、安楽、自立を考慮した看護を提供できるよう自己学習、技術練習を主体的に実施してください。</p> <p>OSCE の実践をもとにリフレクション及びグループリフレクションを通して自己の課題を振り返り、気付いたことを後期の実習で活かしてください。</p>						
テキスト 参考書	病態や解剖に関する、看護技術に関する教科書・参考書すべて						
評価方法	OSCE (客観的能力試験)・筆記試験						

学科目 (単元)	看護の統合と実践II	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	3年	前期												
目的	<ul style="list-style-type: none"> 統合実習に向けて既習の知識と技術を統合して、複数の対象を把握する。その上で優先順位を考え、状況に応じた看護を実践する力を養う。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 二名の受け持ち患者の優先順位の高い看護問題を把握する。 二名の受け持ち患者の安全安楽自立を踏まえた援助計画を立案する。 二名の受け持ち患者に必要な看護ケアと優先順位の根拠を説明する。 二名の受け持ち患者の状況、状態の変化を捉え、必要な看護の優先順位を検討する。 チームの一員としてメンバーシップ、リーダーシップに必要な行動を説明する。 																		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション・二事例のアセスメント、看護問題の抽出、目標設定 二名の事例の援助計画立案①（個人ワーク・グループワーク） 二名の事例の援助計画立案②（申し送りを受けての計画修正） 二名の事例の援助計画立案③（申し送りを受けての計画修正） 二名の事例の援助計画立案④（実習室での演習・リフレクションと発表） 二名の事例の援助計画立案⑤（実習室での演習・リフレクションと発表） 看護チームの一員として必要な行動について体験を通して考える（グループワーク） 単位認定試験（学習時間なし） 																		
教育方法	<p>課題学習 演習（グループワーク・実習室での演習）</p>																		
履修上の助言	<p>統合実習に向けて、既習学習を活かして自主的に学習を進めていきましょう。 卒業後の看護実践の場では、複数の患者を受け持ちます。常に変化する患者の状況を踏まえながら優先順位の根拠を考え、修正し必要な看護を実践していきます。その為には、看護チームとしての情報を共有していくことが重要になります。 看護チームの一員として自らの情報を発信し、自発的な行動に結びつけるための具体的なスケジュールリングを意識していきましょう。</p>																		
テキスト 参考書	<p>参考図書</p> <table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>基礎看護技術 I</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>医療安全ワークブック</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>看護診断ハンドブック</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> </table>							系統看護学講座	基礎看護技術 I	医学書院	医療安全ワークブック		医学書院	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		医学書院	看護診断ハンドブック		医学書院
系統看護学講座	基礎看護技術 I	医学書院																	
医療安全ワークブック		医学書院																	
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		医学書院																	
看護診断ハンドブック		医学書院																	
評価方法	<p>筆記試験</p>																		

学科目 (単元)	看護の統合と実践Ⅲ	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	3年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外における健康問題に対して、看護の視点から国際協力の実際と異文化看護について学習を深める。また、社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動およびトリアージの実際を学習する。 ・看護をマネジメントする基礎的能力を養う。チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解する。また事故事例をもとに、要因分析の基礎的能力を習得する。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の意義を理解し、国際看護活動と看護職者に必要な視点を説明する。 ・災害時に看護が果たす役割を説明し、災害各期における看護支援活動を知る。 ・看護管理の目的と方法、看護管理システムについて説明する。 ・医療事故の事例をもとに時系列事象関連図を作成し、背後要因の分析をする。 ・医療事故の事例をもとに対策案の列挙・決定をする 						
授業計画	<p>【国際看護：6時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の変遷・持続可能な開発目標（SDGs） 2. 国際協力機関とその活動内容。在日外国人の看護 3. 開発協力・国際救援と看護の実際 <p>【災害看護：8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識：災害・災害看護の歴史および定義・災害サイクル 災害の種類と被害の特徴・災害発生時の社会の対応、個人の備え 2. 災害に関連する制度・情報伝達体制：国際的支援の仕組み・支援、体制・ボランティア活動 3. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響：地域のアセスメント・災害種類別疾患の特徴・災害時の心理・看護が果たす役割、看護支援活動心のケア（災害時の心理的回復過程） 4. トリアージ・災害支援ナース活動の机上シミュレーション <p>【看護マネジメント：4時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理サービスの基礎的知識、看護管理の目的と方法、看護管理システム 2. 医療安全対策、チーム医療におけるメンバーシップ・リーダーシップ <p>【リスクマネジメント：10時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リスクマネジメントと医療事故の要因分析の基礎知識 2. 要因分析の実際①（時系列事象関連図）（演習） 3. 要因分析の実際②（背後要因分析）（演習） 4. 要因分析の実際③（対策案の列挙・決定）（演習） 5. 要因分析の実際④ 発表と演習 <p>15. 学習時間あり・単位認定試験</p>						
教育方法	<p>【災害看護】 講義・演習</p> <p>【国際看護】 講義はVTR、視聴覚教材を活用して進める。</p> <p>【看護マネジメント】 講義</p> <p>【リスクマネジメント】 グループワーク</p>						
履修上の 助言	<p>先進国である日本は、保健医療の側面に対して国際的に活動することが期待されているため、国際協力で日常から興味を持って、新聞・メディアなどを通じて学んで下さい。</p> <p>また、看護マネジメントとリスクマネジメントは、安全な看護を提供するために必要な知識となるため、多角的な視点で要因を分析していく考え方を学んでいきましょう。</p>						
テキスト 参考書	<p>【国際看護】 授業プリント・系統看護学講座 看護学概論 医学書院</p> <p>【災害看護】 シミュレーションで学ぶ 避難所の立ち上げから管理運営HAPPY -エマルゴトレインシステム手法を用いて- 荘道社 監修 山崎達枝 系統看護学講座 看護学概論 医学書院</p> <p>【看護マネジメント】 系統看護学講座 看護学概論 医学書院</p> <p>【リスクマネジメント】 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践（2）医療安全 メディカ出版</p>						
評価方法	出席状況・レポート・筆記試験						

学科目 (単元)	看護研究	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	3年	前期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究の目的や意義を理解し、基礎的・実践的な研究プロセスについて学ぶ。 自己の看護体験を考察し、看護観を深め、看護の専門職として常に探求する姿勢を養う。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究の目的と意義および研究のプロセスの基礎的・実践的な内容を説明する。 研究における倫理的配慮とその重要性に気づく。 研究論文の構成を説明できる。 事例研究の目的と意義および研究のプロセスを説明する。 研究成果のまとめ方と発表について説明する。 論理的思考力・文章表現能力に関する自己研鑽の必要性に気づく。 研究課題に関連した看護実践分野を取り巻く社会的状況への関心が高まる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究とは何か 2. 研究における倫理的配慮とは何か 3. 研究のプロセス① 4. 研究のプロセス② 5. 研究方法の特徴と展開① 6. 研究方法の特徴と展開② 7. 事例研究とは何か：看護実践から事例研究へ 8. 事例研究のプロセス～研究成果のまとめ方と発表 9. 各看護領域における事例研究① 10. 各看護領域における事例研究② 11. 各看護領域における事例研究③ 12. 各看護領域における事例研究④ 13. 各看護領域における事例研究⑤ 14. 各看護領域における事例研究⑥ 15. 学習時間あり・単位認定試験 						
教育方法	講義・演習						
履修上の助言	<p>この科目は、単に「研究手法」を学ぶだけの授業ではありません。</p> <p>研究とは何か、論文とは何か。論文の構成ってどうなっているの？などなど、初学者が抱くたくさんの疑問の答えを自分で見つけられるようになる授業です。</p> <p>この科目を履修することで、「文献」の読み方を理解し、研究のオモシロさを発見できるよう。皆さんにお会いできることを楽しみにしています。</p>						
テキスト 参考書	<p>松本学・森田夏実(編)『新版 看護のための わかりやすいケーススタディの進め方』照林社 (そのほか、講義内容に応じて適宜紹介・資料配付します)</p>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ディスカッション参加状況 20% 2. 提出物 30% 3. 筆記試験 50% 						

学科目 (単元)	統合実習	講師名	学内教員	単位 (時間)	3単位 90時間	3年	後期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の役割と活動の全体像を知り、多職種と連携・協働しながら医療チームの一員として看護を実践する。また、看護専門職業人として自己の看護観を深める。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 病院組織における看護管理の実際を説明する。 (病棟管理、医療安全管理・感染管理・災害時の対応) 看護チームにおけるメンバーおよびリーダーの役割を自らの言葉で説明する。 複数の患者への看護実践をとおして、多重課題における優先順位の判断とその根拠を説明する。 多職種と連携・協働しながら看護チームの一員として行動する。 看護の専門性について考え、自己の看護観を表現する。 						
授業計画	<p>1 実習時間 45分</p> <p>1 週目：初回カンファレンス (自己課題と対策の共有) 全体オリエンテーション・病院組織、看護観の実際 メンバーナースのシャドウイング・二名の患者の情報収集 テーマカンファレンス (1回)</p> <p>2 週目：二名の受け持ちへの看護実践及・夜間実習 テーマカンファレンス (1回)</p> <p>3 週目：二名の受け持ちへの看護実践 最終カンファレンス・評価面接</p> <p>※実習期間の中でリーダーシャドウイング・病棟管理者のシャドウイング (病棟管理の説明)・多職種チーム活動へ参加する。</p>						
教育方法	臨地実習						
履修上の助言	<p>看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱでの学習を活かし実習しましょう。看護介入の計画は、基礎看護技術で作成した手順書を活用し、対象に必要な看護を修正・追加し活用してください。 必要な記録類などは指定された期日に提出して下さい。 *当科目の履修年度以前に“看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ”の単位を修得していても、“看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ”の補講を勧めます。</p>						
履修要件	<p>看護臨床判断能力Ⅰ 履修 看護臨床判断能力Ⅱ 履修 看護の統合と実践Ⅱ 履修</p>						
テキスト・参考書	<p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 看護技術論Ⅰ 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院</p> <p>その他、受け持ち患者を理解し、看護を考えるために必要な教科書・参考書</p>						
評価方法	実習評価表 参照						

